

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本免疫学会	15
日本動物学会	12
日本農芸化学会	10
日本RNA学会	8
日本ウイルス学会	6
日本バイオインフォマティクス学会	6
日本薬学会	6
日本蛋白質科学会	5
日本人類遺伝学会	4
日本生物物理学会	4
日本放射線影響学会	4
再生医療学会	3
生物物理学会	3
日本エピジェネティクス研究会	3
日本植物学会	3
日本進化学会	3
日本生理学会	3
ASBMB	2
RNA学会	2
バイオインフォマティクス学会	2
日本ウイルス学会、日本肝臓学会	2
日本がん分子標的治療学会	2
日本プロテオーム学会	2
日本環境変異原学会	2
日本環境変異原学会、日本放射線影響学会	2
日本再生医療学会	2
日本細菌学会	2
日本蚕糸学会	2
日本神経化学会	2
日本薬理学会	2
農芸化学会	2
American Society for Microbiology 日本細菌学会 日本微生物生態学会 日本歯科保存学会 Bacterial Adherence and Biofilm	1
ASCB	1
ASCB, SFN	1
Genetic Society of America	1
Japan society of AIDS Research	1
NGS現場の会	1
SFN, 日本薬理学会	1
Society for molecular biology and evolution (SMBE)	1
ウイルス学会、インフルエンザ研究者交流の会	1
ウイルス学会、獣医学会	1
エピジェネティクス研究会、NGS現場の会	1
がん学会、ASCB, AACR	1
グルコサミン学会	1
ゲノム微生物学会	1
モデル生物丸ごと一匹学会	1
解剖学会	1
血液学会、免疫学会、米国細菌学会、米国血液学会、国際実験血液学会など	1
顕微鏡学会、生物物理学会	1
現在は所属していない。	1
酵母フォーラム	1
酵母遺伝学フォーラム	1
国際幹細胞学会	1
再生医療学会 皮膚科学会	1
歯科基礎医学会、口腔組織培養学会	1
時間生物学会	1
質量分析学会 エピジェネティクス研究会	1
植物化学調節学会、日本植物学会	1
植物学会	1
植物学会藻類学会 日本生物工学会	1
植物細胞分子生物学会、農芸化学会	1
神経化学会、解剖学会	1
進化学会、ゲノム微生物学会	1

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
進化学会、植物生理学会、育種学会	1
進化学会、動物学会	1
人類遺伝学会、育種学会、	1
生理学会、糖尿病学会、肥満学会、内分泌学会	1
蛋白質化学学会、日本分子生物学会	1
蛋白質科学会、免疫学会、生物物理学会、生物工学会	1
糖質学会	1
動物学会	1
動脈硬化学会、薬理学会	1
日本cell death学会	1
日本RNAi研究会	1
日本RNA学会、ASCB、RNA Society	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本進化学会	1
日本アレルギー学会日本免疫学会	1
日本インターフェロン・サイトカイン学会	1
日本ウイルス学会、日本獣医学会	1
日本ウイルス学会、日本臨床ウイルス学会	1
日本エイズ学会、日本ウイルス学会	1
日本エピジェネティクス研究会、日本プロテオーム学会	1
日本ゲノム微生物学会	1
日本ゲノム微生物学会、日本細菌学会、日本進化学会、日本ヘリコバクター学会	1
日本の学会にはとくに所属しておりません。	1
日本育種学会	1
日本育種学会 中国四国植物学会	1
日本育種学会、日本作物学会	1
日本育種学会、農芸化学会	1
日本宇宙生物科学会、軟骨代謝学会	1
日本栄養食糧学会	1
日本化学会、RNA学会	1
日本化学会、DDS学会	1
日本化学会、バイオインフォマティクス学会、CBI学会、遺伝子診療学会	1
日本化学会、日本結晶学会、日本蛋白質科学会	1
日本家禽学会日本家禽学会日本栄養・食糧学会	1
日本家族性腫瘍学会、日本臨床検査医学会、日本遺伝カウンセリング学会	1
日本環境変異原学会、日本毒性学会	1
日本結合組織学会	1
日本結晶学会日本蛋白質科学会日本農芸化学会	1
日本血管生物医学会、日本リンパ学会、日本形成外科学会	1
日本顕微鏡学会	1
日本骨代謝学会、アメリカ骨代謝学会	1
日本時間生物学会	1
日本実験動物学会	1
日本獣医学会	1
日本獣医学会、日本血栓止血学会	1
日本植物学会 RNA学会	1
日本植物学会植物形態学会	1
日本植物学会数理生物学会	1
日本植物病理学会、日本土壌肥料学会、日本農芸化学会、American Society of Plant Biologists、日本植物細胞分子生物学会、植物化学調節学会、日本菌学会	1
日本神経化学会、日本神経科学学会、北米神経科学会	1
日本神経化学会、日本再生医療学会	1
日本進化学会、日本バイオインフォマティクス学会、RNA学会	1
日本進化学会、日本霊長類学会、日本人類学会、日本比較生理生化学会	1
日本人類遺伝学会、日本遺伝子診療学会日本遺伝子治療学会、米国遺伝子治療学会日本小児科学会、日本先天代謝異常学会など	1
日本水産学会	1
日本生物工学会	1
日本生物工学会、日本時間生物学会	1
日本生物工学会、日本蛋白質科学会	1
日本生物工学会、日本農芸化学会、日本きのこ学会、糸状菌分子生物学研究会	1
日本生物物理学会、日本バイオインフォマティクス学会	1
日本生物物理学会、日本生物工学会	1
日本生物物理学会日本蛋白質科学会	1

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本生理学会、SFN	1
日本生理学会、日本生物物理学会、日本神経化学会、北米神経科学会	1
日本組織適合性学会、DNA多型学会	1
日本体力医学会、日本運動生理学会	1
日本蛋白質科学会、日本RNA学会、日本ゲノム微生物学会、極限環境生物学会	1
日本蛋白質科学会、日本生物物理学会	1
日本蛋白質科学会、日本結晶学会	1
日本畜産学会、日本繁殖生物学会	1
日本土壌肥料学会、日本農芸化学会	1
日本糖質学会、ウイルス学会	1
日本動物学会、日本応用動物昆虫学会	1
日本動物学会、日本生物物理学会	1
日本動物学会、日本比較生理学会	1
日本毒性学会	1
日本毒性学会 日本研究皮膚科学会 日本蚕糸学会	1
日本内科学会、日本循環器学会、日本薬理学会	1
日本内科学会、日本薬学会	1
日本脳神経外科学会	1
日本農芸化学会 米国微生物学会	1
日本農芸化学会、日本ビタミン学会、日本栄養食糧学会	1
日本農芸化学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本光合成学会	1
日本農芸化学会、日本獣医学会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、日本薬学会、日本質量分析学会	1
日本農芸化学会日本生物工学会	1
日本繁殖生物学会	1
日本皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、欧州研究皮膚科学会	1
日本肥満学会	1
日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本がん検診学会、日本獣医腫瘍学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科学会、家族性腫瘍学会、日本大腸肛門病学会、日本肝臓学会	1
日本物理学会、日本放射線安全管理学会	1
日本物理学会、日本科学会、日本生物物理学会、日本分子科学会、日本蛋白質科学会、日本情報処理学会	1
日本分析化学会	1
日本免疫学会、日本リウマチ学会、日本耳鼻咽喉科学会	1
日本免疫学会、日本腎臓学会、日本病理学会、日本医科大学医学会	1
日本免疫学会、日本内科学会	1
日本免疫学会、日本内科学会、日本リウマチ学会	1
日本免疫学会、米国血液学会、国際幹細胞学会、国際実験血液学会	1
日本免疫学会日本アレルギー学会	1
日本免疫学会日本放射線影響学会	1
日本薬学会、日本RNA学会	1
日本薬学会、日本栄養・食糧学会	1
日本薬学会、日本炎症再生医学会	1
日本薬学会、日本薬物動態学会	1
日本薬学会、日本薬理学会、日本RNA学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本薬理学会、日本癌学会	1
日本薬理学会、日本実験動物学会	1
日本薬理学会、日本認知症学会	1
日本臨床遺伝学会	1
農芸化学	1
北米神経科学会	1
北米神経科学学会	1
免疫学会	1
免疫学会、農芸化学会	1
薬学会	1
薬学会、薬物動態学会、毒性学会、薬剤師会	1

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	分子生物学に携わるすべての常勤研究者が公金詐取の連帯責任で訴えられてもおかしくないようなレベルの不祥事が起きている状況で、普通の学会を淡々と行うことが許されるわけがない。
※	1	学術研究発表に専念するならば、小規模の学会の方が綿密な議論が可能です。巨大会にしかできないことにチャレンジすべきだと思います。
※	1	2つの課題に対しての実験的な企画を同時に実施するのはこのくらい大きい学会でないといけないと思うから。
※	1	年会長を始め関係者の方々の苦労は大きかったと思いますが、巨大会だから出来る様々な企画は良かったと思います。
※	1	社会の学会に対する見方が、変わってきている。研究の世界への力のある参加者が減ってきているので、次世代を育てる意味でだいじだと思う。
※	1	いろいろと新しいことを試みることはいいことだと思う。ただし、今回の企画には参加はしていないので、評価はできないが・・・。
※	1	今までタブーとされたいた研究者自身の倫理観を議論できたはよかった。学内ではこのような話をすると煙たがられる。
※	1	最近、分子生物学会に参加していなかったが、今年は配信メールに刺激されて、研究者社会の問題を何度も考えることができた。学会員であることを意識して、共通の課題を日本全国の会員と
※	1	年会長メールにありましたように、巨大会の存在意義を考えたとき、研究集会プラスアルファを求めるのは納得でき、プラスアルファの中身として、意義深いものと思います。
※	1	様々な新しい試みに挑戦して行かなければ、今回の会頭がおっしゃる通り、分子生物学会は衰退の一途をたどると思います。分子生物学会は、現在非常にバリエーションに富んだ集団になりつつあると思いますのでそれらのメンバーそれぞれが自分たちの特色を生かして、それぞれのカラーを出せる場であるためにも、学会に色んな側面を持たせることは有意義だと思います。
※	1	研究成果が一義的であるが、若い人に対して楽しいことをアピールすること、一般の人に対するアウトリーチも大事
※	1	学会長の意見に全面的に賛成
※	1	新しいことにチャレンジすることは、とても大切だと思います。
※	1	毎回やれる事ではないと思うが、今回の大会では4日目の催し物が秀逸だったと思う。
※	1	面白かったから。
※	1	学術講演に影響が出ないのであるなら、こういった企画はよいと思います。
※	1	とにかく面白かった。巨大会だからこそ、領域を越えて研究者が交流できる場を提供できる。今回はその役割を見事に果たされたと思う。
※	1	科学と社会との関係、また研究者社会の課題といったところは実は研究者となる入り口からの教育が必要だと考えてきた。意識のある方々が発信することで全体のレベルが上がり、ひいては研究環境の向上等にも繋がり、それが研究成果に繋がっていけばプラスの連鎖が期待できるのではないかと。
※	1	巨大会の存在理由や価値を考えぬいた近藤先生の理念にここから同意します。サイエンスは本来楽しいもので、芸術の一つと言っても過言ではないと常々私は考えております。
※	1	本来の研究内容がどの分野もかなり煮詰まってきたように思うから。大きなトピックスがなく、関係者以外は興味を持たないような細かい内容に傾いている印象があります。
※	1	分子生物学会の様に、人材が豊富な大きな学会が率先してアウトリーチを行うべきと考えるから。
※	1	挙げられた2つの核について何も考えず、ただ「良い研究してるだからお金ちょーだいよ」と国に要求するだけの、ガキんちょ(ただし大人の駆け引きも知っている、というもっとも醜い)研究者が多いから。ただ、そういう連中が、今回の企画で目が覚めたかという...、うちのボスを見た限りでは、まだまだ治療が足りない気がする。
※	1	閉塞した状況を打破しなければ、分子生物学会も生化学会のように落ちぶれる
※	1	1、2ともに日本のライフサイエンス研究者が常日頃意識し、自己の行動に反映すべき問題であり、分子生物学会のような大きな学会でこそ、コンセンサスが模索できる機会を提供できるから。
※	1	日頃考えていることを、ガチで討論する機会は、これからもあったほうが良い。
※	1	実験とおなじようにいろいろと新しいことを試して行くことでよりよいモノが出来ると思うから。
※	1	成功・失敗を問わず、何かを変えようと大きな試み続けることにこそ意味がある。いつかきっと新しい芽が出ると信じる。
※	1	今回の取り組みは非常に重要であり、学術だけでなく、社会の中での役割、基盤の整備(問題解決)に対してモーションを起こした点について高く評価し、感謝している。
※	1	分子生物学会にしかできないことであり、これまで明確に科学者が積極的に意見を自ら発信したことはないように思える。
※	1	最終日までイベントが目白押しでじっくり参加できました。
※	1	ガチ議論での議論の内容が濃密だったことと、研究者と社会との接点について研究者側の自覚が非常に甘いことを強く自覚することができたから。
※	1	・とかく視野の狭い考え方に陥りがちな研究者に広い視点を提供できたと思います。・サイエンスセッションは、大抵どこかで同じような話が聞けるので、今回の企画は「面白そうだから行ってみようか」という学術集会参加の大きなモチベーションになったと思います。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	新しい学会のあり方、可能性、学会はここまでできるんだ、という姿を見せてもらえたと思っています。恐らく賛否両論あるかと思いますが、私は今回のコンセプトに賛成しますし、継続・発展させていっていただきたいと思います。
※	1	今回の大会は学会企画が面白く、学術以外の部分で大いに楽しめた。学会に参加して学術以外でこれほど楽しめた学会はなかったと思います。
※	1	企画がカジュアルだった点が特に良かった。参加しやすいため。
※	1	学会関係者がみんなで意見交換できることはよろしいかと思えます。
※	1	ポスター会場でジャズが流れているのは良い雰囲気だった。4日目の企画も楽しませてもらった。
※	1	会場にジャズが流れていたり、アートが掲載されていて、雰囲気が良かった。
※	1	あまり関連の集会に出なかったのだから分かりませんが、文科省の方等との公開討論は良かったです。
※	1	楽しかった
※	1	科学コミュニケーションを専門としています。アウトリーチ活動は暇な研究者が、あるいはボランティアでやるもの、という意識を持つ研究者がまだいます。学会全体として今回のような様々な方法で社会との接点を持つべきだというメッセージがでることは、とても私たちのような立場の人間にもありがたく思いました。
※	1	現在のアカデミア界、分子生物学会が抱える問題点に対して解決策を模索するという意味と、新しい風、刺激をもたらすという意味で、大変良かったと思いました。
※	1	「学術講演以外はするべきではない」と回答する人間だけに任せた結果として分子生物学会のような大きな学会がつまらなくなったのだから、状況を打破するために今回のような試みはいずれ必要であった。
※	1	参加できるかどうかは別として、色々やるのはおもしろくていいと思う。
※	1	ガチ討論や大昼食会など、大きな総会でシンポジウム以外の企画を行うのは大変有意義だと感じました。音楽やアートなども大変面白いと思うのですが、同窓会的にならない様に(との文があった気がするのですが)に対しては、逆にイベント的になってしまう気もしますが、サイエンスアウトリーチに関してはそもそも、研究最先端を一般市民に伝えたいといけないう点が議論の余地があると思うので、その意味では(2)についてはなくても良いかなと思います。
※	1	大きな学会の使命の模索として試みてほしいから。
※	1	研究者は通常社会経験が少なく、視野が狭くなりがちであり、多くの問題はここに端を発していると感じます。研究業績や研究者としての肩書きを測る尺度以外の価値観を持っていないから、不正が起こるのです。若い人は、研究に関わること以外の価値観をできるだけ多く身につけることが必要です。このように、常識ある社会人としての振るまいを身につけるには、視野を広げる努力が絶対的に必要で、そのためには、研究以外の経験や、まったく違う世界の人との交流が欠かせません。本当は、研究に費やす時間を削ってでも、そういう経験をすることが必要なのです。そのための試行であれば、どのような催しでも有効と思います。
※	1	変革を求めるとなれば、新しいことに挑むのは当然ですし、その努力を行ったということで評価できると思う。
※	1	1. 事前に議論する場をウェブ上で設けるのは良かった。2. 見ていないのでわかりませんが、内輪で盛り上がっているだけじゃないのかなという気がしないわけでもありません。アウトリーチの本来の意味は何なのでしょう。
※	1	閉じた系(学術講演のみ)では情報伝達効率は上がるかもしれないが、発展性に乏しいと考えるため。
※	1	近藤さんが言うとおり、学会は、研究者社会から一般社会への重要な発信源としての役割を果たすべきである。
※	1	研究分野が広いと、こまかい研究についてはそれぞれ専門の学会なり研究会でやればよい。さまざまな企画が行われ、今後どういかにされていくかはわからないがとてもよい試みだったと思う。
※	1	研究者社会の問題は年月をかけてきちんと話し合われるべき問題だと思うし、アウトリーチに関しては、参加者としても楽しめたいし、分子生物学という名前を広めてもらっただけでもよかったのでは？
※	1	研究者個人ではできることに限界がある。学会が音頭をとって研究者の意見をまとめることは評価できる。
※	1	サイエンスをアートで表現することで、一般の人にもなじみやすくなると思う。
※	1	今年のような年会は非常に意義のあることだと思います。近藤大会長の意気込みに感化されて、私自身が大会運営の当事者であるかのように、一緒に大会を盛り上げたいと思うまでに至りました。このような大きな学会であるからこそ、思い切って突き抜けることが出来るし、また、その必要があると思います。
※	1	今までと違って変化があっただけ楽しかった。どんどん色々な企画をやるべき。
※	1	一般社会からの理解と支持あってこそ、研究者コミュニティの成立しえることを意識していかなければならない時代であるから。
※	1	研究者も社会の一部なのであるから、一般社会に関与すべきだと思います。エセ科学の否定や、科学教育・研究の重要性のための情報発信など果たす役割は大きいと思う。
※	1	新しい試みも多く、特にニコニコ動画の反響が大きかった(分野外の研究者に話題に出され驚いた)ので、良い試みに感じた。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	社会問題の解決に向けた試みとして、高く評価したい。生命科学をはじめとした研究を発展させたいならば、現状の雇用問題、男女共同参画、子育て支援や育休の充実などが絶対に必要だと思う。それらを研究者たちの中の嘆きで終わらせず、社会問題として世間に広く発信していかないと、結局「研究がよっぽど好きなんだね・・・」と無関心に受け止められてしまうことを実感しています。今回は行けなかったけれど、機会があったら是非この問題の解決に向けて努力したいと思った。
※	1	今回の年回は、会員の意識改革と社会へのアピールにつながるものと感じました。学術講演以外はしないというのは、今後は通用しなくなるのではとも思います。
※	1	巨大会会の意義や、市民へのアプローチという意味で賛同できる。
※	1	そのような取り組みが研究者に求められており、その必要性も理解できるが、実際には研究者が個々に取り組むには限界がありまた効果も薄い場合が多いと感じている。学会という単位で取り組み、会員は大会への参加等を通して貢献をするというのでもいい形だと思う。
※	1	広い分野からの会員が集まっている学会だからこそ、そのような大きなテーマの企画をやるべきだと思います。ぶっちゃけ、本当にコアな専門分野の話は、もっと規模の小さい研究会か学会でもできるので、分生ならではの特色を生かして欲しいです。
※	1	(1)については参加していないので分からない。(2)については、一般の人のサイエンスに対するハードルが下がったという点で良いと感じた。また、アートや音楽、あるいは昼食会といったイベントを通じて、研究分野という枠を超えて知り合いが増えることは、個人レベルで見てもいいことだし、サイエンスをする人達というレベルで見ても、新しいシナジーを生み出すことが期待されるという点で良いと感じたから。
※	1	「研究者でない人にも興味を持ってもらう」ということの重要性を感じられたから。
※	1	社会とコミットするのは当然なので、今まで無かったのがおかしいくらいです。
※	1	研究全般における問題意識を高められたと思う。
※	1	変革を常に意識し、それだけでなく実際に実行し、チャレンジすることが重要と思うから。
※	1	研究者全体で研究環境をより良い方向に変えていこうという意識が学会を通じて広がっていくような印象を受けたためです。
※	1	年会自体、非常に元気があった気がする。
※	1	学会全体が盛り上がったと思う。研究発表だけでは得られない熱気と挑戦を感じる大変充実した年会であった。
※	1	税金を使って研究している以上、研究者以外にも研究の内容に興味を持ってもらって伝えることは研究者の使命だと思うから。
※	1	研究者は、社会との関わりを求められているので。
※	1	研究発表以外の楽しみを年会に与えた。それらが、従来の研究発表に対しても、閉塞感を打破する自由な雰囲気を与えたように思う。
※	1	少なくとも何もしないよりはまだいい。
※	1	今までにない楽しい学会だった。楽しいのはいいことなので今後も続けて欲しい。
※	1	多くの学会が日本に存在し、またインターネットの普及している状況の中で、研究に関する情報交換を分子生物学会で行う重要性が以前よりも薄れているというのは確かであり、参加する意義があるのかどうかと実際に悩んでもいた。近藤滋年会長を初めとした組織委員の御尽力により新機軸が打ち出された本学会は、学会のありかたを考え直し、かつ今後発展させる方向性を学会員1人1人が考える良い機会になったのではないかなと思う。
※	1	マンネリ化した巨大会会に新しい風を吹き込んだと思います。最近、年会に参加しないことも多くなって来たのですが、今年はいってよかったと思いました。
※	1	幅広い年齢層や分野の人々が多く集結する年会だからこそ、今までにない企画をやることで、様々な意見を一度に聞くことが出来ていいと思います。
※	1	学会長の先生というこれまで雲の上の存在でしたが、近藤先生のお人柄やお考えが共有されて、これまでの学会にない新しい取り組みが実現したのが素晴らしいと思いました。最終日の大昼食会は実験の都合で参加できず残念でしたが、企画のセッションなど、とても勉強になりました。JAZZのメンバーの方々が学会員の方で構成されていたのも良かったです。またこれからも、分子生物学会から日本の学会に新たな風を起こしてほしいです。どうもありがとうございました。
※	1	(1)、(2)何れに関しても、まずは、トライをしたことは大きな成果だと考えられるから。(1)に関しては、必ずしも満足のいく形での議論の展開とはならなかったが、こうした活動を本学会の関連するテーマに関して行い続けることは、大型学会としてあるべき姿だと考える。
※	1	分子生物学会のような大きな学会では、異分野の研究者が多く参集することから、単に学術講演だけを行なっているのは細分化された専門分野の学会と変わらない。大きな学会ならではの活動が必要と思われ、分子生物学に携わる研究者の共通の興味(学術以外)についてのセッションは毎年一定数あって良いと考える。
※	1	新しい試みで、これからの学会のあるべき姿を見た。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	研究者社会の問題は大いに扱うべきだが、単なるお祭り騒ぎならしない方がよい(時間の無駄だ)。多様な意見が品格を持って受け入れられないのは大きな問題。議論になっていない。陰で潰し合っている陰湿さが垣間みられた。長年に渡り仲間内だけで理事を回しているのもどうかと思う。すべてが理事や理事会のための学会にみえる。ということが表面化し、改善点を明確にできた(まだ不十分だが)企画としては悪くない。
※	1	なかなかそのようなテーマで議論する機会がないため。
※	1	最近の学会は、マンネリ化している様な気がしていたから。
※	1	研究不正等の問題は皆で話し合うべきだと思うから。
※	1	そのような課題を議論できるのは分子生物学会だけだと思うから。
※	1	年会の本質をわからずにただ「ふざけすぎだ」などほざいていた老人はさっさと引退すべき。
※	1	内容の是非はあるが、どの学会も似たような内容、新興国に遅れをとる日本のガラパゴス化した閉塞感を打破しようとしたことに意味があると思う。日本中の学会および研究集会は、既に世界から大きく遅れた日本の学術集会環境を直視した上で、今まで通り、変える、どのように変えるか、それぞれが考える時期にあると感じる。
※	1	閉塞感の打破につながる可能性を感じたから
※	1	研究の発展のためには、研究者が社会との連携を深め、社会の理解と指示を得る必要がある。
※	1	とても忙しかったが、それぞれの企画にチャレンジが見えたし、その中から研究世界でどのように生きていきたいかをいろいろ考える機会に恵まれたから。学会を積極的に「出会いの場」とする姿勢は良かったと思います。
※	1	アウトリーチ活動は硬軟取り混ぜて、今後もっと盛り上げていってほしいと思う内容でした。jazzやアート作品の展示販売は1箇所に集めて美術館のような空間を作り、その会場には参加証を持たない一般の方も入場できるようにすればいいのではないかと思います。
※	1	上記のチャレンジは、研究者の社会における流動性を提供できる機会を提供できるような気がしたため
※	1	我々の持つ共通な問題はいずれ解決・改善する必要があり、それに触れたことはとても良い機会だったと思うから。
※	1	今までにない学会を創っていくうえで良いと思う。
※	1	研究問題は確かに存在しており、それを学会が無視する状況は自己矛盾。今年の企画はいずれも意義がある。継続すべき。サイエンスのアウトリーチは、全参加者に課してもよい。
※	1	学会の存在意義に立ち返り、「巨大会会ならではできるところ」を考え抜き、それを実現してしまったのは、やはりすごいと思います。課題(1)(2)へのチャレンジに、大いに賛同します。
※	1	楽しかった
※	1	年会長が言われたように、学会、特に分子生物学会のような大きな学会の役割というのは変わりつつあるのではないかと感じます。学会では例年通り研究発表も行われました。上記の内容に興味が無い人は参加しなかったと思われますし、参加しても他のセッションにさしきわらない時間帯で行われました。分子生物学会では演題数が多いため他の小さな学会のように全ての内容をカバーするのは不可能です。今回のイベントも、個人の興味の程度で参加不参加を考えていくようなもので、私の場合は非常に興味がある点であったので良かったと思います。
※	1	研究者社会での分生の役割を、よく理解したコンセプトだと思う。学術講演を聞きたい・話したいならもっと細分化された、小さい学会なりシンポジウムなりでガッツリやるべき。分生は祭り。
※	1	研究者社会の問題やサイエンスアウトリーチを議論する場として、年會が適當。
※	1	小さな学会の年會では、学術講演が主になると思うし、それ以外は難しいと思うが、分子生物学会のような大人数学会では、そのような企画も可能であろうし、新しい企画への挑戦という姿勢を評価したい。
※	1	毎年あそこまでやらなくてもよいが、ああいうことができるのは巨大会会たる分生だけだと思うので、やるなら分生でやるのが良いと思われる。
※	1	ただ研究して、それを仲間内で成果を教えあうだけでは、社会への貢献が感じ取りにくい、今回のような企画をすることによって、広く社会に情報を伝えることによって、少なからずとも社会との繋がり、社会への還元が初めてできるのではないかとと思うので、今回のような企画は続けていってほしいです。また研究者社会の問題解決に関しても、とても良い企画かと思いました。このような企画を行うだけでなく、実現化し、本当に今ある問題を解決して欲しいです。「企画して、その会を開くだけで終わり」というものではあってほしくないです。
※	1	研究の領域を超えた様々な価値観を再確認できた。
※	1	試みは面白いし、話題にもなった。
※	1	巨大会会のありかたに関する年会長の考え方にはおおむね賛成。
※	1	分野に偏りのない大きな学会なので、意見を発したり成果を公表したりするのは意味があると思います。
※	1	結果の賛否は別として 初の試みとして あれだけ多くの斬新なイベントを実行したのはよかったと思う。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	「研究者社会の問題解決」を議論する場がない。これは、おそらく学会が行うべきことである。研究者社会の問題は山積しており、「学術講演以外はするべきではない」といっている場合ではない。今回の学会はその意味で画期的。近藤大会長に最大級の賛辞を送りたい。
※	1	近年、サイエンスにおける学会の在り方に注目が集まっている。その中で、学術講演以外のイベントを開催することで参加者に対して研究費や不正について情報提供していただけたから。
※	1	最近の研究者の不祥事に対する他の先生のお考え方を聞くことができた。
※	1	大きな学会の役割として、学術講演以外の部分が大きくなって良い時代であると思われま。研究者の内輪の世界は通用しない時代であり、社会の皆様の理解を得られなければ学術分野は減びると思います。従って、大きな学会の役割として、研究者の啓蒙と社会に対して積極的にアピールするのは当然のことと思います。学術的な議論を深めるには小さな学会や研究会が本質的に担いやすいことは自明であり、今後において役割分担が進むことを期待します。鷹の目(研究の流れをつかむ)は大きな学会で、虫の目(研究を深める)は小さな学会でが理想と考えます。
※	1	研究者社会には多くの問題があり、研究者が一同に会する場でそれらの問題を議論するのは当然のことである。また、2050年シンポは面白かった。面白いことで、やらないほうがいいのは、法に違反することくらいだ。
※	1	新しい事に挑戦するのは良いことだと思われるので。
※	1	大会委員長のコンセプト通り、巨大会会ならではのコンセプトが非常に面白かった。
※	1	巨大会の役割について、12月13日配信の年会長メールの内容に賛成であるから。
※	1	そのような学会はこれまでなかったから。
※	1	非常に面白かった。
※	1	学会、特に分生のような大きな学会では様々な研究者が集まる。その際に、学術的なことを論じるのも重要であるが、「研究者」というものがなにをしているのかを広める必要もあると考える。様々な分野・立場の人が集まったからこそのことをするのがよいと思うので、今回の取り組みにはとても賛同した。
※	1	研究者育成・就職支援の場になるから。
※	1	学術講演の合間に、息抜きとして適度に楽しめた。
※	1	ポスドク、ドクターの学生にとっては就職活動はなかなか大変なところがある中で、学会に参加しながら就職活動について考える機会があって、今回大変助かりました。
※	1	学会会員が、研究者社会の諸問題を考え、それに対する解決策を導く努力をすることは、最終的に日本の科学研究の発展につながっていくと考えるため。
※	1	結果がどうだろうが、問題を解決するために実際にアクションを起こすことは大事だと思います。
※	1	年会長のメールの内容に全面的に賛同します。あえて一つあげれば、巨大会会にしかできないことは例えばこういうことなのだと思います。まだまだチャレンジは始まったばかりだと思いますが。
※	1	学術講演だけでなく、もっと小規模な学会で事足りることがほとんど。今回の年会は、マンモス学会の強みを活かしていたと思う。
※	1	毎年企画するのではなく、隔年くらいが適当だと思います。
※	1	巨大会は発表によって自分の研究が評価されるような認知の場として弱く、発表として魅力的な場でないという事実より学会としての意義や評価が低下するのは避けられないと言う点は共感します。それを踏まえて、本年は巨大会として何か出来る事と言う問いに、色々な試みの一環として取り組まれたイベントは問題提起という点からも良かったと思います。しかし発表の場として魅力をどう上げるかという点はまだ未解決であり、海外ポスドクの招聘などの取り組みもありましたが、この点については巨大会では限界があるのかも感じます。
※	1	(1)も(2)も、わずかな人数で行くと、できることに限界がありますし、どちらも体力の要る活動ですから、「学会でみんなで」というのはいい挑戦と思いました。
※	1	研究者の組合が必要。幅広い層の意見を取り入れるには大きな学会が担うのは理にかなっている。
※	1	学術的な議論はもう少し小さな学会や会合でもできるが、今回のような企画は大きな学会として、会員の研究生生活のモチベーションを高める為の、新しい可能性、方向性を示す上で、意欲的な実験だったと思う。
※	1	内向きで研究をしていたら、他の科学技術や経済活動との競争に負けてしまうし研究分野や研究従事者の存在意義が問われる時代だから。
※	1	純粋な研究だけでなく議論しなければならない重要な問題が研究者の社会にはあり、学会への参加者もその問題に大きな関心を示しているから。
※	1	学術講演のみでは、このように大きな学会を行う意義が少ないと考える。自身の専門分野のみのコミュニティであれば学術講演のみでも構わないが、様々なバックグラウンドを持つ研究者が集まるのだから、研究者の様々な問題について話し合うことはよい機会になると思われる。また、アウトリーチ活動は個人の裁量に任せるだけではなく、やはり研究者たちのコミュニティでもって行うものであると考えるので、今回の年会は非常に素晴らしいものであったと感じた。
※	1	大規模学会としての使命を考えてのことだから。一昨年と昨年の年会は失敗していた。今年はやっと相当まともになった感を持った。
※	1	いい退屈しのぎになった。いい思い出作りになった。
※	1	巨大会だからこそ可能なこと、を今回参加して私も実感できたので。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	新鮮だった
※	1	アウトリーチの核としても学会は存在していくべきと私も考えているし、大きな学会だからこそできることを年会長は考え実行してくれた。公開プレゼンテーション企画など、有意義だったと思う。
※	1	実際に参加して、今までにない会員間交流を行うことができ、年會に参加する意義を実感できたから。
※	1	多くの情報が簡単に取得できるようになったので、学術講演だけでは、もうあまり学会をやる意味はないと思っているため。
※	1	幅広い企画があることによって、講演以外にも、研究者同士あるいは一般の方との接点が広がる。
※	1	学会は雰囲気がおかたいイメージが強く、自分の発表機会がないと参加するつもりにはならないが、今回のように様々な親しみやすい企画がたくさんあると、自分の発表がなくても行ってみようという気になるので。
※	1	アートの要素や、研究業界での問題を見える形で議論したことが画期的な出来事だったから。
※	1	研究社会は自分たちの所属する社会であって、自分たちで管理、運営に関与していく必要があると考える。問題は限られた時間で各々の研究者がそのためにどのように時間を確保し、研究とのバランスを取っていかなくてはならないか。「(1),(2)が研究者の義務である」とするならばやはり必要であるし、それよりも「研究に対する時間が何よりも大切である」と考える研究者もいらっしゃるのではないかと。そのバランスをどのようにとっていくかが、今後の課題であり、今回の企画はよいきっかけになったと思います。
※	1	具体的に何をしていたかはわからなかったが、コンセプトを立ち上げたことには賛成。
※	1	他の学会にはない個性を出せたと思うし、アウトリーチにいろいろな形があることを具体的に示せてよかったと思う。
※	1	例年のマンネリ感が打ち破られた気がする。大きな学会規模のアウトリーチ活動は今後も行うべき。アウトリーチとしての効果はどうだったのでしょうか。
※	1	とりえず個人レベルでの意識づけの機会を与えたのではないかと評価する。
※	1	ガチ議論の模様をu-streamで視聴して、研究者コミュニティに対し研究者自身のすべきことがあることを知ったから。
※	1	Jazz演奏は、豊かな気持ちにさせる点で良かった。
※	1	趣向を凝らしていると感じた。
※	1	学会の存在意義について正面から取り組むのは重要であるから。
※	1	実際に参加してみて、研究者社会の問題を解決するには、まず研究者自身が団結する必要がある、巨大な学会はその役割として適切であると考えたから。
※	1	問題を認識していながらそれを話し合う場がなかなかなく、今回の年会のように多くの研究者が集まる場で並行して開催してもらえると、参加しやすいと思います。
※	1	学会が後押しすることで、研究者の意識が変わることが期待できる
※	1	学会に活気が戻ったと感じたから。
※	1	分子生物学会のような大規模・多分野融合の学会でない、こういった大きな問題は扱えない。ただ、企画の時間帯は、ほかの学術講演に支障がないよう設定すべきだと思う。
※	1	同分野の研究者同士がプレゼンしあうだけではなく、背景の異なる多様な人々に研究の成果や価値を訴求することは今後ますます重要であり、分子生物学会のような大型の学会では特にそれが強く求められると考える。それには大胆な演出というべきものも必要であり、今回のいろいろな試みは方向性として極めて正しいと考える。科学行政の専門家を招いてのシンポなど、今後も継続されることを強く期待したい。
※	1	すべての学会が今年の分生のような必要はないと思うが、アートや音楽など、研究者の方々の普段見られない姿も見ることができたのがよかったから。
※	1	非常に有意義な時間を過ごせました。特にガチ議論は、多くの若い研究者と今後の日本科学技術について様々な意見を聞く事が出来ました。
※	1	研究を行っていく上で、直接研究に関係すること以外でも様々な問題に直面する。研究における不正防止やアウトリーチ活動などの問題はその一部であり、多くの研究者は一度は考えたことのある問題だと考える。そのような問題について学会という多くの人が集まる場で議論することは大変意味があると感じた。
※	1	新しい試みにチャレンジしてみることは大事なことで、次年会の際に今回の成果が見えてくると思う。学会は参加して、自分の成果を発表し、新しい情報を持って帰る場(つまりお客様)と考えていたが、今回は、学会とは皆で作上げる場であることを学んだ。学会が抱える課題をタダの参加者も考えなければならぬことが身にしみました。
※	1	すばらしい。革命的な年会でした。年会組織委員の関係者に感謝致します。(1)特にガチ議論と研究不正。大学や研究環境の問題は、お役人や政治家ではなく、むしろ研究者の側に根深く蔓延しているものからくるということがよくわかった。こうした取り組みこそ、大きな学会で根気よく続けるべき。(2)これまでの年会にはアウトリーチというものは存在しなかった。36回年会にて、実効性のあるアウトリーチがはじめて出来上がったのではないのでしょうか。
※	1	Good tryであったと思います。結果的に今回の学会でしか得られない情報も多く興味深いものでした。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	現在の科学界を取り巻く環境を考えると、本年会のようなコンセプトの元、学術講演以外の企画を考えることも必要だと思う。賛同の可否は研究者ごとにまちまちなので、賛同できる人を取り込む母体となってほしい。
※	1	年に一度の学会で学術講演しか行われないうのは非常にもったいないと思われま。今回のようにいくつかの「息抜き」とも言うべきイベントがあることは非常に良いと思いました。
※	1	ガチ議論、最終日の催し物、ともにおもしろかったから。
※	1	ややマンネリ化している印象があった分子生物学会に新しい風を起こしていただきありがとうございました。楽しかったです。
※	1	最終目的は、研究者が学会という場で分野の垣根を越えて議論したり意見交換する場として機能するかということであると考えるため、参加しようという気持ちになる魅力的な学会を模索するのは賛成である。
※	1	日常では、なかなか考える機会がないので、学会等から発信して頂けると、他大学や企業の取り組みも知ることができるから。
※	1	どちらも重要性は認識されているが避けられがちな課題なので、学会で取り上げることに賛否両論あると思うが、プラスにせよマイナスにせよそうした反応をみることで意味はあると思う。研究者社会の問題に関しては、自身これまでまったく関心がなかったが、年会の企画によってこれまでの態度を改めようと思うきっかけになった。
※	1	いつでもおりの学会で必要なことは最低限満たされているとは思いますが、何か研究や学会のあり方、サイエンスというものの意識を変えていきたいという姿勢がよく伝わったから。
※	1	巨大会会の在り方として良い方向だと思います。
※	1	海外ポスターの件については、非常に良いという意見を耳にした。また、バイオインフォマティクスなどのディスカッションの場を設けたことについても、有意義であったと感じた。しかしながら、その他の点に関しては、単なる「遊び」というようにも捉えられても仕方がないのではないかと感じる。
※	1	一気に様々な分野の話を集約して聞くことができると感じたから。また、私のような学生でも目上の方に気軽にポスターなどでアドバイスをいただき、今後の研究のアプローチの仕方のヒントを得ることができました。
※	1	海外ポスター招聘企画に選んでいただき参加しました。この企画がなかったら参加は難しかったと思います。またすべての企画には参加できませんでしたが、参加するかどうかを決める際に、企画がおもしろそう、参加してみたいと思えるのがあったため、参加を決めたので、企画はよかったと思います。
※	1	例年よりも面白い、レベルの高い口頭発表が増えた。ワークショップやポスターセッションが盛り上がったように感じた。
※	1	全ての企画に参加できたわけではないですが、魅力的な内容が多かったです。
※	1	個人では難しいが集団だとできることがあるので、学会にはそのような役割が求められていると思う。
※	1	今回は、例年には見られない企画が多くあったと思います。若い世代だけでなく、多くの人が参加することで、例年にはない交流があったと思います。また、若い世代が比較的明るい雰囲気という印象を持ちました。
※	1	意図が明確で、それに対する実行力も大変積極的であった。
※	1	年会長メールの内容のおおと思う
※	1	巨大会会にしかできない取り組みであり、日本の基礎研究を取り巻く環境を改善するブレイクスルーになったと感じます。
※	1	多様性を広げることは良いと思います。そして、コミュニティ形成→発展の流れがあり、よく考えられていると感じました。学会期間が短く感じたのと、参加人数のキャパシティは限界であると感じているので将来的には学会全体、あるいはコミュニティごとにオンラインなどでやり取りできる小部会などがあると良いかも知れない。
※	1	学会には参加できなかったが、これまでにない取り組みが多く、特にメールによって毎日当日のシンポジウムなどの紹介などは、大変よかった。
※	1	学者は広い視点で物事を見るべきである。学術的な事柄しか視野に入らない状態は良くない。
※	1	分子生物学会は医学系の学会のように社会に対して発信力を強化していくべき。それがひいては研究者の社会的立場の向上や研究体制の改善棟に繋がっていくと考える。
※	1	やらないよりは、絶対に良い。製薬業界の実情などキャリアプランをきちんと勉強できるようにしてあったのは良いと思う。研究室に居ると、就職するのが悪のような雰囲気も有り、外の世界を知らないで終わることも多いので。
※	1	研究だけでなく、Scientistとして将来を考えさせられました。
※	1	私達ががどんなことを考えている集団なのか、研究者以外の人々に明確に示すことができたから。以前、得体の知れない集団と思われていた状態から大きく進歩したと思う。
※	1	最終日の2050年分生を始め、アート作品への取り組みは評価されてしかるべきだと思います。笑いあり、突っ込みあり、サイエンスアート作品には考えさせられるものがありました。
※	1	新しい要旨システム等新しいテクノロジーを業界内で率先して開拓するのはすばらしい。また、ガチ議論のように、予算をつける側の方々が科学技術行政にどのような考えを持っているのか知る機会も、この分野に関わる多くの人が認知すると良いと思います。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	若い人の積極的な発言
※	1	研究者社会の問題やアウトリーチ活動について、自分の研究に直接関わる話ではないので、多くの研究者が消極的な姿勢であったと思います。また、関心をもつ研究者もその思いを共有する場を見つけることができず、行動を起こすきっかけを見つけれずいたと思います。本年会は、これらの課題に一石を投じ、その波紋を広げる良いきっかけになったと思います。
※	1	いま日本のサイエンスは危機的状況にあり、学会からおおいに発信するべきと思う。
※	1	実際に企画した人は、準備も含めていろいろ考える機会があったと思うし、当日参加した人も、考えるきっかけになったと思う。
※	1	新しいことにチャレンジする事は研究と同じで悪い事では無いと思う
※	1	珍しくて、面白かった。
※	1	新しい試みはどんどん行うべきであると思うため。
※	1	飲み屋の与太話的会話の中には、普段、ラボの会議室でしかつめらしい顔でする議論だけからは生まれにくい柔軟な発想が宿っている。それを普段はなしあうラボメンバーではなく、かかわったこともない人と使った事もない脳領域つかって会話する刺激は、有意義だと思う。なにも365日24時間やれってんじゃない、年に一度の学会だもの。
※	1	現代社会において、サイエンスのアウトリーチ活動は極めて重要だと思う。
※	1	学会が研究を核としながらも、それ以外の議論も出来る場となる事に賛同する。
※	1	通常の学会ではないようなセッションがいくつかあって、とても良かったと思う。
※	1	ファラデーとか、かつて科学は知的階級のエンターテイメントだったのです。文化としての科学を大切にしてみたい。
※	1	アート企画や最終日の企画といったこれまでにない企画がなされていたから。
※	1	刺激になった
※	1	現状打破を目指す全体的なコンセプトについては高く評価します。
※	1	分生生物学会のような大きくて発信力のある学会でしかできないし、かつ取り組むべきものであると感じるから。
※	1	研究活動が公的研究費で成り立っている。学会はこれまで研究に関する提言を様々な形で行い、増加する研究費で研究活動が拡大して来た。研究倫理の問題が生じた時自浄能力を示す事は当然の義務である。
※	1	研究者として十分に理解し、対応しなければいけない問題であると考えているから。
※	1	アウトリーチに関して、普段から研究者各自が考えたほうが良いはずですが、現実問題として自分の研究テーマが面白くて、考えなければと思いつながらアウトリーチについて考えることがほとんどなかったです。今回の学会で、アウトリーチに関する考え方の枠が押しつけがましくなく自然に広がりました。
※	1	何より斬新で楽しかった。楽しいことは注目を浴びる要素であり、最高のアウトリーチ活動であると思う。
※	1	学会は捏造や不正行為の監視役、裁定役として公的な役割も担うべき
※	1	新しいことに挑戦する姿勢、固定概念をくつがえすための努力は研究者になくはならないものであり、それを学会が先導して示してくれたと感じたので。
※	1	様々な研究分野の話を垣根を越えて聞くことができ、また親しみやすい企画も多かったので大変勉強になった。ワークショップは事前知識の少ない学部生でも聴きやすい内容が多かったと感じる。
※	1	学術内容以外も重要だから
※	1	最終日午後の企画に参加しながら冷や冷やしたのは事実ですが、振り返ると忘れられそうにない年会で、これをターニングポイントに学会が変わってよいと思うようになりました。後日、年会長の文章を読んで、軽くやっていたように考えるべきことは考えていたんだと納得できました。常にチャレンジする姿勢は分子生物学会の気風に合っていると思います。
※	1	研究者としての倫理や哲学は重要であると考えており、日本においては残念ながら、その教育が弱い。それ以前の人間としての、家庭、義務教育、社会における教育も問題かもしれないが、昨今のゲノムやインフォ関連の研究技術の進歩が著しく、実用性が極めて高いだけに、より公正な研究を推進し、望ましくない使用に陥らないためにも上記の教育は必要で、応急的には学会が取り上げてくれたことには、大賛成です。今後は、必要なくなるように、ガチでも取り上げて、社会を動かすのが望ましいかもしれませんが。
※	1	(1)については参加できなかったが、(2)については最終日午後の企画に参加し、非常に有意義だったと感じた。演者を厳選したこともあり、一般の方が見ても非常に面白いものになっていたと思う。ただ、今後も同レベルの内容を維持していくのは難しいのではないかと感じた。
※	1	研究者の方々が普段どのようなことを考えておられるのか、垣間見る事ができたので。
※	1	違った立場の人の意見が聞けるから
※	1	ウェブセミナーなどが可能な状況の中、学会の意義が小さくなってきている。
※	1	普段出会うことのない分野(事柄)を知ることで視野を広げることができるから
※	1	ラジカルで、これぞ分生だと思いました。前例化すると困る人もいるんですが、マネージ出来る年会長なら挑戦してもらおうという程度でOKではないでしょうか。(ただし、風化しないように、若い人にも記憶を伝えないと、単なる前例になってしまう。)

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	学術講演以外のものを入れることにより柔軟で重厚な会になった。
※	1	今回の大会でサイエンスは芸術のように人を感動させ、惹きつけるものであって欲しいと思うようになりました。芸術もそうですが、うちに閉じこもってしまうと良い方向に発展していかないとと思うので、一般の人や子供のも分かるような楽しい企画を今後も続けていくことが、将来の研究者社会の発展に繋がると思います。
※	1	専門家達だけで閉じこもる学術集会には虫酸が走る
※	1	とても良かったです。年会長の近藤滋先生が、学生から大御所の先生まで広く色々な人の意見を集め、それらを反映した企画を実現されたのは大変素晴らしいと思います。
※	1	ほかの中規模や大規模の学会とは異なり、ライフサイエンス最大規模の学会ですので、ライフサイエンスと社会とのかわりについて主体的に活動することの実質的なインパクトは他の追随をゆるさないとします。また、それができる唯一の学会ともいえると思います。ぜひ今後ともがんばっていただければとお願いいたします。
※	1	研究者社会の問題解決は、予想通りきわめて散漫な内容になっていて、予想通りに残念な内容だったが、アウトリーチに関しては、全てではないにしろ良い面があったと思う。ただ課題も多かったので、継続するなら次年度以降に改善して欲しい。
※	1	これまで、研究者社会が閉ざされた社会からなのか、研究者に問題が降りかかって表に出さないことを美德とする聖職と思われているからなのか、問題を共有する場も議論する場もなかったため、このような機会は有って然るべきだと思います。また、巨大会で行ってこそ価値があると思います。
※	1	コンセプトは悪くない。ただ、参加する科学者のスキルアップ、情報獲得という視点が欠けたのが残念。
※	1	学会に一般の方々が参加することで、よりサイエンスアウトリーチの幅が広がったように感じたから
※	1	常に考えるべき事柄であると思うが、学生の立場ではあまり触れないから
※	1	ガチ議論は年回の新しい在り方を示していたと思う。このような試みは他の比較的規模の大きい学会でも行われるべきである。
※	1	分子生物学会は日本における科学者達のお祭りであって欲しい。
※	1	科学技術は税金によってまかなわれています。科学技術は、日本にとって大切なものですが、なかなか理解は得られていません。しかし、その理解を得るための研究者の努力も、非常に重要ですが、なかなか研究の大切さを訴えるのは難しいです。その必要性をアピールしていただいたし、また、そのためには研究者も協力すべきと痛感しました。
※	1	今年はアートな表紙から違いが分かるくらい、今までで一番よい学会でした。毎年、年会長が誰だったかは覚えていないが、今年の年会長は一生忘れないだろう。近藤滋年会長に心から敬意を表したい。
※	1	学会の役割を再考したこと、今回提唱されたこの2点はいずれも賛同する。学会へ行っても、結局夜、久々に会った人と飲むだけという話、発表も内輪でまわっているだけだという批判をよく聞く。このような理由から、周囲には、学会に行く意味はないと言い切る人もたくさんいたためである。・アート企画はもっと早くに募集をかけてほしかった。出たかったのに出せなかった。・アート企画は、研究成果がなかなか出ていない状況にある人にとって、いろいろな人と出会えるチャンス、名前を覚えてもらえるチャンスだと思う。少なくとも知らない人との飲み会に突然行くよりも、ハードルが低いという人にとって有用だと考えられる。
※	1	年会長が提供した数々の企画は、学会の活動としては一見奇異に映るものだったかもしれませんが、肥大化し硬直化した本学会を甦らせる契機やその方向性を考えるのに大きな役割を果たしたと思います。
※	2	学会なのか、イベントなのか、中途半端であったように思います。イベント出席であれば、公的資金を使った場合、出張目的には成果発表や(研究のための)成果発表とは書けませんね。
※	2	研究倫理の醸成は学会の機能ではない。学会の機能は研究費を国に要求することであり、近づくべき相手は一般市民ではなく、官僚や政治家である。ロビー活動を行なうか、引退した教授、その他サイエンスを理解する人材を国会議員に擁立するような政治活動をしてくれると助かる。
※	2	方向性は面白いと思い、それを評価しているが、学術講演の方が全面に押し出されるべきであると思う。
※	2	何をしに学会に行くのか、自分の目的意識がまだ企画について行けない。とても混乱した。
※	2	お祭りは別の機会が結構です。学術的なdiscussionの場として充実していただきたい。学会期間の前や後で自由に好きなように活動を試みてください。メインの学術的discussion,交流の場としての年会の目的を保守して欲しいです。
※	2	もっと全体的にゆったりとしたスケジュールの中でならともかく、演題数のきわめて多い本年会では、やはり学術発表をもっとしっかりと聞ける場を作ることに労力をさいてほしい。
※	2	学会に参加する目的は、最新の研究内容を聴講し、議論することである。学会が本来あるべき姿を追求しないで、企画ものに走るのは本末転倒では？
※	2	学術講演以外すべきではない、と真向否定するわけではないが、一部主催者の自己満足の様な企画があったのは否めない。主催者側にその様な意図が無くて、参加者にそう思われたのであれば、仕様が無いのでは。
※	2	シンポジウム、ワークショップのレベルが低下しているように感じる。
※	2	学会年會に期待することは学術講演だから

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答 1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	2	学会期間中にサイエンスアウトリサーチを行うと、その時間枠でもっとワークショップに充てる方が満足度は高いと思います。アウトリサーチに力を入れる分、学会の質が落ちたと正直感じました。学会でサイエンスアウトリサーチを企画する方が出張次いでで参加できるので経費や時間と手間を削減できるメリットはありますが、その前に学会の質が十分に保たれるような日程調整と企画を希望します。
※	2	大規模学会だからできた事であった反面、希釈されて「どこかでやってる事」みたいな感じがした。
※	2	学会の主役であるべき大学院生にはほとんど関心のないことで、強い関心を持つべきとも思えません。研究発表・交流中心の会に戻していただきたいと思います。
※	2	参加者の発表機会を増やすこと以外のことはするべきではない。
※	2	疲れる。
※	2	学会の本来の目的を示すことが重要と考える。
※	2	分子生物学会のような大きな年会では良い試みだと思うが、「学会」一般に考えると上記の回答となる。
※	2	「学術講演以外はするべきではない」とまでは言わないが、学術講演にもっと力を入れて欲しい。前回のように口頭発表に自由に応募できるような形が良い。
※	2	学会に集中できなかった。
※	2	企画倒れであった。
※	2	いろんな企画をするのは全く結構です。楽しめました。ただポスターを見る時間が短い、会場に来場者が多すぎて入りきれずに聞けなかった、等の以前から有る年会の基本的問題をまず解決すべきではないでしょうか。
※	3	忙しくて自身の発表のセッション以外聞いていないので、よくわかりません。
※	3	全体として視野が狭く意見が偏っているように感じます
※	3	ガス抜きに過ぎないような気がしました
※	3	ものによる。学術講演と時間が重なっており、参加できなかったのも、評価できないものがあった。
※	3	高校生のポスター企画はよかった。ガチ議論や公開プレゼンテーションなどの企画もよいが、反面、JAZZの融合に企画に関しては理解できないものもあるので、特になしとした。
※	3	興味ない
※	3	関心が無い。
※	3	絶対やるななどという強い意見は持っていないが、多すぎたと思う。賛同はしない。
※	3	Please organize the program more international research friendly. In this era of globalization, there is no border of researcher. So, science should be more open more interactive -friendly to contribute more in scientific world.
※	3	学会に参加しておらず、自分自身で見ていないので。
※	3	参加していないのでなんとも
※	3	今までにないことをした、という事実自体に問題は感じないが、それによって何がどう解決したか、解決できそうかを示してほしい。
※	3	自分自身は学術講演しか興味がないが、それ以外のことを学会が試みるのは否定はしません。
※	3	学術講演以外のものをやってはいけな訳ではないが、あくまで研究をメインとして学会運営を行って欲しい。
※	3	オンラインアンケートには答えたが、学会では企画に参加しなかったため。
※	3	社会の情勢の変化(SNSや学会増加など)や、学会にとって必要なことを、分かりやすい言葉で伝えていただけたのはよかったです。金額的にも切り詰められたというところで、その分の労力がしのべられます。大変お疲れ様でした。評価として1.よかった、としてもよいのですが、賛同したのはコンセプト自体というよりはコンセプトを伝えようとする姿勢でしたし、婚活云々とか上記のコンセプトをぼかしてしまうような企画も散見されてましたので、3としました。楽しい感じのする学会にはなっていたと思いますが、それだけだったような気がします。
※	3	会長メールから誠意と努力を感じましたが、学会の意義・大きな学会の必要性には疑問です。難しいことです。正解はないでしょう。
※	3	研究者の世代によって、温度差があるので、世代における区分で議論して、最終的に取りまとめる方が建設的な意見も出て、かなり良いように思います。
※	3	個人的には学術講演の充実に力を入れてほしいが、大きな学会でないとできない活動をするのは、理解できるので。
※	3	学会の規模が大きすぎて全く参加する気になれなかったし、満喫できなかった。企画自体は非常に面白いと思うので、もう少し小さい規模の学会で行わ
※	3	メインをはき違えない限りは新たな可能性を模索するのは良い。
※	3	ジャズとかアートとかいろいろやられていたみたいですが、あそこまで大規模にやる必要ないでしょう。シンポジウムとかワークショップがすくなくなっている気がして、物足りない。
※	3	特になし。
※	3	出席していないので、意見は差し控させていただきます。
※	3	行政を動かすほどの効果をもつとは思えないので、参加していない。ただし、アクションをとる事は重要なので、その点は評価できる。

質問6. 「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答
 1.よかった
 2.学術講演以外はするべきではない
 3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	3	コンセプト自体は悪くないと思うが、大会内容がどの程度それに即していたかという疑問に思う。目立つが散発的なイベントを企画するよりも、例えば生物系ではマグロの養殖やマンモスの復活、情報系ではプロに勝てる囲碁・将棋プログラムなどに代表される様な、世間的に解り易い問題設定を討論すべきではなかったかと思う。基盤部分には広範囲な研究が必要であり、研究者の雇用創出や個別問題の解決等に繋がりがやすくも、研究成果は世間的・経済的にインパクトのある、そんな課題を学会が音頭をとって立ち上げれば、良いサイクルに入れるのではないかと考えている。
※	3	企画は非常に意欲的であったが著者索引やキーワード索引などができず短時間で集中的に情報を得たいと思う人間にとってはかなり不便だった。学会にフルに参加できる人には楽しめたかもしれないが。
※	3	参加したかったが、時間が合わず、参加できなかった。
※	3	もっと簡単なかさも基本的な改革ができると思います。(1)学術誌に発表した論文は著者のうち誰がどの実験をしたか明記することを義務づけること、(2)分子生物学会の会員からプラスミッドとう実験の再現に必要な資材をわけて欲しいとのクエストが来たら友人知り合いに関係なく速やかに協力することを義務づけること。こうすることで発表された研究結果がどうやって作られたか透明性がまし、同時に研究結果が他の研究室での再現性がまし。
※	3	1,2.の中間の意見です。壮年の身の実感としてはここまでintensiveにやらなくても思いましたが、若い人たち(ポストドク、助教レベル)がどう感じているかが恐らく大事なだろうと思います。
※	3	自分の発表以外には参加していません。
※	3	既成概念にとらわれず、新しいことに挑戦してゆくのは分子生物学会らしくて良いと思いますが、「新しいことに挑戦する」とチャライのは別物だと思います。今年の年会は全体にチャライ。この雰囲気数年続いたら、退会を考えます。今回のチャライ取り組みで盛り上がった若い人たちが沢山いたようですが、それだけでは学会としての改善にはつながらないでしょう。企画の多くは学会員しか楽しめないような内容だったので、アウトリーチの核としてはお話にならないと思います。ガチ議論は、研究社会の問題解説に寄与できる可能性をわずかに示せたのではないのでしょうか。
※	3	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	3	学術講演が非常に少なく、異分野を知る機会が削除された。
※	3	私は、今までの違いがいまいち分かりませんでした。問題は結局のところ、参加者の意識の問題だと思います。学会側は今後どのように、参加者の意識を変えていくかが課題ではないのでしょうか。(続ければ変わる??)
※	3	40歳前後の1万人ポストドク計画の申し子達は、ポストドクにすら就いていない人も多量中、アカデミア・企業は年齢信仰から脱却できておらず、40歳前後の人たちの行く末は暗い見通しのままです。その解決策を提示できる企画は無いのでしょうか？アメリカのように、研究者はポストドク経験を経ることを条件とするとか、中途採用の門戸を広くするとかは、すぐに思いつく策です。さらい、もっと官民の連携を密にすれば、アカデミアの求める人材や企業の求める人材の情報交換も頻繁となり、人材の流動が活発になるのではないのでしょうか。官民の一体化の場所、または情報交換の場所として、会員構成の裾野が広い分子生物学会は役目があると思います。
※	3	企画に参加できる時間がなかったため
※	3	企画自体は良いと思うが、学術講演と重複する場合にそちらを優先、夜の部でのセッションも不参加で、最終日しかそのような企画には参加しなかった。しかし、学会が研究社会の問題に取り組んでいるという姿勢を見せるのはとても重要で、分生のような学際的で巨大な学会がそれに取り組んでいることはやはり効果的だと思う。
※	3	自分は学術講演にしか興味がなく、また、新しい試みに全く賛同する気はないが、こうした新しい試みが何かしらの意味を持つことを否定もしないので、やりたければ好きにやってください。
※	3	変化は必要だが、ジャズはうるさい。
※	3	色々なイベントがあつてよかったけれど、反省点も大いにあるように思います。例えば、全体的な雰囲気が若干リベラルな方によってしまいがちなと思います自由度が増すと、個々の会員が気を引き締めなければならない点が多くなると考えております
※	3	初めて参加したので、これまでとの差異がわからない

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
 3. 「学会とJAZZの融合」
 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
 5. SFTークショー「2050年シンポジウム」
 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
 8. 特別企画全般について評価していない
 9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1	議題として取り上げる内容に関して、聴衆とパネラーとの間に隔たりが大きいのと感じましたが、議論を重ねることは重要だと思います。同様の場を毎年開催しても良いと思いました。
※	1	学会には出席しなかったが、それ前にあった自由参加に出した。
※	1	一部の企画だけでなく、どんどんウェブで放送すべきだ。
※	1	研究者のために、たくさん心ある方々が「既に動いている」ということに、恥ずかしながら気づかされました。研究者は「与えられる」ことに馴れすぎているのかも知れませんが。最後まで議論を拝聴した者として、登壇者の方々に厚く、熱く、御礼申し上げます。ただ、海外研究者ネットワークの会の登壇はやや唐突だった感が否めません。加えて、日本と海外の温度差の違いを感じてしまいました。どれくらい日本在住研究者が海外在住研究者の「心配」をしているのでしょうか？もちろん、その啓蒙活動？のための登壇なのは理解していますが。。。おそらく自分を含めて日本在住者は自らのことで精一杯です。
※	1	今回の不正問題に対して、研究者ができることを議論するのは重要と思います。研究が複雑化・多様化。巨大化している現在、各自が研究の原点を見直す時間が必要ではと感じます。
※	1	あまり時間が無くて、見てません。
※	1	如何に科学者が多様な意見を受け付けられない狭量な人種であり、それが若手にもシニアにも見られることが多くの目に曝され、明らかになった。これは意味がある。研究者、教育者は、もう少し頭がよいのかと思っていたが残念だ。まずは愚かさを認識する事からのスタートとして必要であったと思う。
※	1	安宅和人さん、鈴木寛さんなど、論者の人選が素晴らしい。科学者に無い視点から意見を貰えてよかった。
※	1	学会には行かなかったが、ガチ議論を視聴できた
※	1	ガチ議論は日本のサイエンスの仕組みについて知らないことが多く、とても勉強になった。
※	1/2	参加はしていないけれど、特に2番には非常に興味があった。「真面目に研究『だけ』していれば、良い企業に就職できる」「だから、大学にいる間は大学の研究『だけ』に専念しろ、会社の研究なんてくだらない」なんて時代は終わった(馬鹿の一つ覚えのように繰り返す、古き良き時代の苦労知らずのポスはいまだに多いが)。企業の研究の深いところまで聞ける2番のような企画は、非常に価値が高いと思う。
※	1/2	とにかく議論して前に進むことが科学者の本来の姿。
※	1/2	海外ポスドク呼び寄せ企画については反対意見を持っています。将来国内のポストを取る上で海外に行かない方が良く考えて、敢えて国内に残っている人間もいるということを知って欲しいですし、そういう人間は海外での研究経験がない経歴というリスクを取って敢えてその道を選択しています。今回の学会は国内ポスドクは年会費と参加費と旅費を支払って参加しています。一方で海外ポスドクにその補助を与えるというのでは強い不公平感を感じます。海外ポスドクは様々な利点と引き換えに国内に戻れないリスクは覚悟しているはずであり、無理にそのバランスを崩してほしくないです。
※	1/2	研究者の立場を行政側に伝えて、制度の改革を図ることは重要。Ph.D.を取得し、海外の研究所で働いた経験を持つ者が、直接、行政官となって科学技術行政に携わる道を作るべきではないか。創業の実情が分かり、良いシンポジウムであった。創業側から基礎研究の重要性を主張してもらうことも必要ではないか。
※	1/2	変化につながると思います。
※	1/2	Q6回答と同様
※	1/2	ガチ議論、特別シンポジウムの両方とも立場が偉いというだけの方々の言い訳のオンパレード対しっかりやってくる人の甘いという喝が感じられる枠組みであった。特にガチ議論は教授陣が単なるわがままな子供だということがよくわかった。上の立場の方を当てにしているかんとしみじみと感じたので将来の方向性を変えるきっかけになったから。
※	1/2/3/4/5	Q6とほぼ同じ。今までの年会ではなし得なかったシンポジウムについては、サイエンスの面白さを再確認できるという点で良かった。
※	1/2/3/4/5/6	学会参加に対するイメージが変わったし、いろいろと新しい考え方が得られた。
※	1/2/3/4/5/6	特に最終日午後の催しは多くの一般の方に興味を持ってもらえたのではないかと思います。
※	1/2/3/4/5/6	Q7と同様です。
※	1/2/3/4/5/6	1.論議がかみ合っていない部分が多々見られた。喋る時間など進行を考えた方が良い。2.参考になったが、喋っても良い現場の話、という感じがした。企業秘密と言う点から仕方が無いかも知れないが。3.4.5. サイエンスユーモアが通じるor通じないポスなのかフィルタリングができた感じがする。通じないポスにはなりたくないし、そのようなポスの下では働きたくない。6. 感動した、が、またやるには大変でしょうね。
※	1/2/3/4/5/6	どの企画も、今年で完結ではなく今後繰り返し開催して成熟させていくものだと思うから。そうすることで、海外から自腹を切っても参加したいという人が出てくるような魅力を持った企画になると思う。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
 3. 「学会とJAZZの融合」
 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
 8. 特別企画全般について評価していない
 9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1/2/3/4/ 5/6/7	今回招待した海外ポスドクの数年後の所属先を調べてみて初めて効果があったかが分かります。すべての企画を年会毎に行なうことは難しいと思いますが、学会会場で笑えると言うのはよいと思います。トークショーで感じたことは、新聞の記事(または見出し)だけで歴史をふりかえるとんでもないことになる、と気がつきました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	おもしろい！
※	1/2/3/4/ 5/6/7	全ての企画を楽しみ、全ての企画で刺激がありました。特に公開プレゼンテーションと2050年企画では、サイエンスとしてのクオリティーの高さはもちろんですが、それが極めて魅力的に演出されていたところがすごいです。ガチ議論では色々勉強になりましたし、特別シンポジウムは、薬学領域の人間にとっても興味深い内容でした。応用実学色の強い薬学領域と基礎科学の接点が出来れば、両領域の研究者にとってもメリットは大きいと思います。JAZZやアートは、今回見る側でしたが、次回以降どこかでやる側に回ってみたいと思います。ポスドク企画について私は関与していませんが、その意義に賛同します。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	ガチ議論は新たな試みとして大変興味深かった。アカデミアが抱える問題を提示できるとともに、パネラーの方たちの思いが伝わって大変良かった。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	SFTトークショー「2050年シンポジウム」は非常に面白く、強い刺激を受けた。自分のプレゼンテーションの方法について考えるいい機会になった。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	大学のあるべき姿だと思う。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	いずれの企画もそれぞれとても面白かったです。だからこそ、もっと積極的にプログラムに入れていきたいという気持ちがありました。ランチョンあとの一時間など、次のセッションに行くまでの時間に何らかの企画を入れると、なんとか合間に聞こうという時間も取れるかと思えます。夜の企画は是非、あらかじめ内容に関するアナウンスをしっかりと、各自の同窓会・交流会などと調整が利くようになっていたらもっといいのではないかと思います。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	学会の将来像を見据え、チャレンジングな企画を多数盛り込んで、非常にすばらしいと感じた。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	サイエンスは文化であり、また文化の流れをつくり一つの媒体であろうと思います。他との文化との接点を探す、あるいはその形成を試みるのは他の成熟した文化もたどる王道と思います。従って積極的にやるのはいいのではないのでしょうか。またユーモアのセンスもまさに文化の一つの流れであり、またアウトリーチにも重要な事と思います。ただしこれらを企画、実行する労力を考えると、果たして継続できるのかどうか、心配になります。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	いずれも今までにない斬新な企画であったことが理由です。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	日々の実験室での生活より、もう少し俯瞰的に自分を考えることができ、新しい学会の役割を探る上で、良かったと思う。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	いろいろな試みがあった方がよい
※	1/2/3/4/ 5/6/7	ガチ議論では問題の全体像や多様な価値観を提案できたことに大きな意味があったと思う。また、ツイッターやユーチューブなどで意見を募ったことも、新たな試み。ここで盛り上がった熱がこれからも継続して、よりいい方向へ進むことを期待。「薬を創る」シンポは、研究者にいくつもの進む道(企業研究、大学、ベンチャー)を提示できたことや、どんな点が強いと他に差をつけられるかなどのお話があって、多くの方にためになったと思う。JAZZは、休憩時間に音楽を聴きながら論文を読めたりして、JAZZ、いいな、と思った。また、研究者間の交流にも繋がったのでは。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	1,7は巨大会でしか出来ないことで、参加者たちの研究環境を整える手伝いもできることが示されたと思う。5,6で報道を引き込んだ点も巨大会であってこそだが、サイエンスアウトリーチとして学会員以外の方々に夢を与えられる非常に良い企画だったと思う。2は企画されることに時代の流れを感じたが、企業研究者としては基礎の大御所の分生に受け入れられた感が嬉しかった。内容も面白かったし、力をもらった。3,4は学会に必要なかどうかは私には分からなかった。しかし、個人的にはJAZZが大好きで、アートも興味あったので、絶対に今年は学会参加したいと思われたし、実際には最高に楽しませていただいた。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	すべての企画に賛同しますが、研究不正企画がここにはないのはなぜでしょう。あの企画が特にすばらしかった。若い世代は見えています。自分達だけがよければいいとシニア世代が思っているのか、本気で腐った部分を切り落として次の世代が自由にできる環境をつくらうとしているのか。前年の年会あたりから、分子生物学会が本気で変わる兆しを見せていると感じています。次年度の噂が聞こえてきませんが、大きく期待しています。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	Q6と同じ

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) |
| 3. 「学会とJAZZの融合」 | 8. 特別企画全般について評価していない |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 | 9. 特になし |
| 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 | |

※	質問7 回答	理由記述
※	1/2/3/4/ 5/6/7	個々の企画が有機的に作用し、相乗効果を生み出していたと思います。私は海外ポスドク招聘企画で参加しましたが、このような機会がないと海外ポスドクはどんどん孤立してしまいます。本学会で得られた経験や人脈は今後の研究者人生における大きなステップになると強く感じました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	学生の時に分子生物学会に参加して研究者への道を真剣に志しました。約15年前の分子生物学会は初心者へのウェルカムムードが強く、様々なセッションを通じて研究に対する視野を広げることができ、専門外の先生からのコメントがとても参考になっていました。しかし、最近の分子生物学会は蝸壺研究会が複数同時開催されているだけと感じ、学生も全日参加したがいらないため、つまらなく感じ、3年ほど参加していませんでした。今回は学生もとても刺激を受けたみたいで、研究がうまいっていない学生にやる気を引き起こさせる学会にもなっていたと感じました。私自身も『分生が蘇った』と感じました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	学会全体に活気が加わった。関係者の皆様、大変ご苦労さまでした。感謝、感謝、感謝、... です。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	自由に討論できる雰囲気だった。ジャズ企画で演奏を聴けてリラックスできた。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	すべての催し事、企画、アイデア、それらが実現している様が素晴らしかった。
※	1/2/3/4/ 5/6/7	普通の学会にはない発見や出会い
※	1/2/3/4/ 5/6/7	Jazzやアート企画など半分遊びのようなものでさえ、通常の学会活動を通しては絶対に知り合う機会のなかった会員同士のつながりが、実際に参加した者だけでなく、それを聴きに・見に来た会員の間でも生まれているようです。また、文部科学省の方を交えてのガチ議論は、我々が漠然と抱えている閉塞感を確かに打ち破るものであったし、2050年年会などの最終日の数々の企画も、我々がどのようにして社会と関わっていくべきなのかを考える上で、柔軟で魅力的な可能性を示してくれたと感じました。
※	1/2/3/4/ 5/6/7/8	捏造についての議論は時間の割には申し訳ないですが、薄っぺらい内容だったのではという印象です。
※	1/2/3/4/ 5/7	今回の分子生物学会は、これまでの学会と全く異なり、Jazzからアートまで幅広く芸術的な要素が取り入れてあり、非常に斬新で大変興味深く感じた。
※	1/2/3/4/ 7	新しい試みが非常に充実していた。
※	1/2/3/5/ 6/7	アート企画「サイエンスとアートの接点」は面白い試みだったが、評価が"like"に依存するのはどうかと思う。昔の他学会のポスター賞など同様、共同研究先や大手の研究機関による組織的投票はアートに相応しくない。純粋に審査員が評価する体制ならもっと良かった。
※	1/2/4	アカデミア内のみではあまり触れることのできない情報に触れる機会を提供できたから。
※	1/2/4	生命科学研究を考えるガチ議論は、研究発展のために国や社会が何かしようと考えていないことを知るのにいい機会になった。
※	1/2/4/5/ 6	面白かった。研究に遊びの視点は大事。
※	1/2/4/5/ 6/7	1.実際に議論を聞き、本気で取り組んでくれる人がいることを知って安心しました。2.参加できませんでした。内容はとても興味があるものでした。4.サイエンスにはアートの力がとても大切だと認識しています。5.エンターテイメントとしても面白かったのですが、実際に数年後の研究テーマを考えながら、現在の研究を考えるということも面白いと気付くことが出来ました。6.研究を一般市民に分かりやすく発信することの大切さを再認識しました。7.この企画は海外ポスドクにとって、とても助けになると思います。また、日本の若い研究者にとっても、海外の最新の研究情報を得ることが出来るので、相互の利益がとても大きいと思います。
※	1/2/5	ガチ議論：メンバーが良かった。いろいろな方の考えを聞けたこと。議論をまとめるのはやはり難しそうだと感じたが、それはしょうがない。2050年；発表者の力量に依存する企画でしたが、最終日ということで単純に楽しいことも必要。プレゼンの力の重要性を感じた人も多かったのではないのでしょうか。サイエンスをときに楽しく表現することは大事。もう少し、何をやるのか予め分かっていたら良いのかも思いました。内容を考えて参加する方もいっしょやと思うので。
※	1/2/5/6	研究者にできる社会貢献やこれからの研究について深く考える時間になって、大変刺激を受けた。
※	1/2/5/6	まさに巨大会場ならではの感じがするので。その巨大さを利用・生かした企画であると思うので。
※	1/2/5/6/ 7	研究にはパッションが必要であり、どの企画にも各演者の暑いパッションが感じられた。
※	1/2/5/7	JAZZは免疫学会でにたようなのが昔有った気がする。アートは学会会場内で行うのではなく、一般向けに興味を持ってもらえそうな別時期にやるべきだと思う。SFTトークショーは、一般の人にも見てもらえる仕組みにして、研究者について等をアピールできるようにするとおおいと思う。
※	1/2/6	多種多様な視点を持つという点で重要であり、また他の学会では実現困難であることからとても良かった。わがままを言えば、(自分の都合で)日程的に参加できないものもあったのが非常に残念であった。
※	1/2/6	実際に良い内容だった

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答

1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1/2/7	海外ポスドク招聘企画は特に良かったと思います。分生以外の学会では人数も限られると思うので、今後も出来るだけ続けていただきたいと思います。
※	1/2/7	学会らしい企画(ガチ議論とかポストドクの招へい企画)のようなものは賛同できるが、アート企画はホテルの一般の方も出入りできる場所とかにおいてもらうようにしたほうがよい。
※	1/2/7	1はQ5参照。2は企業あるいは産業の研究を知る良い機会だと考える。7は優秀な才能を金銭的にサポートし、学会を盛り上げてもらうのは重要であると考えから。
※	1/2/7	自身が関わるかどうかは別として、基礎研究者であっても、出口を見据えた研究があると言うことを、若いうちから知っておくべき。その良い面と悪い面を考えておくべき。
※	1/2/7	参加したものについて、良かったと思いました。
※	1/2/7	特に、海外のポスドク招聘は、大学院生、学生にとってよい刺激になったと思われる。他の行事に付いては、参加しなかったが、趣旨に賛同した。
※	1/2/7	JAZZ、アートに関しては個人的には学会とは直接関係がなく、別途企画されたほうがいいかと思います。学会中は大変忙しく、アートと接する時間はありませんでした。他のセッションは残念ながら参加できなかったのわかりません。
※	1/2/7	お金、ポスト、成果の社会還元に興味があり、これからの日本の科学の中で切り離せない問題だから。
※	1/2/7	研究者の視野を広げる試みは重要。製薬企業等、アカデミアにいるとなかなか知る事の難しい話を伺う事もできた。アカデミア以外の人材供給の場として、マスコミやサイエンスコミュニケーターなど様々な職種の紹介等もあるともっと活性化するのは。
※	1/3	多才な研究者に、研究以外でも活躍の場があるのは良いと思います。ガチ議論は有意義かつ楽しめました。これだけは毎年続けて、問題提起やメッセージの発信をして欲しいです。それ以外はチャライ雰囲気、 「くだらねー」という感想です。
※	1/3/4	・ガチ討論は、みんなが聞きたい(参加したい)内容だったと思います。ただ、収集がつかない(パネリストが言いたいことを言っているだけ)状態になってしまったので、最初に提示して下さった分子生物学会からの提案(アンケートをとったもの)に対して、それぞれの立場の人に回答していただく方が良かったのではないかと思います。 ・Jazz & art は、気持ちが和みました。非常に良い企画でした。
※	1/3/4	Q6と概ね同様の理由です。
※	1/3/4	「生命科学研究を考えるガチ議論」自分は参加出来なかったが、参加した人からの話を聞くと、聞いてみたいと思った。「学会とJAZZの融合、サイエンスとアートの接点」学会の雰囲気と合っていて、良いと思う。
※	1/3/4	JAZZもアートも、演奏している、販売(案内)している人が楽しんでいる様子が伝わって来てよかった。会場はもう少しわかりやすい(立ち寄り易い)ところにあってもよかったと思う。
※	1/3/4	音楽が流れる学会は良かった。他の分野(化学とか)でも、音楽を生かす取り組みがされているとのこと。分生も、アートや音楽との融合は今後も続けて欲しいと思います。なお、その他のものは、最終日には会場にいなかったため評価できません。
※	1/3/4	JAZZやアートに関して、ポスターや公演の合間の休憩に非常に役立ったから。
※	1/3/4	今までになく、アートに関しては、会場であって和んだため。
※	1/3/4	海外学会のように、学会や研究会がリラックスして知を楽しむ場であって欲しいと常々思っています。海外ポスドク招聘は、近年のアカデミアでみられる、どんな手段を使っても「ホームランバッター」になることを求める姿勢をそのままみている様で、「学会の姿勢」としてどうなのか?と思いました。地道に「シングルヒット」を打っている研究者として虚しくなります。今学会では口頭発表がシンポジウムとワークショップのみで一般口頭発表が無く、この点についても同様の感です。
※	1/3/4/5	2050年シンポジウムは、生命科学研究の未来を創造する上で自由度があつてとても面白いアプローチだと思う。ネタ的な部分も多かったが、未来を語る時にはやはりユーモアを含んだ内容であってほしいと思う。ガチ議論はちょっと空回り気味な部分もあったが、今後継続してより意義のある討論会へと発展させてほしい。参加者も混乱することを恐れずにもう少し増やしたらいいと思う。例えばポスドク代表、学生代表、PI代表等々、ネットでの声じゃなくて直接発言できる人を増やすべき。アートと音楽に関しては学会期間中にふっとリラックス出来る時間があつてとてもよかったと思う。またこの場での研究者同士の出会い交流もあった。
※	1/3/4/5	勉強になりました。そしてさまざまな広がりを感じました。
※	1/3/4/5	公開プレゼンテーションは一般向けに意識したせいか真面目すぎて眠かった。
※	1/3/4/5	自分の参加した企画にチェックを入れました。その他は参加していないので判断できません。
※	1/3/4/5	リラックスできる。
※	1/3/4/5	現在の研究現場に存在する諸問題を解決するには、いわゆるアカポスにある人だけの営みだけでは対処困難であり、企業人や行政の専門家の視点も導入する必要がある。また、遺伝子組み換え食品の例に典型的にみられるように、一般の人々に正しい科学知識を伝えることも円滑な研究活動実現のためには欠かせない。そのためのアプローチとしてそれぞれの企画はよく考えられており、初回としては上々の出来だったといつてよいのではないかと考える。これらは規模の大きい分子生物学会だからこそ可能なことで、貴重な試みだったと思う。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
 3. 「学会とJAZZの融合」
 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
 8. 特別企画全般について評価していない
 9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1/3/4/5	音楽と芸術を盛り込んだ学会はとても楽しかったです。自身の世界観も広がりました。
※	1/3/4/5/ 6	JAZZが特に良かった！
※	1/3/4/5/ 6	ガチ議論のような場は大規模学会でしか望めない。あくまでも場所によるが、Jazzとアートはあってもよい。今までがなさ過ぎた。分子生物学系の学問に興味があるだけの一般人との接点を持たせるなら、エンタメ志向のトークショー、プレゼンテーション、討論はあった方がいい。実際の所は(一般人には)それでも敷居が高いと言われそうではあるが・・・。
※	1/3/4/5/ 6	学会の基本的活動であるサイエンス以外の部分でのトライアルの多かった年会特別企画ではあったが、学会を「楽しむ」ことも人が「集う」ための施策だと考えられる。学会が不要であるとの意見もある中で、直接研究者が集まって議論をする場を設けることは、学会の不変の価値だと考えられる。従って、多くの人がまじめに議論すると共に、共感する形で楽しむのは意味があると思う。さらに、こうした「遊び」の部分に負けないよう、演題を出す側の「まじめさ」がうまく競われると、さらに学会が活発にあるであろう。
※	1/3/4/5/ 6	全般的によかった。学会にわざわざ足を運ぶ意味というものの一つの形をしめせたんじゃないか、と思う。
※	1/3/4/5/ 6	研究者の魅力は、研究内容やその成果だけでなく、各個人の哲学や人間性によって生み出されるものだと思います。今回の企画は、研究者の魅力を様々な観点から見つけ出すことができ、大変良かったと思います。また、学部生・院生にとっては学会参加への動機づけ、高校生にとっては進学の強い動機づけになったと思います。
※	1/3/4/5/ 6	good jobです。
※	1/3/4/5/ 6	とにかく参加していてワクワクしました。年会をオフ会代わりに使ったこともあるので個人的な違和感はありませんでした。中でも展開の読めないガチ議論は面白かったです。
※	1/3/4/5/ 6	分子生物学会は1980年代の中期頃から通っています。昔は800人ぐらいだったと思います。しかし、遺伝子工学がやっとなり、分子生物学がすごい勢いで発展したことで、若い人がジーンズで発表して大先生にも突っ込める素敵な会でした。それが、だんだんと普通の学会になりかけていたので、今回の企画は非常に楽しかったです。
※	1/3/4/5/ 6/7	素晴らしかった。
※	1/3/4/5/ 6/7	すべて面白い企画であったと思います。
※	1/3/4/5/ 6/7	どれも今までにない企画だったから
※	1/3/4/5/ 6/7	ガチ議論は、当初予定されていた研究者側の意見について、単に愚痴(不満)をぶつけるのではなく、行政や民間からの知識人の方から研究者が普段考えないような思考で解決ができるのではないかという意見が聞けたことが何よりも参加した成果だった。大学の有るべき姿が民間の方から明確に示され、会場からも同意の拍手が起ったことは、研究者の意識を高め問題を解決するためのアクションの起こし方について、皆が何かにはっと気がついた瞬間であったと思う。SFTトークショーは完成度が高く、ユーモアがあり非常に聞いて楽しかった。今回の企画のなかでもずば抜けて素晴らしかった。
※	1/3/4/5/ 6/7	2.を除き、年会特別企画のほとんどに参加しどれも楽しめたが、最終日のSFTトークショー、公開プレゼンテーションにたどり着くまで、盛りだくさんだったので若干疲れた。それぞれの企画に工夫が凝らしてあったので、それぞれを楽しむにはもっと企画数を絞っても良かったと思う。
※	1/3/4/5/ 6/7	研究を進めるモチベーションになる。
※	1/3/4/5/ 6/7	JAZZ企画に参加させていただいたのですが、これまでの分生ではありえなかった貴重な出会いが沢山ありました。これまでの分生では人が多すぎて、既に知った方の発表で現状報告や進展を聞きに行く状態でした。しかし、今回の企画に参加したことで細胞生物学や分子生物学的知見から発生生物学を改めて議論できたことは勉強になりました。SFTトークショーなどもレベルが非常に高く、楽しめました。海外ポスドク招聘で来られている方にもお話を聞くことができたのも今後の研究生生活を考える上で参考になりました。
※	1/3/4/5/ 7	最も良かったと思うのはガチ議論。Twitterを介して聴衆参加型の議論が出来たのがとても良かった。海外ポスドク招聘企画は、招聘された人たちに参加してもらいポスドク問題を話し合えれば尚良かったと思う。3.4.5は面白かったので良かったと思う。学会外の人にも分子生物学会というものに興味を持ってもらいたい切欠になったと思う。
※	1/3/4/5/ 7	学術発表・討論のみであればメールやスカイプなど代替手段は発達して来るが人と人が会うことに意義があると考えたため
※	1/3/4/5/ 7	有益である上に楽しかった。
※	1/3/4/5/ 7	特に「2050年シンポジウム」が面白かった。BS放映だけでなく、ネット配信しても良いのでは。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答

1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1/3/4/6/ 7	1. 自分は参加できなかったが、参加者から良い評価を聞いた。3. いろいろなところに音楽があることは良かった。4. 良かったが、即売会などはもっとアクセスしやすい場所でやった方が良かったと思った。6. 学会が一般へ広く情報発信を考えることはよいことだと思う。7. 多くの知り合いが利用しており、有用なものだと思えた。
※	1/3/4/6/ 7	今回の企画で、改めて科学者はアーティストであることを認識しました。展示会場に音楽が流れているのは雰囲気があって良かったです。また、研究分野の異なる方々の様々な意見を聞く機会が得られたことも有意義でした。
※	1/3/4/7	新しい学会のあり方を模索する上でとても良い試みだった。
※	1/3/4/7	企画の内容が/実際に行ってみて、おもしろそう/おもしろいと感じたから。
※	1/3/4/7	JAZZに参加しました。講演発表と合わせて、大いに楽しみました。分野外のみなさんと知り合いになれて良かったです。
※	1/3/4/7	1.「生命科学研究を考えるガチ議論」については、取り組みは評価しますが、ファシリテーターの力量不足もあって、少々勿体無い討論内容になってしまった気がします。もう少し討論内容を時間で区切って話をさせても良かったかと思います。3.「学会とJAZZの融合」は知り合いが演奏していたので、非常に楽しめました。チェックを入れない企画は参加していないので、評価できません。
※	1/3/4/7	ガチ議論は色々考えさせられるきっかけとなった。ただ議論が堂々巡りで、研究社会のブラック体質を変えるというところまで議論が至らなかったのが残念だった。もっと良くなると思う。
※	1/3/5/6	ポスドク招聘企画については、渡航直後の研究者は対象者に当てはまらないと聞いた。やるのであれば、海外渡航年数等にこだわらずに招待してほしいと感じた。ガチ討論は、Ustreamで視聴したのだが、登壇者の手元のフリップが見えないのが残念だった。議論は若干司会者の話したい路線に進んでいるようにも思えたのだが、中身はとてもよいもので、今後の発展のキッカケとなると感じた。
※	1/3/5/6/ 7	とにかく斬新な企画が多かったと思います。若い方々を惹き付けるのにも良かったと思い、参考にさせていただきまます。また巨大会の重要性を良い意味で見直す事ができたと思います。
※	1/3/5/7	生命科学研究を考えるガチ議論はファウンディング側と政治家側がどのように考えているかがわかり参考になった。
※	1/3/5/7	これまでの学会意識を変えるよい取り組みだったと思います。個人的にはJAZZが非常にすばらしかった！！飛び入り参加したくなりました。
※	1/3/7	日本の学会は堅苦しい感じがするので、Jazzの演奏は良かったと思います。良くないと言う人の気がしれない。
※	1/3/7	特別企画全般について感銘を受けた。科学には自由が必要不可欠であり、今回の大会には自由を感じた。
※	1/3/7	普段はなせない内容について議論できている。音楽があると、リラックス出来る。
※	1/3/7	研究者だけの集まりで終わるのではなく、様々な問題を解決していく為には
※	1/4	今年度の年会のポスターは秀逸だった
※	1/4	選択した企画に興味をもつ際の、偏りが無いからです。
※	1/4/5	11に関しては大変なご努力を払われて取り組まれたと思います。そのご尽力には頭が下がりました。4.5に関しては個人的に大変面白く、良かったのですが、5に関してはエンターテイメント的な要素を持たせたアウトリーチをおこなうには各メディアの協力が必要不可欠であり、本当に学会としてこの路線を発展させて進めるのか、または数年に一度のレベルでおこなうのか、そしてそれに伴う準備委員の方の時間と労力(とセンス?)など多大な負担がかかるために色々議論があることではと思いました。
※	1/4/5/6	「2050年シンポジウム」は、中にはふざけすぎた面もあったように思うが、未来への夢を語られたプレゼンテーションはよかった。「未来はこういうかたちに研究社会を変えたい」「分子生物学を使ってこういう未来をつくりたい」という夢を持った研究者はもっとたくさんいると思うので、またこういった企画を考えてもらいたい。
※	1/4/5/6/ 7	楽しかった。若い研究者の役に立つ。
※	1/4/5/6/ 7	ガチ議論はいい企画だった。テーマの分量が多く消化不良の感があったが今後につなげて行きたい。最終日午後の企画は様々な才能を見る事が出来てよかった。公開プレゼンテーションの形式は継続しビデオ等を学会の資産としてほしい。
※	1/4/5/7	「生命科学研究を考えるガチ議論」について、文科省の立場から、研究者の立場から、そして何よりYahooの安宅さんの立場から、生命科学研究の方向性を真剣に議論する場に参加したことで、自分自身がどういふスタンスで生命科学研究に携わり、貢献していくべきなのかを考える良い機会となった。さらに今回、インターネットを用いて学会前から学会員全員が議論に参加することができるようにして下さっていたのも良かったと思う。「2050年シンポジウム」は学会中のどのシンポジウムよりも面白かった。
※	1/4/5/7	同窓会になりつつあることと、分野が広すぎて情報収集が大してできないことから、ここ数年は参加していません。しかし本年度年会長の試みは大いに評価すべきことであると考えます。自分は「分子生物学」という学問がとても好きなので、ただの同窓会ではなく国内の分子生物学者が一丸となってより良い研究を推進できるような場であってほしいと思っています。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		
1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 3. 「学会とJAZZの融合」 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」		6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) 8. 特別企画全般について評価していない 9. 特になし
※	質問7 回答	理由記述
※	1/4/7	アート企画が非常によかった。普段、サイエンスしか考えていない人たちに大きな刺激を与えられたように思う。生命の美しさに通じるものがある。
※	1/4/7	アートは新鮮で楽しかった。
※	1/4/7	企画に研究者のエフォートが割かれすぎではないかと感じた。
※	1/4/7	海外のポスドクに夢と希望を与える良い企画でした。
※	1/4/7	果たして、「ガチ」の議論となったかは不明ですが、試みは良かったともいます。今後、修正発展していき、もっと「ガチ」になることを望みます。アートは、専門家しかわからない世界を、一部でも他者に伝える手段の一つとして、とても良いと思いました。ある意味、マイナースポーツの選手が知名度向上と資金集めにテレビに出ることと同じ効果があると思います。海外ポスドクが日本の事情を知るためというよりは、内向きな傾向が強くなりつつある日本の現状に、海外の雰囲気を入力する(カツを入れる)効果があると思うので、継続してほしいです。
※	1/5	良い企画は良かった。これは違うのではないかという企画もちらほら見受けられた。
※	1/5	堅苦しくなく、本来のサイエンスの楽しさを思い出せるような試みだったと思います。また分野を超えた交流の場となり、実際に知り合いが増えたので、よい機会をいただけたと思っています。
※	1/5	未来を考えることが重要。
※	1/5/6	近藤色が出ていて、変革した分子生物学会を学生に大いにアピールできた
※	1/5/6/7	規模の大きな学会でだからこそ可能になる企画であるから。かつ個人的興味。
※	1/5/6/7	分生学会の会員ではないが、ガチ議論や2050年シンポジウムなどの革新的な試みをぜひとも生で見てみたいと参加した。どちらも期待以上のものであり、来年以降も継続してほしいと思う。
※	1/5/7	JAZZやアートについては、面白かったが必要かと言われると疑問。ガチ議論は大変ためになったし、この手の問題に関して前進した実感が得られるので、今後も必要な企画だと思う。ただ、時間帯・進行予定をもう少し改善してほしい。トークショーは、内容を変えて毎年行えば名物になるのでは。毎年だとクオリティーが下がるかもしれないが、こういう全体のレクリエーション的な企画があったら面白いと思う。海外ポスドク招致については、費用の問題があるかもしれないが、今後海外に行く予定の研究者にとっても有難い企画で、留学への後押しになると思う。国内にいる研究者にとってもいい刺激になる。
※	1/5/7	ガチ議論、分生に限らず学会というかアカデミア全体にとって必要で、それを政府(たとえ脱藩浪人だとしても)高官と出来るのは有意義。各国が自国内だけを見ていては生きていけない世の中に、日本国内の他の経済やら行政のあれやこれやすら見る事もできず、盲目的に「研究するから金くれ」ではやっていられない状況を、科学者も理解しながら自身の研究を行うべきだと思う。SFTトークショーは上記の通り。海外ポスドクもリアルに励みになるでしょう。アートと音楽はよくわかりません。
※	1/6	分生が生命を理解する集まりであるからでしょうか。
※	1/6	公開プレゼン、サイエンスの面白さを中高生や一般人に理解してもらうために非常に重要だと思います。ガチ議論は同上ですが、予算をつける側の方々や科学技術行政にどのような考えを持っているのか知る機会は、この分野に関わる多くの方が認知すると良いと思います。
※	1/6/7	受け入れられる企画だったと思います。
※	1/6/7	ガチ議論については内容の重要性もさることながら、動画配信が助かりました。当方は大学で講義があったため神戸に行けなかったのですが、動画配信のおかげで視聴できました。しかしあまり特別企画を増やすと、肝心のシンポジウムやポスター発表と食い合いになってしまうと思います。
※	1/7	文部科学省の担当官とオープンな場で意見交流が出来たことは画期的なことである。何も結論が出ていないにせよ、今後の科学行政に良い影響は与えると思う。
※	1/7	ガチ議論は文科省の立場や学術会議のあり方など非常に勉強になり、よい刺激になりました。
※	1/7	政策を決める側の意見を聞いて良かった。
※	1/7	同上
※	1/7	参加できなかった企画も多く残念でしたが、研究業界の将来について真剣に考えるこの2つの企画には特に賛同しています。
※	1/7	海外ポスドクの支援は留学する後押しにもなると考えたから。また、ガチ議論のような企画は大きな学会でないと実行が困難だから。
※	1/7	日本国内のサイエンスのレベルを上げるのに適切と感じられるため。
※	1/7	ガチ討論では日頃うかがえない政治家の活動もよくわかりました。研究者としてもっと(社会への啓もうという点で)できることがあるのではないかと考えさせられました。
※	1/7	よく頑張ったと思う。ガチ議論は「なんでこんなやつを連れてきたんだ」という声も出るかと想像するが、そういう人も世の中で研究しているんだ、ということ忘れてはならない。ポスドク招聘は、注目度が高く、ある種の風穴を開けることに成功している。
※	2	企業研究者の話聞いた。
※	2	2. アカデミアの研究者が薬剤開発などの世界に興味を持ついい機会になったと思う。7. 海外ポスドク招聘企画は一部の人のみに利益があるものであり、参加者全員から徴収した大会費から多額の補助をするのはどうかと思う。学生の参加費を無料にするとかでもいいかと思っています。
※	2	生命科学研究の一つの大きな目的が医療への貢献だから。
※	2	色々な会社の話が聞いて参考になった。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		理由記述
※	2	学術的にとどまらず、もっと企業も含めて複合的に盛り上がっていると素晴らしいと思います。
※	2	日本人が創業ベンチャーを立ち上げて成功していることを知り刺激を受けた。
※	2/3	音楽があるのは個人的には好ましいが、場所が限られており、すべての人間が目につく場所で行ったほうが良いかと思った。海外ポスドク招聘は、趣旨は良いと思うが、パラマキに近い気がした。国内にも恵まれないポスドクは多くいます。
※	2/3	生演奏は大変良かったです。あいにく特別シンポにほとんど出ていなかったの、少し残念でした。
※	2/3	普段なかなか聞くことができない内容を生で聞くことができた。
※	2/3/4	新鮮でした。
※	2/3/4/5/6/7	様々な企画があり、どれも有意義だった。普段の学会や仕事では出会わない先生方と、特別企画において知り合う事ができた。海外ポスドク招聘企画にて参加したが、自分が海外留学する前にこのような企画があったら、この企画のみにでも学会に参加したと思った。海外ポスドクがまとまって集まって交流できるような企画は学会主体では無かったので、次回は留学を考えている学生さんなどに何かしら経験などを還元できるような機会があればと思う。
※	2/3/5	「薬を創るということ」:製薬企業の一社員として、創薬分野に関心を抱いている人の多さに正直驚いた。これを機に、若手分子生物研究者が製薬業界で力を発揮することを期待したい。「学会とJAZZの融合」:音楽を通じてならば、普段は話せないような立場の先生とも交流できるので、いい試みだと思う。自分もジャズプレーヤーなので、次の機会には是非参加したい。「2050年シンポジウム」:先生方が真面目にふざけている姿が単純に楽しかった。
※	2/3/5	学会で研究者が音楽を演奏してとても楽しそうだったし、聞いていてとてもホッとする気持ちになった。
※	2/3/6/7	一見真面目で業績のある方の意外な側面を見ることができ、親近感が沸いた。
※	2/5/6	学会は雰囲気がおかたいイメージが強く、自分の発表機会がないと参加するつもりにはならないが、今回のように様々な親しみやすい企画がたくさんあると、自分の発表がなくても行ってみようという気になるので。
※	2/5/6	参加したものを挙げました。いつもと違うもので良かったと思います。ただ、毎年企画するのはたいへんだと思いますし、新鮮みもなくなるので、不定期でもよいかと思います。
※	2/7	特別シンポジウムは内容的に興味深かった。
※	2/7	海外ポスドクの旅費の補助は、10万円でもとてもありがたいが、20万円ならもっと良かった。ほとんどの海外ポスドクが欧米から参加していることを考えると、10万円では往復飛行機代全額をカバーすることが出来ないの、で、「創業」のシンポジウムは、米国ベンチャー企業のかたのお話はすごく面白かったが、逆にそのせいで国内大手製薬のかたの話は、魅力に欠けるように感じられた。海外ポスドクのリクルートを目的にこのシンポジウムを開催されているなら、国内製薬のかただけが話をするシンポジウムにしたほうが良かったのではないと思う。
※	3	シンポジウム等は参加できなかったが、音楽が流れているのは気分転換にいいと思う。
※	3	特になし。
※	3	演奏している先生方が楽しそうだったので。
※	3	参加しなかったのですが、JAZZとの融合には興味がありました。JAZZが好きなので..
※	3	とてもわくわくして、楽しかった。分子生物学会に入っていて良かったと初めて思えた。
※	3	Jazz企画は素晴らしかった。私も参加しました。今後とも、継続的に企画していただければと思います。
※	3/4	試みとしては良い。しかし、今回の場合は、中途半端な感じがした。音楽にしても、やるなら、もっと大きな音で、総会、懇親会などで聞かすようにしたら、良いのではないかと？
※	3/4	アウトリーチという以外に、研究以外の話題を通して分子生物学会の中でも異なる分野の研究者同士の接点になっていたのではないかと予想します。また、展示会場の休憩場所付近でのオープンリハは、休憩している人たちにとって、あの音楽があるだけでリラックスできる場になっており、とても良かった。
※	3/4	個人的に楽しめた。
※	3/4	サイエンスとアートの写真展を見て、純粋に科学や生物が好きで研究をする道に進んだ事を思い出せた。JAZZは普段ばり研究をされているかたが楽しげに演奏されているのを見て、より研究者の方々を身近に感じる事ができて、前よりもディスカッションしやすくなった。
※	3/4	応用や社会の役にたつといったこと以前に、サイエンスはもともとアートの一部のようなものであると思うから。
※	3/4	サイエンスの本来の価値・意味は芸術であります。しかし、現代サイエンスは技術にすぎないことが多いです。サイエンスの品格がなくなっています。
※	3/4	あって悪いものではない。JAZZの方は、学会に疲れて一服する時にいい感じだったし、アートの方は、ただ純粋に面白かった。
※	3/4	JAZZよかった
※	3/4	JAZZは楽しみにしていたが、素人からみても聞くに耐えないレベルで、非常に残念だった。せっかくみんなの前でやるのですから、もう少し事前に練習して欲しかったが、片手間なので、仕方がないのでしょうか。アート企画は、非常に面白く、感心するものもあり、ポスターの合間の息抜きとして、非常によかったと思います。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答	1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 3. 「学会とJAZZの融合」 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」	6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) 8. 特別企画全般について評価していない 9. 特になし
---------	---	---

※	質問7 回答	理由記述
※	3/4	自分が参加してめいっばい楽しませてもらったから。
※	3/4	すみません、全日参加ではなかったのですが、参加したもののみ「良かった」と評価しましたが、周りの評判を聞くにすべて良い企画だったと思います。アートもジャズも、学術以外の部分からでも人脈形成できる、良いきっかけになっていたと思います。
※	3/4	3. いい演奏が聴けて、単純によかったです。4. 口頭発表の会場で流れていたアニメがおもしろかったです。諸事情により、それら以外の企画には参加できなかったため、評価ができません(ほんとうは5. には参加したかったです)。
※	3/4	狭い視野に陥りがちな研究者の気持ちや考え方を、少し広い視野から研究を見るような気持ちの転換のきっかけになる。
※	3/4	疲れたときの気晴らしになったので。
※	3/4/5	今までの学会にはない新しい試みであり、直接的には学術活動ではないかもしれないが、新しいメンバー間交流のきっかけになった。
※	3/4/5	学会でシンポジウムだけというのは物足りないし、全日程の全ての内容に興味を持てるわけではないと思います。そのような場合の息抜きとして非常に良かったと思います。
※	3/4/5	Q6同様です。
※	3/4/5	学会=退屈という概念が覆された。科学、芸術、エンターテイメントどれもすばらしいものばかりで、それぞれが融合した場に参加できることができて、非常に有意義な時間を過ごせた。
※	3/4/5	それこそ分子生物学会の存在価値です
※	3/4/5/6	学会はアトラティブであってほしいと考えています。いろいろな意味でとにかく目を引かれる企画満載で全体的には評価すべき点が多いと感じました。ガチ議論に関してはいかにせんツイッター情報が、壇上とががみ合っていないように思います。やり方に改善の余地あり。特別シンポジウムは参加しませんでした。
※	3/4/5/6	サイエンスとアートは不可分だと思うので。
※	3/4/5/6	海外ポスドク招聘に資金をまわすだけではいなか。国内ポスドクは参加費を払っているのに、不平等に思う。優秀な人材は是非招聘すべきだろうが、人数が多すぎるのではないかな。
※	3/4/5/6	非常に楽しかった。想像力が広がった。
※	3/4/5/6	音楽、アート、TED 風プレゼンなど、いろんなアプローチでサイエンスの世界を広げていくことはこれから非常に重要になってくると思う。
※	3/4/5/6/ 7	アート企画は、分子生物学が科学者のためだけではなく広く一般の人に啓蒙していく上で大変よい活動だったと思います。JAZZセッションは学会参加研究者が演奏者として演奏するという今までになかった試みでしたが、この企画がなければつながることのなかった新しい研究者間ネットワークが形成できたことは日本のサイエンスを推進する上でもプラスになったと思います。2050年シンポジウムは、目の前の実験のみに集中しがちな若手研究者が、現状のサイエンスの未来への展開を見据えながら自分のサイエンスを進めていくことの大切さを考えさせられました。
※	3/4/5/6/ 7	3および4に関して: 研究や、研究者自身に興味を持ってもらうため、アートとサイエンスが一体となるのは素晴らしいアイデアであると思う。次はこのような企画が外部で行われるべきであるので、その前段階として十分な可能性を示してくれたのではないかなと思う。5および6に関して: 先端を走る研究者たちの人間性を堪能できる素敵な企画であったと思う。ともすれば接点を持っていないほどの気鋭の先生方の心情をかいま見たことは大変素晴らしい経験となった。7に関して: 海外ポスドクが参加していたことで、海外での研究模様を聞いたことは、今後の自分自身の身の振り方について考えるきっかけとなった。
※	3/4/5/6/ 7	2050年シンポジウムと公開プレゼンテーションについては、サイエンスの要素が含まれながらも聴いてたのしいエンターテイメントで、中でも非常に良かった。JAZZに関しては、音楽があることで場の雰囲気良かったから。
※	3/4/5/7	学術レベルでの交流以外のものが生まれると思うので。
※	3/4/5/7	音楽やアート空間が学会にあるというのは、サイエンスの広がりをより自由にしたように思う。2050年シンポジウムはサイエンス・エンターテイメントとして最高だった。ポスドク招聘企画によって、元気な若手研究者を学会に招くことが出来た。
※	3/4/5/7	もともと芸術に関心があるため、おもしろかったから。
※	3/4/5/7	全部は出れませんでした。2050年シンポなど楽しめました。若い人にもインスピレーションを与えるのでは。
※	3/4/6	研究とは異なる視点でのつながりができることで通常の学会では考えられなかった人の輪の広がりができました。それをきっかけに今までだったら積極的に聞けなかったかもしれない研究内容についても触れることができ貴重な経験でした。
※	3/4/6/7	3、4に関して、研究活動と芸術活動、私は近いものがあると日頃、感じていた。今年の学会会場が今までなく潤って、研究を楽しむ原点に立ち返って、豊かな議論の雰囲気を生み出していたと思う。7に関して、海外で活躍している若手研究者の参加が、例年より多かったと感じる。ワークショップで彼らのレベルの高い話が聞けて刺激された。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答

1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助)
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	3/4/6/7	海外から参加したので、トラベルグラントは大変助かりました。また、音楽を取り入れるという試みは大変面白いと思いました。
※	3/4/6/7	学会には参加していないので、個別のシンポジウムに関する意見は出せないが、チェックしたのものに関してはこれまであまりなかった企画と思われ、学会の一般社会へのアピールという試みとしては、よかったのではないかと思う。
※	3/4/7	余裕を感じさせる階であってほしいので。海外のポスドクは、能力が高くても国内のポスドクより日本人から冷遇されているので。
※	3/4/7	3. 音楽が流れている空間があるとリラックスできて良かった。飛び入りできたらもっと良かった。4. 質の良い写真に触れる機会ができて良かった。 7. 自分が海外に居たときにやって欲しかった(3年前ほど)。発表会場で一般の発表者と区別出来ると話のきっかけになるかも。例えば、番号札に印をつけるとか。
※	3/4/7	3と4しか参加していないから。7はもし自分が海外のポスドクだったとしたら、非常に助かると思うから。
※	3/4/7	会場での音楽が疲れた心の癒しになった。(一部は苛立ちにも…)サイエンスアートは面白かった(しかし関係者によく聞いてみると単なる学生の妄想の産物でしかないと聞いて少しがっかりしたこともあった。)海外ポスドクの方に久しぶりに会えて情報交換と議論をできてたのしかった。(しかし聞かなければよかったドロドロした人間関係の話に泣けた)
※	3/4/7	その他については 人があふれていて入場できなかった。
※	3/4/7	他の企画(例えば1、2、5、6)も、きっと良かったはず、と思うが参加できなかったので評価できません。
※	3/4/7	学会期間のうち一部にしか参加できなかったため、企画はあまり見られなかったが、特によかったと感じたのは、海外のポスドクと話ができた事でした。
※	3/4/7	子連れ参加だったので、会場内で子供と楽しめる企画があったのは良かったです。
※	3/4/7	今回海外ポスドクと話す機会が、学会の後の懇親会でできて有意義だった
※	3/5/6/7	いずれもチャレンジングな企画であるから、そのどれもが万人から評価されるものではないだろうが、本業の合間に企画し、実行することができたという意味では、全ての企画が非常に良かったと考えている。
※	3/6	JAZZ: 頭も体も疲労する学会において、多くの参加者と同じ立場(研究者)が奏でるJAZZは、心を癒してくれる。公開プレゼン: 一般の人向けによく練られていた。細かいDATAよりも、演者の哲学や志が伝わって良かった。
※	3/6	学術講演以外のイベントが多すぎるように思う。
※	3/7	研究には柔軟な思考が必要だから
※	3/7	ホテルのロビーでピアノが流れていて、心なごんだから。また、海外にいる若手研究者へ支援することは、単に海外へ行くことを促すだけではなく、日をへ戻る機会を作ることも重要だと思う。でない、誰も海外へ行きたがらなくなるのでは。誰だって故郷に帰りたいものです。
※	3/7	普段ジャズを聴かないのですが、聴きながら落ち着いた雰囲気学で学会を過ごすことができたから。
※	3/7	学会会場に音楽があるのは良かった。海外のポスドクがたくさん居て、海外のトレンドにも触れることができ良かった。海外のポスドクにトークする場を与えても良いのではないかと思う。
※	3/7	海外ポスドクの問題は多面的で、(海外留学を「流出」としてしまいか、「海外研鑽」となるようにするか)核心はもっと自由に行き来できるように壁を取り払う事だとおもう。人的流れが双方向になればもっと「何をやるか」などを考えられるようになると思う。その点で、7の企画には大いに賛同する。
※	3/7	目についたものについては良かった。チェック以外の企画は覗く時間が無く、感想不可。
※	4	一見すると異なる分野であるサイエンスとアートですが、作品から違うきりくちからサイエンスをみつめるという気持ちになれるという意味ですごく良いなと思った。
※	4	恐竜イラストを手掛ける小田隆さんのトークショーが印象的で、アカデミックや産業界以外にもライフサイエンスを活かした仕事を手掛けている人たちの世界が垣間見えて非常に新鮮だった。
※	4	「サイエンスとアートの接点」は優れた作品が多く、また気分の切り替えにもなって大変良かったと思います。他の企画も楽しかったのですが、全体として盛りだくさん過ぎて、かえってお互いの良さを減らしていたように思います。これらに関わった方々は本来の大会での活動(発表や情報収集)をする時間があつたのか心配します。
※	4/5	普段あまり見られないが重要な側面なのでいいと思います。
※	4/5	サイエンスの可能性を感じれたため
※	4/5/6/7	4はちょっとしたお土産によかった。5と6はかなり練られた内容のものばかりで感心した。7は、海外にいと日本の学会に参加しぬくいという話をしばしば聞いたので、良いきっかけを提供できてよかったのではないか。
※	4/5/6/7	1と2は不参加でした。JAZZはあってもいいですが私は普段から関心がないです。最終日のイベントは他の学会では経験したことのないエンターテインメント性があり、役作りなど入念に準備されていたことに感銘を受けました。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答	1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 3. 「学会とJAZZの融合」 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」	6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) 8. 特別企画全般について評価していない 9. 特になし
---------	---	---

※	質問7 回答	理由記述
※	4/5/6/7	私は、なかなか普段考えることがないscienceの哲学的な意義、あり方などを含め、斬新的な企画が多く、参加したものについては、いずれも興味深いものと感じました。(できれば、他の企画も参加したかったのですが、スケジュールの関係でできずできなかったが残念でした。)
※	4/5/6/7	JAZZ は一力所だけやっているのを目にしたが、あまり見かけなかった。学会中はみんな演題の発表に集中しているので、特に同じ時間に演奏するのは必要ないのではないかと思った。演奏するなら、ポスター発表の近くが良いと思った(ポスターで立って疲れた人が休むところをねらう)。好きな飲み物を飲みながら、ジャズを聴けるなら、そんな贅沢はない。想像力も活発になって、次の研究の良いアイデアも浮かぶだろう！それ以外に企画はすべてよし。近藤滋年会長のセンスの良さに驚きました。
※	4/5/7	楽しかった。楽しくないものに人はなかなか寄ってこないの、間口が広がった。最終日の3企画は良いのもっとやるべき。
※	4/7	1. 官僚と話したりするのはパワーをもった人だけでいいよな。3. JAZZは好きじゃない。4. サイエンスアート部門は結構チャレンジな作品が出品されていて期待度が少なかった割には良かった。定着すれば良いと思う。5. 6最終日は都合で出席できなかったので評価なし7. これは普通にやっておけるべき。(海外のgrantは学会に行くためにextraにお金をくれたりするが、日本の助成金はそういうのが無い)
※	4/7	海外ポスドク招聘について、企画は良いと思うが、ポスター発表の場合、今回の形式では会場が広いので、一カ所に集めてあるほうが個々の人と話がしやすかったと思う。海外ポスドクと雇用する側の出会いには、今回の形式はすこし厳しかった。
※	4/7	アート企画だけ、参加することができた。
※	5	それぞれの演者の方々が、自分の研究分野に信念を持って取り組んでいる様子が伝わってきて、さらにユニーク性も高く、興味深く、かつ面白かった。
※	5/6	積極的に、一般の人たち、あるいは学生など若手の人たちに情報を発信することができていたと感じた。
※	5/6	いい退屈しのぎになった。
※	5/6	サイエンスの面白さをわかりやすく伝える企画だったから。
※	5/7	2050年シンポジウムは斬新だった。パネリストだけではなく、会場からの質疑を受けても、プレゼンターの技量が問われて面白いと思う。海外ポスドク招へいは、国内の若手研究者に良い刺激になったと思う。国内ポジションを得るために、海外の若手ポスドクがこんなに頑張っているというのが分かって良いと思う。一方で、これだけの若い人たちが、職を求めて頑張っている現実を、官僚などお偉いさんに知ってもらい、ポスドクの就職難を打破してもらいたい。
※	5/7	昨今の大学においては、日々の雑用に忙殺されがちだが、研究について落ち着いて長期的な展望をもつことの重要性を再認識できたから。
※	7	海外で頑張っているポスドクに日本で発表するチャンスを提供してくれたため。
※	7	実際に海外で苦労している若手が帰国する機会を得て、多くの後輩と再会出来ました。
※	7	リストを見てたくさんいることに驚いた。特別企画よりはワークショップの中に、これまでと視点の違う面白いものがあつたと思う。
※	7	国内でもポスドクという立場の不安定さに憂慮する方が多い中、海外在住の方はなおさらと思います。こういった企画はポスドクの方々に勇気づけると思います。
※	7	海外にいる知り合いに会えたため。
※	7	海外のアクティブな研究室の話を日本で聞けたので、面白かったです。
※	7	海外の日本人研究者が多数参加されて学会年会が盛り上がったと思うから
※	7	日本の学会はアジア諸国の方が何割か参加されるようになりましたが、特別講演者以外の欧米諸国の参加者が殆どいない状況で、世界規模の研究発表を聞くことは難しい状況です。しかし海外の学会は世界規模の研究者が参加して活気溢れるものばかりで、日本国内の学会と全く異なります。そのため、海外でポスドクをされている日本人研究者を国内学会に参加してもらえるような支援体制があり、その方を通じて海外研究者の方の参加を促してもらえるような企画を今後も継続して希望します
※	7	・自分の専門に関わる口頭発表の時間に被っている場合はそちらを優先したため、結果的にあまり特別企画を回ることができなかった。・「2050年シンポジウム」についてはやった意義が見いだせなかった。・「生命世界を問う」については演出等は素晴らしいと思ったが、どうしてもTEDのトーク内容と比較してしまうため、肝心のプレゼンターの力量が微妙に感じられてしまった。・チャレンジ自体は良いと思った。特に前例のない段階からここまで作り上げた事については賞賛を送りたい。
※	7	今後、自分が海外留学をした時に日本との繋がりを持てる一つのきっかけになると感じたから。実際、海外ポスドクの先輩と久しぶりに日本で会うことができ、たくさん情報交換をできたから。
※	7	JAZZやアートに関しては学会場が広すぎるため、どこにあるのかわからず行くことができなかった。またスケジュールがタイトに感じたので、行く暇がなかった。海外ポスドク招聘企画に関しては、留学未経験者にとってはとても良い機会だったと思うし、海外ポスドクが日本の研究社会と繋がりを持てるのは良かったと思う。
※	7	海外ポスドクのレベルの高い研究発表が聞けた。
※	7	Q6への回答と同じ。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

質問7. 回答		理由記述
	1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 3. 「学会とJAZZの融合」 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」	6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) 8. 特別企画全般について評価していない 9. 特になし
※	質問7 回答	理由記述
※	7	他の企画には参加できなかったもので、よくわかりません。
※	7	補助があれば帰国しやすくなるだろうし、海外ラボや研究状況などについての生の情報を得られる点で日本にいる者にとってもメリットが大きいと思う。
※	7	招聘されたポスドク、これから海外へ行きたいと考えている若手研究者双方にとって、良い情報共有の場をもつことができた。
※	7	自分がこれから海外に留学した際に、日本に戻ってくる機会が増えるから
※	7/8	若者やマスコミにアピールするために、斬新な企画を実行した勇気には敬意を表する。しかし、シンポジウム・ワークショップ開催時間帯に特別企画が開催されたり、ポスター発表の時間帯なのにビールを飲んでジャズを聴いている研究者がいるような時間割では、発表者が可哀想である。特にリラックス企画は、夜間か後夜祭として開催してはどうか？
※	8	これらの企画に参加していないので。
※	8	どれも見かけなかった
※	8	趣味を仕事場に持ち込んでいるような居心地の悪さを感じた。一人一人の研究者が、普段からそれぞれの地域社会に飛び出していけばいいのであって、忙しい中、情報収集のために集まる年会でやることはないのではないかなと思う。もちろん企画に携わった人々は素晴らしい働きをしたと思うし、喜んだ方々も大勢居ると思います
※	8	Q6と同じ
※	8	出席していないので、意見は差し控させていただきます。
※	8	後々ネット配信等でアーカイブ化するのであれば、特別企画はもっと核となる話題を絞ったセッションを複数実施して、興味のある人がより参加しやすくする様に設定し、後から他の分野も動画で参照できる様にした方が良かった。アート企画に関しては、ポスター会場でやや浮いている上に、所属や氏名くらいは解り易い統一フォーマットにして欲しかった。どうせなら、軽食兼雑談コーナーを広めにし、JAZZと同じ空間でアート展示した方が良かった様に思われる。
※	8	企画が多すぎて、busy.ポスドク招聘とか、参加者から集めたお金の使い道としておかしいのではないかと「同窓会」のサポート？
※	8	特別企画の宣伝が多すぎた。研究自体が楽しいのだから研究に関連のない企画はあまり必要ないような気がする。
※	8	あまりにも幼稚。
※	8	特にJazzはうざかった。学会をますます祭りにしたいのか？
※	8	企画に溺れた節がある。
※	8	上っ面なだけの一時的のぎの企画はいらぬ
※	8/9	海外とは異なり、日本では「バカであることが素晴らしい」という価値観があるという指摘が従来からされています。そのような世論に迎合するような企画は自己満足でしかないように思います。アウトリーチ活動というのであれば、一般の人むけの公開講演を数多くするほうが有意義だと思います。
※	9	忙しくて自身の発表のセッション以外聞いていないので、よくわかりません。
※	9	年会に参加していないので何ともいえない。
※	9	参加しなかったので評価できない
※	9	まったく予算の無駄である
※	9	全体的になんかがっかり。むしろM2の発表練習会の場としてとらえなおし、組み直してもいいのではないかと
※	9	見ていない(聞いていない)ので評価不能。
※	9	学会に参加しておらず、自分自身で見ていないので。
※	9	参加していないのでなんと
※	9	参加する人は熱心に多くの特別企画に参加するが、参加しない人は一切参加しないような気がする。
※	9	自分自身は学術講演しか興味がないが、それ以外のことを学会が試みるのは否定はしません。
※	9	シンポジウム、ワークショップのレベルが低下しているように感じる。
※	9	色物感があり、どれも良いとは思えなかった。
※	9	1は興味ありますが、仲間内でも出た意見ですが、動画配信されたところで時間をかけて見ようという気はおきません。お手数だとは思いますが、まとめをテキストや画像ベースでわかりやすく配信されるとありがたい。是非、成果の宣伝も熱心にしていただければ。正直なところ、他のもともと興味ある内容以上に心ひかれるということはなく、それだったら今のうちに気になるポスターを見に行ったり、次の予定に移動してしまいました。3, 4のアート関連は好みということになると思います。初めての企画が多かったので、徐々によいものにしていけばよいと思います。
※	9	「薬を創る」は多くの聴衆がおり、マスコミもその盛況を伝えたが、残念ながら企画と実践内容に工夫が欲しかった。かつ、眠ったり喋ったりと聴いていない聴衆が従来の同等の企画と比べ顕著に多く、期待と異なる印象を持つ参加者は少なくないのではないかと。
※	9	年会に必要な。
※	9	すいません。他のものと重なったりして、ほとんど参加していません。
※	9	参加していないので分からない。

質問8. 「質問7. 年会特別企画について良かったもの <複数回答可>」の回答理由

- 質問7. 回答
- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」 | 6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」 |
| 2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」 | 7. 海外ポスドク招聘企画(旅費補助) |
| 3. 「学会とJAZZの融合」 | 8. 特別企画全般について評価していない |
| 4. アート企画「サイエンスとアートの接点」 | 9. 特になし |
| 5. SFTトークショー「2050年シンポジウム」 | |

※	質問7 回答	理由記述
※	9	参加していない
※	9	特に興味をもつ企画はなかった。
※	9	都合により特別企画には参加できませんでした。
※	9	若者はもう少ししっかりしていると思う。また、おじさんが頑張って若者目線にしているようでいたい。
※	9	参加したかったが、時間が合わず参加できなかった。しかし、幅広く取り組んでいることがわかり、参加意欲を持った。時間が許せば参加したいと思う。
※	9	申し訳ありません。出席したものが多くないので評価は差し控えさせていただきます。
※	9	残念ながら特別企画に参加する時間がなかったため。
※	9	特別企画に参加していないので、評価できません。
※	9	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	9	ガチ議論とか面白そうでしたが、夜だったので参加せずに、旧友と飲みに行っちゃいました。いつの時間がいいのかわかりませんが、これら企画の時間はもう少し考えたほうがいいと思います。
※	9	結局どれも興味が持てず、見なかったのです。
※	9	参加していないため、回答できない。
※	9	特別企画に参加していないので。
※	9	方向性は賛同するが、個人的には、個々の企画には魅力的な所が少なかった。
※	9	「サイエンスとアートの接点」に期待していたが、イマイチだったようにおもう

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	共同研究のマッチングなんかも出来ませんか？
※	参加していないので分からない。
※	アクセスが集中するためか、システムが動かない時間があった。その場合は要旨集に頼った。
※	毎朝、本日のトピックをメールでお知らせいただいたのはとても参考になりました。
※	非常に使いやすかった。すばらしい
※	良かった。しかし彼氏彼女募集中ボタンは必要ない気がする。
※	要旨がすぐに見られるのはとても良いと感じました。スケジュールリングの機能など充実して欲しいです。
※	like押しておかないとスケジュールに追加できない仕組みはよくない。
※	参加していないので、ITシステムについては感想なし。
※	印刷体の要旨集をなくしたのはよかった。目次だけの冊子を配ったのもよかった。何もないと困ると思う。会場に行けばWi-Fiが使えるので、会場に長めにいた気がする。
※	「電子ポスターマップ」は分かりにくかった。演題の一覧から要旨PDFを閲覧できるようにして欲しい。
※	likeの数と研究発表の内容を比較するのは色々な勉強になるので、続けて欲しいです。
※	出席していないので解らないが、新しい試みで遣られたようで、次は参加してみたい。
※	利用していないので評価不能。
※	不便だったが、世の流れ的にしょうがないのかなとは思ふ。
※	ITについていけないオジサンのための革新的な情報インタラクションのアイデアももっと出てくると良いなあ。
※	PDFであれば、目次を作って跳べるようにして欲しい。eBOOK形式でも良いのでは？全部が1ファイルで、めくれ、該当ページにすぐとべる、などができるほうがよい。
※	良かったと思います。
※	各演題の「secret like」は改良すべきである。名前はsecretでもいいが、クリックした場合全体的な「like」の数には加えるべきではないでしょうか？多くの人がクリックしても見た目は数が増えていないので、人気が無いように見えるのは良くないと思います。もし数自体も隠すのであれば、このシステム自体がいらないと思います。
※	キーワード検索が粗いと感じた。例えば、「動物」というキーワードで検索すると、「動」と「物」を含むページが全てヒットする。あと、大学などの所属でも検索できると便利だと思った。
※	オンラインだと重い紙を持ち歩かなくてよいため非常によい。オフラインは完全に廃止しても良いと思う。将来的には、ポスター発表も紙を貼るのではなく、USBのデータを入れるだけでディスプレイで発表できるようになると動画等も動かして便利。
※	演者の索引がないのが非常に不便だった。「like」のボタンは不要と思う。
※	likeをおした演題がまとまるのはよいが、数が小さいものからの順番にならないので見て回るには不便だった。
※	プログラムのシステムはとても良くできていたと思います。スケジュールなども見やすかったです。
※	検索機能がとても充実していたら良かったと思いました。例えばある特定の日、ポスター・口頭発表の別ごとに、キーワード検索がかけられたら良かったです。
※	昨年よりも随所に改善点が見つけれ、開発者の方には感謝している。当然紙媒体の方が良いという人もいるわけで、完全にオンラインのみに移行することはしばらくは難しいだろうが、これからも継続してじょじょに良くなっていくことで、選択肢として魅力的になればいいし、それによって経費削減などにつながればいいと思う。もし可能であれば、システムが小さな学会や研究会で再利用できるよう、オープンソースでフレームワークを公開して欲しい。
※	どこにいても非常に繋がりがよく、分厚い要旨集を持ち歩かなくても不便さを感じなかった。
※	今回参加していないので、使用感には分かりませんが、IT化が進められているのは良いなと思います。
※	とても便利ですばらしいと思った。
※	所属名での検索ができた方がよい。secret like の数がわかるようにして欲しい。
※	スマートフォンを持っていない人間は不便だった。
※	likeやスケジュールに入れたポスター演題を番号順にソートしたい。
※	発表要旨は前回までの様に、一つひとつ独立したpdfで落とせるようにして欲しい。意外と目的の前後は不必要だったりするので。スマホとタブレットではインターフェースが違う方が見やすいかとも思ったが技術的には難しいのでしょうか。
※	「彼氏・彼女募集中」などの機能は不要。遊びの要素はあってもよいのだが、ITシステムに限らず、今年は全般的にやり過ぎだと思ふ。
※	基本的にどこでも無線が拾えたのは非常に良かったです。検索はひどかった。どうして東京大学で検索して東京工業大学や東京農工大学などなど出てくるのか。欲しい情報が探し出せなかった。
※	・フリーワード検索の結果がおかしくて使いにくかった。ユーザが入力した検索キーワードを形態素に分けないほうがよいのでは。・PDF版の要旨集を公開していたが、学会が終わっても手元に保存しておける点で良い。
※	like ボタンは良かったです。研究者間の相互作用を促したのではないのでしょうか？また、自分の演題がどれくらい興味を引きつけているのか、ある程度わかりました。
※	「like」のつかなかった学生のモチベーションを維持するのが大変だった。そのようなテーマを与えた側に原因があると言われればそのとおり。
※	冊子版を全国大学図書館宛に資料として配布しておくことも重要ではないかと思う。
※	紙媒体の要旨集やプログラム集は余白にメモをとることができるのでそのようなことが可能であれば、より便利になる
※	昨年の福岡のシステムの方が良くできていた。
※	PC以外にIT化されていないもので、ちょっと不便な感じがしましたが、私もスマホが必要ななあ。そういえば、タブレットを持っている人も多かったなあ。
※	演題の検索システムが使いにくいと感じた。(検索語“ex”だと“extra”が検索からみれるなど)

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	使い勝手がよくないのか私がいまいち使いこなせていないのかわからないが、なかなか有効活用できなかった。
※	全ポスターの表題一覧PDFがあると良かった。
※	どの会場でも、いつでもインターネットで検索が可能なのは、とても便利でした。特に、海外から来て、日本で使える携帯電話を持っておりませんでしたので、メール等で連絡が取れるのは便利でした。
※	2012年度の方が、システムが分かりやすかった。Myスケジュールで選択したポスター演題が番号順に並ばず、非常に使いづらかった。
※	ポスター会場から少し離れるとLANがつながらなくなりました。とくに、会場移動の途中や外の休憩場所での要旨チェックができないのはもったいないと思いました。
※	慣れていないためか、戸惑うことが多かった。
※	My scheduleに並び替え機能があると便利だと思う。
※	トップページに雑多な情報が多い感じがした
※	注目企画は毎日号外を出すとか、紙ベースのものは一工夫あってもよいかと思います。
※	検索画面がトップページに欲しかった。もう少し、ポスター演題などに引き込む工夫が欲しかった。
※	特にsecret like modelはよかった。自分のスケジュールが一元管理できるのは本当にありがたい。少なくとも今年のシステム機能くらいでないと冊子が不可欠になってしまう。
※	Likeによって事前からのつながりがいいと思いました。ディスカッションも盛り上がると思います。
※	likeで個別に選択した演題に会場が書かれていなかったのが都度、日程に戻る必要があったのが面倒だった。プログラムのコードに会場番号を入れるとか工夫してほしい。
※	学会の要旨に関しては、オンラインソフトの運用期間が過ぎると確認出来なくなるので、データを総体をダウンロードできることは重要。でなければ、2年くらいはアクセスを確保して欲しい。
※	ブラウザにより表示がおかしくなることがあった。Firefox(ver.24)では表示されない部分が多々あり、紙媒体でのプログラムが無かったため非常に不便であった。昨年の分子生物学会ではそのようなトラブルは無く、今年度に限った問題であった。
※	参加していないので良く分かりません。
※	ポスター演題投稿する際、最終版(タイトルや著者名なども含む要旨)を表示できるようにして、確認してから投稿するよう変えてもらいたい。
※	重い冊子を持ち歩かなくていいという意味では、よかったが、まだ紙媒体に慣れているためか、特にポスターは分かりづらかった。
※	35回年会に比べて、36回年会のホームページにはITシステムの説明が少なかったように感じます。
※	冊子を一切なくすのであれば貧弱な検索だけはどうにかすべき。
※	キーワードや講演者名をひとつひとつ入力するのではなく、冊子体の用紙集をぱらぱらめくる感覚で、参加者や要旨を斜め読みできるようなものが欲しい。例えば、参加予定の知人が居るのか否か、いつでもどこに演題を出しているのか、巻末の索引でざっと様子が把握できるようにしたい。(ポスター会場で知人達とそのような話題になった)
※	前回と比べ、システムの安定度が格段に増しており、使いやすかった。一方でリンクやリコメドがあまり機能していないようにも思えた。
※	iPadやiPhoneを持ってない若者だっていることも考慮してほしい。
※	やはり、電波環境の悪いところで場所や演題を探せる仕組みも大事と思いました。
※	検索システムに柔軟性がもっと必要だと思った。学校名からの検索や分野での検索など。
※	検索機能が使いにくかった。
※	必要な情報のみを簡単に見ることができるシステムが望ましい。likeボタンはいらない。
※	「secret like」をポチっとしたとき、「誰が like を押したか分からないけど、押してくれた総数は分かる」というシステムになっていれば、より良かったのではと思います。
※	スマホやタブレットの使用が想定されているようだが、よほどインターフェイスが簡素で直感的でないと見難いし、余計な手間をかけさせられていると感じる。
※	Like/secret likeを選んでからでないとスケジュールをくめないのは妙な感じがしました。likeはoptionalでsecret likeというのはいらないのではと思いました。
※	ITシステムを使用していない。
※	IT化に伴う弊害として、プレゼン中にノートPCやタブレット端末を使用する方が目立ったように思います。写真撮影・録音同様の注意喚起が必要ではないでしょうか？
※	参加していないので、評価せず。
※	世の中全般、IT化の中、資源節約ということで、だいぶIT化されてきていますが、スマートフォン・タブレット・ipad・軽量ノートPCを持っていない人にとっては、非常に動きにくい状況になってしまっているのも現状だと思います。その辺りの対策もあるとより良くなっていくのではないのでしょうか。スマートフォンでの検索も結構面倒と聞きました。
※	時代の流れかもしれませんが、IT機器を持っていない人は何も調べられないというのもどうなのでしょう。
※	参加していないので分からない。
※	Likeを押さないとスケジュールに追加できないのは不便に感じた。
※	メールシステムが事実上、機能していなかった(メールを送っても相手が気づいていない??)。
※	つながりにくくなるのがあったのが残念です。インフラの強度は課題かと。
※	検索機能に、所属名での検索ができるようにしてほしい。
※	チェックしたポスターを番号順に表示して欲しかった。
※	Likeしたアブストラクト等をPDFなどの形でアーカイブしてダウンロードできると嬉しいです。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	抄録集が見つらなかった。せっかく細かい分野に分けてあるのだから、その分野くらいは抄録をまとめてあると見やすいと思います。
※	likeボタンを押さないとスケジュールに入れることができず、不便であった。likeボタンは不要である。
※	込んでいるのか、電波が悪いのかで、つながらない時が時々あったが、接続はおおむね良好だった。
※	このようなシステム自体は評価するが、やはりオフラインでも動き、見た目はやや地味だが軽快で必要な機能に特化している生化学会のアプリの方が、全てにおいて上回っていた。似た様なアプリを使う学会も多いので、他学会と共通のシステムにすれば慣れるまでの無駄な時間の浪費の節約にもなると思われる。like機能等に関しても、結局何についてLikeなのか解り難い気がした。例えば、ポスター賞の投票と連動したLikeと、各研究者個人のブックマーク機能に分けていけば、前者は純粋に出来の良いポスターとして若年研究者の模範となり、後者は同じ分野・興味の研究者ネットワーク形成の補助に使えられる。
※	自分はそのシステムをあまり上手く使いこなせていない。
※	現状はキーワードなどで検索できる程度でよい感もあるが、その他、いろいろ工夫してみるのも貴重な努力と思う。
※	全体的にシステムは使いやすかった。ポスター発表演題のみのPDFファイルが分割され過ぎていたので、工夫して頂きたいと思います。
※	会場では、英語画面しか表示できず、自分の操作ミスなのか、OSやブラウザの問題なのか、そういうものなのか、確かめるすべがなかった。
※	どこでもwifiが使えたことはとても良かった。継続していただきたいです。
※	会場が分散しすぎ。そのせいでITシステムを使う気が起きない。
※	著者検索、キーワード検索ができなかったので不便だった。
※	パソコンを持って歩けなかったので利用する機械をのがしました。
※	IT(ipadやスマートフォン)を使用しない者にとっては非常にわかりにくい。
※	1)検索機能を強化してほしい。キーワードを入力して検索しても、目的外の検索結果があまりにも多すぎる。2)Wi-Fi環境が整っているのだから、オフラインで利用できる「アプリ」までは必要ないと思う。それよりも端末を持たない参加者への配慮をしてほしい(携帯電話のインターネット機能を利用して要旨閲覧システムを利用したが、演題の検索はできたものの要旨本文が閲覧できずがっかり)。
※	会場に入ってから、ITは役に立たなかった(ipadやスマートフォンを持っていないため)パラレルセッションが多いので、聞けないセッションも多い。会員に対して、後日、セッションが見える聞けるように、会員限定のYou tubeなどで、重要なセッションを見ることができるようにしてほしい。癌学会では基礎コースについては、ネットでセッションを一般に公開している。
※	1と2はあってもなくてもどちらでもよいと思った。ITシステムを導入することには賛成。
※	現行のオンライン要旨は是非とも続けて欲しい、某学会のスマートフォン/タブレットアプリとは雲泥の差。名前やキーワードだけでなく、所属でも検索できるようにしてほしい。secret likeの試みは良いが、その数を表示してはどうか。直感的に使えるが、直感的に使えない人のためにマニュアルを用意してはどうか。それぞれのabstractなどに簡単なメモを記入したい時があるのですが、実装は難しそうですか？参加者がどんなデバイス(スマートフォン、タブレット、PCなど)を所持して、何をを使ってオンライン要旨を見ていたのか、その辺の統計はありますか？
※	検索ボタン(虫めがね)がわかりづらかったが、Myスケジュールは大いに役立った。
※	各シンポジウムのイントロダクションの文章・コンセプトが良かった。これらの研究が全体的な視点で、どの位置にある研究で、何を狙っているか、総合的な視点で演者を選定している点が良かった。
※	PHSかつフィーチャー・フォンなので恩恵がなかった。
※	各演題者がログインしてシステムを利用しているのか、が分かると良いと思った
※	会場にWi-fiがなくて困った
※	ITシステムを使いこなさなければ参加できなくなるような、参加しづらくなるような学会にはして欲しくない。
※	前年度よりさらに良くなっていた。コミュニケーションがとれる形が継続されているのが大変よくできていて、知り合いが増えた。マンモス学会は単に知り合いと話ただけ・・という埋没感が常につきまとう学会ですが、連絡をとりあえただけでトークの感想が聞けたり、これまでになかった繋がりが生まれた。最終的には生身の人間に繋がる仕組み、これこそ大きな学会の価値だと思いました。Likeは、連絡をとるきっかけになった。
※	恋人募集フラグの前に、共同研究者募集フラグの設置が先でしょ。バカじゃないの？
※	各ページから他のページに移動する、前のページに戻るなどの操作に少し扱いにくい部分があった点と、前年のオンライン要旨ではタイムラインに沿ったプログラム表示などの工夫があったが、今回はなかった点を改善して欲しい。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	建物を移動するたびに接続し直すのがやや不便で、オフラインもあると良いと思いました。ポスターの条件検索機能も充実してもらえるとありがたいです。
※	ITシステムはすごくよかったです。重たいスケジュール冊子を持ち歩く必要がなかった。会場でも何人もの人がタブレットを持ち歩いているのをみたので、皆さん活用されていたと思います。
※	著者索引が簡便にできると良い
※	検索は便利だったが、日付ごとの絞り込みなどのフィルタ機能が欲しかった
※	前年に引き続き、この試みはとても良かったです。自分のスケジュール管理にも役立ちました。前回のシステムを改善しているのも良かったです。今後もどんどん発展させていってほしいと思います。
※	使い方がよくわからなかった。

質問9. ITシステム全般について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	Secret likeを一度押すと、likeに変更できなくなるのが不便でした。likeだけでなく、ブックマーク機能を充実させてほしいです。冊子のようにポスターの演題すべてを一覧で見られるような機能が欲しいです。冊子をパラパラめくって、たまたまおもしろそうな演題が見つかるような楽しさを電子媒体でも再現してほしいです。スマートフォンで見られるのは良かったです。
※	ITシステムは浸透に時間がかかると思われるが、かなり便利であったので継続してほしい。
※	今回のような取り組みは、いろんな意味でよかったと思う。学会には参加できなかったが、各種情報が毎日メールで来るなど、ある程度学会の臨場感が味わえた感じがしたことは、大変よかった。このような取り組みは、今後もある程度継続していただけるとよいと思う。
※	無線LANの使用できる場所が限定されすぎて、正直不便だった。せめてホテルの廊下など、発表会場間の通り道で無線LANが使用できると良かった。無線LANが用意できないのなら、上記のように、オフラインで利用可能にして欲しい。
※	likeじゃないけど、スケジュールに入れたい場合に対応してほしい。評価するのは事後。スケジュールに入れるのは事前なので、like後にしかスケジュールできないのは順序が逆。これだけの規模の参加者の更新系トランザクションを破綻させずに機能させたのは秀逸の一言。
※	マイスケジュールのポスターの部分を演題番号順にすることができなかった(やり方があったのならば、そのやり方を見つけることができなかった)。
※	検索の選択肢は増やして頂きたいと思います(所属など)。
※	オフラインは使っていないが、オフラインで同じ機能があるならオフラインでも良いのでは。端末1台とは限らないので、何らかの方法で同期できるシステムは必要と思う。
※	基本的にはとても使いやすいシステムだったので、今後もこのようなシステムを続けて欲しいが、検索機能のみ最悪だった。よくわからない検索結果が大量に出てきて、使い物にならなかった。
※	ITががんばったのは認めるが、ポスター会場遠すぎです。
※	ポスター演題の検索が難しかった。自分がピックアップした演題の要旨をまとめてプリントアウトできるシステムがあればよかった。
※	日付や演題形式(シンポジウム、ポスターなど)を指定して検索できないのが使いづかった。
※	スマホやタブレットを持っていないものにとっては置いていかれた気分です。でも将来的にはどんどんこういうシステムになっていくのでしょう。
※	スマホ(実際にはiPod touch)で見るには相当つらく、特にポスターマップから見たいポスターの要旨に辿り着くまでに苛ついていました。PCからスマホまでカバーできるシステムを作ることは諦めてもよいかもしれません。IT化自体には賛成で、一昨年以降どこからでも年会サイトや他にアクセスできるようになったメリットは大きかったです。
※	初めての学会で初めてのシステムで便利ではあったが非常に戸惑った。学会が終わってから知った機能も多かったので、初回ログイン時にガイダンスを設けたらより使いこなせたと思う。
※	電子機器を使うことあり気の学会だったにも関わらず、充電できるようなポイントを設置していないところが配慮が足りないように思った。
※	告知がわかりにくく、学会終了後に気づいたものもあったので、残念だった。
※	実は、オンデマンド印刷したいくらい。ペラペラとめくりながら、いろいろな研究をざっと見るというような媒体が欲しいから。
※	まだまだ改善の余地はあると思うが、紙の冊子は必要なかった。書き込み欄などのコミュニケーションツールは知らない人に対しては使うのに抵抗があった。もう少し気楽に使えるような工夫(自己紹介など?)が必要かもしれない。
※	システムとしては、WebページよりiPhone/Androidアプリの方が良かったと思います。求職中/大学院生募集中/恋人募集中フラグは素晴らしい試みです！特に周りの若い学生さんからは大評判でした。
※	ITシステム化することは非常に重要だが、今年のは見にくかった。去年のほうがよかった。逆にWiFiのアクセスについては、今年のほうが圧倒的にスムーズでサクサクつながってくれたので使いやすかった。去年は重かった、。。。
※	マイスケジュールと全体のスケジュールがちゃんとリンクしないというか操作しにくかった印象がある。
※	すみません。いろんな発表を聞くのに忙しく、有効利用していません。基本的に賛成です。
※	web上で議論できるようにするとよいかも演者の発表に聴衆がコメントするなど
※	ITシステムの利用は非常に良い。検索もキーワードや人物名でできて、非常に便利だった。もう紙の時代は完全に終わったという感じである。ただ、欲を言えば、人物名(発表者名)からPubmedにアクセスして、最近の論文が参照できればベスト。やっぱり良い研究発表を見ると、これまでのその方がどんな論分を出しているかを知りたいと思う人は多いのではないかな。
※	・データが重いのか、スクロールが動きにくかった。・もっと各演題や各演者に、関連リンクを充実させてほしかった。・会場がいろいろな建物に分散しているので、移動中、wifiが切れるのが困った。オフラインでも見られるコンテンツが欲しかった。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスターの題目だけでも一覧にしてもらいたい。厚さの点で問題なら、シンポジウム等の要旨を無くしてもいいかと思う。
※	iPadなどの進化を待たなければなりません、冊子版はいずれなくなると思います。今回に関しては冊子は必要で、出来ればポスターのタイトル一覧も欲しかったです。
※	個人的には冊子にいろいろ情報を載せてほしいが、予算との兼ね合いなのでやむを得ないと思う。
※	タイトルと著者は、シンポジウム、ワークショップ、ポスター発表にかかわらず、目次つきの冊子にしたらと考える。
※	ポスター発表を重視するべきと思う。口頭発表のみの要旨集には興味がわかenかった。ポスターのプログラムを省略するならば、会場に一覧を掲示したらどうでしょうか。
※	このさい、紙媒体はやめてしまってもよいです。
※	pdf版をもっとダウンロードしやすくしてほしい(一括ダウンロード)一部抜けているものがいつもある
※	演題検索システムが貧弱すぎる。もっと充実させて、完全なpaperless化を目指すべき。nameバッジの郵送もやめて、各自印刷してもらえば郵送や印刷コストも下げられます。
※	今回のプログラム集はどうなっているのか解らないが、以前頂いていたプログラムは重く、何とかしていただきたいと思ったものである。
※	演題名のみ乗せたりリストとして別版があると便利だと思いました。要旨はオンライン検索でよいと思います。
※	電子版は見ないので、一度に多くの要旨を見ることができる従来の姿に戻すべき。
※	見て回る上でポスターの演題は欲しかった気がします。
※	オンラインのプログラムから自分の興味のある演題をピックアップして、印刷しようと思ったが、昨年ほどうまくいかなかった。アウトプットできる内容も、演題だけ、あるいは要旨も、あるいは所属は印刷しないなど、自分でカスタマイズできるとよい。今年度のものでできたのかな?
※	オンラインシステムが使いやすかったので、プログラムの情報が少なくとも不便さを感じなかった。
※	冊子が無いと、不便ですし、ポスターのステイタスが下がったように感じました。ポスター分は分冊として、携帯するかは会員の判断に任せられるようにするのもありかと思います。
※	IT化の推進は結構だが、あくまでオプションの一つにすべき。ポストクは貧乏暇なしで、タブレット端末を買う余裕などない。
※	スマホ等を持っていなかったため、IT化が進んでしまうと、色々と不便な点があった(なので、急遽、スマホを購入した)。よって、希望者にはポスター演題プログラムの冊子版を配布する等をしないと、困る人もいるのではないかと思います。
※	ポスター要旨のpdf版は欲しかったかも
※	著者索引はなんらかの形で復活させてください。
※	必要な人だけ有料で提供でよいと思います。
※	個人的には、PDFがあれば紙の冊子は不要。大量の冊子が毎年捨てられているのは勿体ないですね。冊子版は、欲しい人にだけ実費で販売すればよいと思う。
※	事前さんか登録していない場合に閲覧できないなら、掲載すべき。
※	今まで重さ・大きさゆえに邪魔に感じていた要旨集。それがオンライン化されればかなり良いと考えていた。しかしながら、意外にも、オンライン化されたら、逆に要旨を前ほど見なくなってしまった。私の周囲の研究者も同意見が多く、"いつでも見れる"と思うと、読まなくなってしまうものなのかもしれない。少し利便性について考えさせられた。
※	ポスター演題プログラムと著者索引はあったほうがよいと思いましたが(特にポスター演題のタイトルだけでも)、意図した用途は一覧として見るだけなので簡略版でよいと思います。例えば筆頭著者だけに、所属は載せない、あるいはタイトルのみ、といった形でもよいかと思ひます。
※	ポスター演題プログラムを今回のようなプログラム集と別冊にしても良いと考える。必要な人は持っていきたくらうし、必要ない人は持っていくから。
※	1と3は相反しますが、ポスターの演題名一覧は欲しかったなあ、と思います。内容の詳細はネットで見られれば充分ですが、ゼロから興味あるタイトルをネットで探すのは結構面倒でした。
※	分厚い抄録集を抱えて移動しなくて済むのは、とても楽ですし、また紙の節約にもなります。今回のような、簡易プログラム集+電子抄録集の組み合わせはとても素晴らしいと思ひます。
※	印刷版のプログラム集については、そのままでもよいと思ひました。しかし、ポスターを探すときに、検索機能が使いづらかったです。もしかしら、存在していたのかもしれませんが、キーワードを入れたら、日にちごとに検索結果が表示される機能がほしかったです。もしその機能が存在していたなら、気づきやすくしていただきたかったです。
※	今回のプログラム程度だと必要ないです。発行するなら、ポスター演題まで載っているほうがよいです。
※	アナログ人間にも配慮して下さい。また、1年後に講演プログラムを事務局から求められる場合もありますので、紙媒体を残しておいた方がよいこともあります。
※	IT版での著者索引が欲しかった。
※	メモ用の余白がほしい
※	軽量化は支持するが、その日に行われるワークショップ・ポスター発表などの「一覧(著者名とタイトルだけで良い)」が、パッと目に見える形でウェブ上に欲しかった。PDFファイルはダウンロードして開かなければならないので、使い勝手が悪い。
※	ポスターのタイトルだけでも冊子にあると便利だと思ひた。
※	プログラム集は学会参加者(参加費を払った会員)にのみ送ればよいと思ひます。学会会員全員に送る必要はなく、プログラム集のみ欲しい人も費用を負担すべき。
※	冊子を一切なくすのであれば貧弱な検索だけはどうにかすべき。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	PDF版はこれまで通り配布。その他に、上記Q9のようにPC、iPadやスマートフォンで「会場を歩きながら要旨集をめくって読める」ことが簡単かつ探しやすくしてほしい。
※	ポスター演題プログラムは載せてほしい。(簡略化したものでも良い)
※	iPADの類を持っていないものにとっては、矢張りポスターのプログラムが無いのは不便であった。
※	オンライン版が極めて優秀にできているので、冊子版はもはやなくてもよいと思う。
※	ITだけではやはりポスターが探しにくかった。
※	SfNの様にアプリでプログラム集を配布してほしい。
※	30代までは電子版のみでOKのようで、50代以上のボス達は全員が冊子を持ち歩いていて、従って、徐々に移行していくのが望ましいと思われる。
※	ポスターの表題は、冊子に載せて欲しい。
※	ポスター演題がどこにあるか当初わからず、苦労しました。冊子はなくてもいいとは思っているのですが、でもやはりばらばらと総覧するには冊子体のほうが便利ですね。
※	企業広告ページこそ削除すべきである。カバーも薄いもので良い。バイオテクノロジーセミナーに関して、各セミナーに1ページずつ使用するは無駄である。セミナータイトルと企業名のリストだけで十分である。
※	ポスター演題の「要旨」は冊子に必要ないと思います。
※	恐らくPDF配信のみでOKです。
※	ネットで要旨を閲覧できる期限を設けるべきでは無い。もしくは少なくとも10年は可能にしてほしい。
※	演者数の限定、Running Titleやet al.表記の使用、演者とAcknowledgementの厳密化(研究公正性の確保に直結する問題)などを行えば文字数を抑えられ、代表演者・所属略称・Running Titleのみの簡易ポスター演題集込みでも十分軽量のプログラムは可能と思われる。またオンライン抄録が期限付きならば、別途希望者には抄録付の印刷物を有料配布していくべきである。
※	結局、ポスター演題は印刷してしまった。
※	一般発表軽視とも取れますね。
※	すくなくともWEB Siteにポスターをのせて欲しかった。ヨーロッパの多くの学会ではFaculty of 1000のこのようにところにポスターを載せています。
※	参加者全員にはプログラム集冊子印刷版は必要ないのではないかと。ただし、全体の内容をざっくり把握するには紙媒体が都合がよいので、必要であれば演題登録の際に無料(学会参加費に含む)で請求できる、という感じにしたらどうか。研究室に一冊あればよい。
※	各ポスタープログラムのPDFを1つのフォルダに格納して、一括ダウンロードできるようにしてほしい。1ファイルずつダウンロードするのはとても煩雑だった。
※	今回の冊子とは別にポスター演題プログラムのみ記載した冊子が欲しい(合計2冊)
※	ポスターのタイトルだけでも追記してほしい。
※	軽量化は支持するが、索引はあった方がよい。
※	電子端末の所持率は高くなってきているとはいえ、やはり冊子版のものも希望者には有償で提供するといったことは必要だと考える。
※	今回の冊子は持ち歩きやすく、よかったです。パソコンやタブレット等を持っていないと全プログラムが分からないことは問題だと思います。実際に今回のポスター発表は見に行く気が減弱してしまいました。そこで、分冊化はできないでしょうか。年会参加中持ち歩くものと予習復習に必要なものにわかれている、もしくは日程別に分かれている、などが考えられると思います。
※	もっと削れるのではないかと。いくらこの印刷にお金を使っているのかと考えるとぞっとする。冊子体は各自プリントアウト、あるいは会場が必要な人にだけ配るといふ形をとれば良いのではないかと。
※	ポスター演題プログラムが別冊で欲しいそれが、日付別で分冊になっているとなおいい
※	ウェブの要旨検索システムが古いOSだと利用できないと言った問題があったこと、スマホやタブレット型端末がないと会場でもできないというのは不便と感じたので、可能であればいろんなところに、無料PCを設置してほしい。プログラム集の軽量化自体は支持します。
※	完全電子化が良いです。紙の消費も輸送によるエネルギー消費も減らせますし。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	今回の形態でほとんど大丈夫ですが、ウェブで閲覧できる時間を、開始も終了も、もう少し長くしてほしいです。閲覧可能時期の開始を早め、終了を送らせてくれると、助かると感じました。
※	キーワード集や検索はあるのでしょうか？
※	スマートフォン、タブレットを持っていない参加者に対する配慮が足りないと感じた。これまでの携帯でも使える簡易的なシステムがあった方がよいと思う。
※	軽いダイジェスト版が良いが、そのためにはアプリが必須。また、希望者には冊子をきちんと配布する選択肢を参加登録時に出来るようにすると良いと思う。
※	希望者には冊子版演題プログラムを配布できるようにしてもよいかもしれない
※	ITシステムに便利な面があるのは認めるが、だからといってプログラムの冊子を削るとか言い出したやつはアホじゃねえのかといたい。たいていの場合、学会会場ではITと冊子のうち使い慣れたどちらか一方を使用すると思われる。全ての学会員のニーズを満たすにはどちらも必要なものなので、来年以降はぜひ両方とも完全なものを用意してほしい。
※	参加費別に分厚いプログラムを有償で手配したらいいんじゃないでしょうか。ほしい人に対しては。前大会時は電池が持たなくて困ったオンライン要旨システムも、スマートデバイス側の技術革新(機種変更)で電池の持ちも問題なかった。
※	電子版では発表した証拠が残らないので大学への報告の際に困る。電子版をプリントしたものでは偽造するのが容易であるので証拠にならない。冊子版には全タイトルと著者名、所属名を掲載したものが必須である。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスター演題の一覧を記載したガイドを会場で配布するとよいのでは。ポスター会場が複数に分かれていたため、関連する演題でも違うカテゴリで発表されていると気づかないものが多々あった。
※	ポスター発表の一覧が載っていて欲しかったと参加した大学院学生から希望があったのは事実です。
※	今回のオンラインプログラムがすごく使いやすかったので、プログラム冊子はなくても良いと思う。
※	ipadを所有しない人も多いので軽量の冊子版は必要だろう。
※	だいたいよかったのですが、チェックしたポスターの位置だけでなく、要旨もすぐにまとめて確認できる機能等がほしかったです。なんとなく聞きたい→要旨チェック→同じ時間帯で聞きたいものを選択するという作業がしにくかったです。また、ポスター発表会場が大きく2カ所に分かれ、距離が離れていたため、コアタイム中に移動が間に合わない時がありました。
※	Webでの検索が軽くてよかったので、軽量版を支持する。初めに軽量版が届いたときは、これで大丈夫かと不安になった。
※	シンポジウムとワークショップの演題だけ冊子にしてポスターを掲載しないのは、ポスター発表を軽視してる？ポスター発表も立派な発表であり、年会の核となるものだと思うので、シンポジウムやワークショップと並列に扱ってほしい。
※	ポスター演題プログラムは別に印刷して持参したので掲載して欲しかったのは事実ですが、それよりも軽くなったメリットが大きかったです。
※	演題冊子とポスター冊子を分け、ポスター冊子を希望により配布してほしい。
※	実は、オンデマンド印刷したいくらい。ペラペラとめくりながら、いろいろな研究をざっと見るというような媒体が欲しいから。(本当は要旨も印刷されたものが欲しいくらいなのです。もし3000円くらいでオンデマンド印刷できるのなら、そうするかも。)
※	ITシステムではポスター発表全体を把握し難く、実際、ポスター会場での人数が例年より圧倒的に少なかったと思います。数が少ない口頭発表はITシステムで把握できましたが、ポスター発表は発表数が圧倒的に多く、また、関連発表が複数日に渡るため、発表タイトルと発表者名(所属)だけを紙媒体で配布する必要を強く感じました。また、IT検索では設定したキーワードを含む発表しか出てこず、関連分野の知識が広がらなくて退屈でした。ポスター発表タイトルの紙媒体があれば近辺の関連分野も自然に目に入ります。なお、要旨はITで読めば十分です。また、今回のIT検索システムが分かり難くて苦労しました。改善が必要だと思います。
※	ポスター演題プログラムを冊子版に掲載するのは必須だと思います。今回ポスターを見て歩くのにすごく不便でした。参加者の多くはポスター発表者ですので、ポスターを軽視するのは良くないと思います。発表の記録(及び記憶)としても必要です。重くなる問題は「少年ジャンプ」のような紙でやれば解決できるのでは。
※	紙媒体については無償版は薄くコンパクトに従来様の暑い要旨も有料で手に入るようにすればよいかも
※	ポスターをもっと活発化させるために1つの良いアイデアがある。ポスターと口頭発表の連携が必要だと思った。それは研究室のポスターが口頭発表した後で(その日か明くる日)その研究室のポスター発表をもってこるといものである。これは、ほとんどの聴衆者は口述発表を聞いた後で、その内容を詳しく知るためにポスター会場におもむく場合が多いと考えるからである。(今回のITシステムの導入で、研究室のポスターがどんなポスター発表をもっているか検索が容易になったのが功を奏している)これは私が実際に経験したことが、最終日(4日目)に興味を持った口頭発表があったが、そのポスターはすでに1日目に終了していたのがっかりした。これをなるべく防ぐには、口頭発表とポスターの連携が必要であり、今のIT技術があれば、ポスター発表の順番を決めるときに、このことを考慮に入れれば良いと思う。
※	電子システムがもう少し使いやすくなったら、地図の紙一枚だけでもよいと思う。

質問11. シンポジウムについて（その他）

※	その他記述
※	メンバーに不満があるわけではないが、選考過程や倍率が完全なブラックボックスなのは改善できないのか。
※	なんというか、はやりのテーマに偏っている感がある。とはいえ、では何がといわれると難しいのですが。
※	Q6でも答えたが、分子生物学会は非常に多くの専門性を持ち備えたメンバーが存在する集団となっていると思うが、その割にはシンポジウム・ワークショップ共に演題数や取り扱いに傾斜がかかっているように思える。もっと新しい分野を広く知らしめるための機会として、より多くのテーマを用意した方がいいように思った。
※	癌学会、細胞生物学会と重複しているような印象があります
※	十分議論できるようにシンポジウムの時間を6時間とかに長くすべき。
※	人気の偏りが多く、エビジェネのセッションなどは入りきれないほどの人でした。事前予測や事前アンケートなどで、参加者の動向をできるだけ把握して部屋の広さを設定いただけるとよいかと思えます。
※	出口志向のテーマが大きな会場なのがいいのだが、、、基礎分野の開場が場所によっては狭すぎて、入場できない場面に遭遇した。
※	中には、もう少しとつきやすいテーマがあっても良いかと感じた。有名どころや出世欲が強い(悪いことではない)若手中心だけでなく、まったくとしたシンポジウムも必要な気がした。
※	その分野で功成り名を遂げた、偉い先生の話を知りたいです。当時の状況(学界の通説)、発見のエピソードや、発見の原点、その発見により研究がどのように進んで現在どのような状況なのかなど、勉強になります。普段は他分野の先生の話聞くチャンスがないので。以前は、このような企画があったと思うのですが、復活を希望します。
※	片寄っているとまでは言えないが、例年に比べてcell biologicalな瀬シヨンが少なかった。
※	シンポジウム、ワークショップ、一般演題、ポスターすべてに於いて共通に言えることは、発表内容に新鮮さがなく、聞き飽きた。内容が殆ど見なくても予想できる。
※	幅広い分野の研究者が集まる会なので、異なる専門分野の研究者にもわかりやすい研究発表となるよう、さらなる工夫が必要と思われる。(各シンポジウムの第一演者の発表時間をもっと長くするなど)
※	以前に学会に参加したときに(横浜だったと思います)会場の外で、発表がテレビに映し出されていました。複数の興味のあるセッションがあるときに、出たり入ったりせずに(特に混んでいる場合)外で聞けるのはよかったです。次回ご検討下さい。(ワークショップも同じ。セッションによって参加者数にむらがありました)
※	興味がある2テーマがある時に会場が遠すぎて2会場間の移動が無理な時は泣けた。
※	そもそもシンポジウムとワークショップの違いが曖昧だと思う。ワークショップと同じ時間に行われるので、シンポジウムに行ったことは一度もない。
※	体細胞分裂、減数分裂など細胞分裂関連のシンポジウムを望む。
※	最高水準の内容かと言われると、そうではない。もっとホットな演者と内容にして欲しい。
※	シンポジウムもテーマも公募で行なうべきだった。
※	会場の選び方が不適切である。人気のあるセッションに小さい会場が使用され満員で外まで人があふれる一方で、あまり人のいないセッションに大会場が使用されて、席がガラガラな場面が多数見られた。特に英語のセッションは内容にかかわらずあきらかに人が少なかった。
※	疾患関係が多かったかと思う。
※	偏り過ぎ。いつも同じ方が企画されていて面白みにかける
※	テーマはほぼ適切であると思うが、どんどん医学方面に偏っている、分子医学生物学会になっているかもしれません。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	部屋が狭く、聴講者が部屋に入りきれないケースがあった。以前の学会であった、「別室で中継する」システムがあるといいと思う(録画されるなどの危険があるため配慮が必要だと思いますが)。可能でしたら、それぞれの別室はまとめて頂けると、移動時間が短縮され参加者としては楽です。
※	似たジャンルのシンポジウムやワークショップの時間が重なっていて、両方みたいとき等が有り、非常にもったいなかった。後、会場が狭かったのか、途中で移動しようとする時、会場に入れなかったりした。
※	テーマ自体は適切だと思いますが、〇〇××企画という表記に違和感を感じました。プログラム委員会を務める先生方が責任を持って演題をセレクトしたということだと思いますが、同時に「一部の人間だけで仕切っている」という印象も受けました。
※	興味深いテーマが多かった。満員の会場が多く、適切なサイズだったと思う。
※	毎年同じようなテーマ、同じような顔ぶれ、同じような発表
※	立ち聴講で溢れるような会場設定は、大盛会ゆえとはいえ、予想が甘かったのでは？
※	ワークショップとの区別がつかない狭い範囲のテーマが多かったと感じました。シンポジウムでは、もっとその分野の概要が把握できるような広いテーマを扱って欲しいと思います。
※	もっと偏ったテーマを取り上げてほしい。
※	シンポとワークショップの違いがよくわかりませんでした。並立は良くないのでは。
※	基本的に英語の発表はわかりづかった。分生は国際学会というわけではないので、そんなに英語発表にこだわらなくても良いのではないかと。外国の方の演題ならともかく、あるシンポジウムでは演者がすべて日本人なのに、英語ですべての発表をしていた。これはあまりメリットがないとか、むしろデメリットが大きいのではないだろうか。外国人の発表の時だけ英語にするというので良いのではないかと思う。あくまでも分生は「国内」学会であり、国際学会ではないと思う。

質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	メンバーに不満があるわけではないが、選考過程や倍率が完全なブラックボックスなのは改善できないのか。
※	数が多すぎる
※	テーマが偏っている
※	Q11と同じ。
※	毎年同じような人が企画しているので、偏りがないように配慮するべきだと思います。
※	上記と同じ
※	セッション数はやや多い。テーマは、シンポジウムも含め、系統的に必要と思われる分野を依頼するのと、公募するのを両方やる必要がある。
※	ややテーマに偏りが見られた。聞きたいテーマがあまり見つからなかった。
※	もっとセッションを増やして欲しい(30会場くらい)
※	染色体複製や感染症関係のように、内容の重なっているようなワークショップを複数設定するのは(自分が関係ない分野なので余計に)若干不公平な気がする。
※	数は適当と思うが、聞きたい複数のワークショップが同日、同時間になっていることが複数回あり、テーマの関連した分野はばらして欲しい。
※	ワークショップでの発表は一般演題からも選ぶべきだと思います。
※	十分議論できるように時間を6時間とかに長くすべき。
※	学会だから当たり前ですが、少し専門的すぎて他の分野を聞くのが厳しい。分野が少し外れている研究者にも参入を促すような、基礎的レベルからの話で構成されているプログラムもあれば良いと思いました。分野の選定が難しいかもしれません。
※	人気の偏りが多く、エビジェネのセッションなどは入りきれないほどの人でした。事前予測や事前アンケートなどで、参加者の動向をできるだけ把握して部屋の広さを設定いただけるとよいかと思います。
※	自分が参加したセッションは立ち見の人が結構多かったので、座席数がもう少し増やせれば(あるいはセッション数が多ければ)良かったと思います。また、もしスクリーンを一部屋の中に数ヶ所設置することが出来るのであれば、とても見やすくなると思いました。
※	もう少し数があっても良い。
※	17時近くになると、既に帰り支度のブースが多く、遺憾に感じた。
※	辺境の狭い部屋にドットと人が集まる場合が少なからずあるのですが、今回の発表では、人の移動統計は取れているのでしょうか？そのようなデータがあると、次年度に反映できると良いですね。
※	興味本位で聞けるワークショップもあったのでおもしろかった。実はそれが結構ためになったりした。
※	会場が狭く立ち見になったセッションがいくつかありました。そのような場合はモニターを準備し、外でも見られるようにしてはどうでしょうか。
※	植物科学の研究者の居場所が少なく感じた
※	もう少しセッションが多くてもよかったかと思う。
※	植物やマイナー生物の話が少なく、ますますお医者さんのための学会になったような印象を受けました。
※	一般演題から選ばれることがないのは、非常に閉鎖的でよくない
※	タイトルと内容が離れています。
※	幅広い分野の研究者が集まる会なので、異なる専門分野の研究者にもわかりやすい研究発表となるよう、さらなる工夫が必要と思われる。(各ワークショップの第一演者の発表時間をもっと長くするなど)
※	シンポジウムで最先端研究をグローバルに展開している先生方が発表されるのなら、ワークショップは学生や若い研究者の発表を増やすとよいと思う。
※	シンポジウム参照
※	聞きたい口演を全部聞こうとすると1つの時間枠内で遠い会場間を行ったり来たりしなければならなくて不便だが、分野が多岐に渡るので仕方ない。
※	一般演題からの口頭発表の採択がなかったのには非常にがっかりした。これでは、コネクションがある方しか口頭発表できないし、仲間内の発表となら変わらない。もう一度採択方法を考え直す必要があると思う。
※	公募を復活してはいかがでしょうか。
※	ポスターから口頭発表(一般講演)に採択されるシステムを採用しなかったのが、今回発表しなかった大きな原因。仲良しグループがワークショップを組む為には便利だが、一匹狼のような研究者は口頭発表の機会が与えられない。少なくとも回答者はこれまで口頭発表希望のエントリーをした際には必ず選ばれる程度の発表内容を提供している。
※	分野の近いセッションが同じ時間帯に重なっていたのは残念だった。日程の都合上、仕方ない面もあるが、もう少しバラしてほしい。
※	数が多すぎる
※	人がはみだしている会場がある一方で、大きい会場なのに人が思ったより入っていないようなものもあったように思います。どのテーマをどの大きさの会場で行うかということの見極めは難しいことと思いますが、来年は適切に割り振ってほしいです。
※	興味のある企画、分野の近い企画が多く、例年と同じように時間帯が重なって参加できないことがあった。一方で、発表者数が多いので仕方ないかもしれないと思います。
※	学会員からの提案を最大限尊重すべきである。できるかぎり専門外の委員が学会員からの提案を損ねるような調整をすべきでない。学会員を信じてその希望を実現させるのが学会の役割。これを誤解している人もいるのでは。
※	多い
※	同じようなテーマが繰り返され、年次報告会のようなワークショップが見受けられる
※	シンポジウムとワークショップの違いがよくわからない。はっきり分けるべき。

質問12. ワークショップについて（その他）

※	その他記述
※	植物分野が著しく少ない。その点で偏っている。
※	テーマの偏りが気になる。自分の発表分野がないために参加を取り止めた研究者が多かった。
※	公募なので分野間の格差があり過ぎ。また、講演者を確定しているため、さらに格差が拡大している。少なくともoral pick upは入れるべき
※	シンポジウムと同様です。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	ワークショップに類似のセッションが多すぎる。類似のセッションは減らし、一般演題からの口頭発表の枠を確保すべきである。
※	公開時全てのセッションに空き枠を作って、演者を広く募集したほうがよい。
※	英語のワークショップを増やした方がよい。よい発表があるだけに、日本人以外の参加者には少し申し訳ないと感じた。
※	1、2の間。盛りだくさんすぎて、フォーラム等参加できなかった。
※	部屋が狭く、聴講者が部屋に入りきらないケースがあった。以前の学会であった、「別室で中継する」システムがあるといいと思う(録画されるなどの危険があるため配慮が必要だと思います)。可能でしたら、それぞれの別室はまとめて頂けると、移動時間が短縮され参加者としては楽です。
※	シンポジウムの欄にも記入したが、時間割や会場サイズをきちんと考えて欲しい。
※	テーマはよいものがあるが、数が多すぎて聞きに行けないものが多数出た。
※	テーマ・セッション数ともによくはないというよりも、そもそもオーガナイザーが適当でないのではと思われるセッションが多く見受けられた。加えて、現在の自分の研究を客観的に判断できない(方が多い)のか、正直、オーガナイザー(のラボ)の発表は他の発表者の内容に比べて質的にかなり落ちるものが多かったので、発表を聞きにきた学会員をがっかりさせないためにも、オーガナイザーは発表者の人選だけに専念して自分の発表は控えるべきだと思う(実際、オーガナイザーの発表がないセッションもあった)。オーガナイザーの適切な人選をせつに希望します。
※	植物関係がなかった、、、
※	talkがなくなってワークショップに集約された分、ワークショップの水準が平均して例年より高くなっていたので面白かった。しかし、セッション数が減っている分、どの部屋も混雑していて一日中立ち見しなければならなかったのが疲れた。
※	方法論に関するワークショップもあってほしい
※	聞きたいものが重なってる傾向があった。同じ時間帯をお住み分ける方法はどうしていたのだろう。
※	会場がもっと広ければと思う。
※	ワークショップのタイトルから発表内容が推測しにくいものが多かった。
※	スケジュールの都合でほとんどを見る機会がなかった。今後はシンポジウム/WSの数を減らしていくべきと思う。
※	上記と同様に、立ち聴講で溢れるような会場設定は、大盛会ゆえとはいえ、予想が甘かったのでは？また、聞きたいものが重なりもしました。
※	準備は大変かもしれないが、一般からの公募もあったほうがよい。
※	ただスピーカーを集めただけ、のような企画がいくつか有りました。何を問題点として、議論するのははっきりしていません。
※	・同じ時間にたくさんのワークショップやシンポジウムが重なりすぎていて、聞きたいのに聞けないものがたくさんあった。残念だった。時間がかぶらないようにしてほしい。もしくは、会場を近くして行き来しやすいようにしてほしい。・もっと演者がバラエティに富んでいてもいいのでは。内輪でかたまっていて、研究領域の班会議のようだった。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスター会場が離れすぎているのが大変でした。
※	ポスター会場が離れているのは不便である。全部を見ることができなかった。
※	ポスター会場が分かれているのはとても不便であった。不便に分けるメリットをどうやっても思いつかなかった。総合討論の時間を作っていたが、ほとんどはがして帰ってしまっていて、意味がなかったと思う。2日間連続して掲示するのが良いと思います。もっと狭くして、2日おきに交換するのが良いと思います。
※	ポスター発表のフリートーク(最後60分間)でポスターを剥がして変える人が多かった。
※	ポートピアホテルの一部会場は国際展示場から遠く行きづらかった。やはりあの演題数のポスター数ならば、場所は一つの場所にまとめてほしい。
※	ポスター会場が一つだけ遠かったのが不便だった。
※	自由討論の時間が必要なのはわかるが、全体として3時間は長すぎる。3時間たちっぱなしなわけで、、、結局最後までいなかった。
※	たまたまかも知れないが、聞きたいシンポジウムやワークショップが重なることが多かった。逆に、あまり興味のないテーマばかりの時間帯も多かった。近いテーマは日時をずらすなどの工夫が必要かも知れない。あれだけの数のポスターがあるので、ポスター討論はもっと長くすべき。混んでいるポスターの演者が、最前列の一人に向かってではなく、集まった全員に向かって大きな声でプレゼンする様に、年会委員会からも強くアナウンスした方が良い。
※	ポスターを貼る時刻を守らない演者が多すぎます。
※	時間割はともかく、ポスターを午前中に貼っていない割合が多いのは問題かと。
※	ポスター会場1と2,3が離れすぎていて移動がしんどい。
※	ポスターセッションの時間が長過ぎる。
※	ポスター会場が分散して非常に不便でした。
※	神戸展示場のワークショップ会場は天井が低く後ろからスライドが見えないのでやめてほしい。またポスター会場が離れているのも不便なので会場間の移動は出来れば徒歩一分圏内にしてほしい。
※	会場が3か所に分かれて散り散りバラバラなのは何とか改善していただきたい。
※	ポスター会場をひとつの場所にまとめてほしい
※	ポスター会場が三ヶ所に分かれると回り切れないのでひとつの建物にまとめるようにして欲しかった
※	学生のポスター発表の質の低下が目立った。
※	複数のポスターの会場が互いに離れ過ぎていた。
※	ポスター討論の時間帯は終了前にするしかないのですが、見たいものを見るには1時間は少ない気がします。1時間半はあった方が良くと思いました。
※	もう少し同じ分野を同じ日にまとめてもらえると参加しやすい
※	ポスター会場が3会場に分かれていたこと、さらに展示会場が分かれていたのは、やや不便に感じました。
※	事前に確認しているとはいえ、数が多いと探すだけで時間がかかるため、ジャンルごとの色分けやその他の工夫でより分かりやすくすることができればより良くなると思う。
※	離れた場所にもポスター会場があり、発表時間内にそこまで回れなかった。ポスター会場はなるべく近い場所にして欲しい。
※	ポスター会場は複数に分けず、近接してしてほしいです。NBRPなどの特別企画もポスター会場内の方が、研究としては話がしやすいです。
※	ポスター発表の場所は一箇所にまとめるべき。
※	面白いポスターがあっても時間が少なすぎる為、発表者と話ができない。一日あたりのポスター数を減らすか、発表時間を増やしてほしい。今回のようにシンポジウムやワークショップの内容が偏っていると興味ある発表がほぼ全てポスターのみであったため、なおさらその必要性を感じた。
※	6が無くなったことから、学会を脱退することを考えている。
※	結局、ポスターの時間は6時までだったのでしょか。フリーディスカッションの6~7時は誰も活用せず、さっさと撤収していましたが。
※	ポスターの議論時間が短い。回りきれない。
※	おそらく沢山の同意見寄せられると思いますが、ポスター会場が離れすぎていました。
※	各分野を連日発表するのは悪いことではないが、十分に時間をとれなかった今回は、日程の都合で見ることのできないものもあったのが残念。
※	複数のポスター会場の間が離れていた
※	今年は例年より、時間の重複がシビアだったのが残念に感じた。ポスター発表に少し遅れてしまった。
※	広くて(ポスター会場の距離があって)、見たいものをすべて見聞きすることができなかった。
※	偶数・奇数番のポスター発表の後にある討論時間になると多くの人がポスターを剥がしてしまっていて、この時間が設定されている意味がなかったように思う。
※	発表時間を守ってほしい。隣で同時にやられると聞こえない。主催者側が厳密にチェックするべき。
※	6時過ぎにはほとんどのポスターがはがされてしまっていたので、議論できなかったものもあり、残念でした。
※	最終日にポスターもあったほうが参加者も多かったのでは？ワークショップやシンポジウムは座席数が少なかったこともありポスター中心に見て回ったため。
※	ポスター会場1が離れていたのは、いただけない。
※	ポスター会場同士が離れすぎて、皆さん、うんざりしていました。
※	時間が無くて、あまりたくさん見聞きできませんでした。
※	ポスター会場はできれば1箇所の方が見に行きやすい。分けるのなら、もう少し近場にして欲しい。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	ポスターに座長を付けてポスター前でショートトークをする形式を癌学会では行っているが、取り入れられないか？未だに貼りっぱなしで居ない人や、一人の人と話し込んでいて聞きたいのにずっと待たなければいけなかったり現在の形式には不満。
※	プログラムの編成、日程振り分けより、ポスター会場の振り分けが不適切である。会場群の端と端にポスター会場を設定したのは、今回の学会運営で最大(しかし唯一)の失敗であったと思われる。
※	ポスター会場が3カ所にわかれていること、さらにそれらが離れた場所にあったことが非常に不便であった。企業展示ブースも同様。この点に関しては去年までの方が利用しやすかった。また、オンライン要旨検索システムは非常に良く、今後も継続してもらいたいが、アプリを開発してオフラインでも使えるようにしてもらいたい。また、マイスケジュールが見にくかった。去年のアプリの方が使いやすい。
※	ポスター会場が離れているのが不便だった
※	最近は大学業務がタイトで期間内に一度戻る場合がある。ポスター討論の時間がもう少し早いと、遠方からの参加者は助かる。他学会で見かける「ポスターから若手や学生を口頭発表に優先して採択し、発表賞を設ける」には強く反対。全国規模の学術集会を、口頭発表の練習や、賞を乱発する場にしてはならない。ただし、実質的なチームリーダーや同等の議論のできるポスドクや学生の口頭発表によるセッションならば、発表者と聴衆の双方に意味がある。
※	口頭発表のレベルが特に上がったようにも見えなかったので、是非ポスターからの採択も再考してほしい。
※	ポスターは3時間採ってあったが、2時間で説明が終わったところで、ポスターをはがしてしまう発表者が多かったのは残念である。これだけの数を見るには3時間は必要である。最初の1時間を説明無しで見回る時間として、最後の2時間を説明者が張り付く時間にしてはいかがでしょうか。
※	ポスターからの口頭発表への採択システムは、無用にセッション数を増やしスケジュールをタイトにするだけなので今後も復活させないでほしい。
※	ポスター会場が離れすぎている。演題を絞るのもいいし、神戸会場の限界ではないか？
※	現状のように口頭発表がシンポジウムとワークショップだけだと、学生やポスドクが新たに研究成果を発表する際に、口頭発表できる機会が無い。
※	likeの多いポスターを口頭発表にしてほしい
※	シンポジウム、ワークショップ、ポスターセッションにフルで参加すると、企業展示やデータベース展示に行く時間がなかった(実際行けなかった)が、それが目的ではないので現状のプログラムで満足。
※	ポスター数に対して時間が短すぎます。特にセッション全てに参加している場合は不可能です。演題数を抑える必要もあるかもしれません。
※	ポスター会場が離れすぎているのは頂けない
※	回りきれないが仕方ない。
※	時間が長い。2時間で十分。
※	ポスターの盛り上がりがかけていたように思います。時間帯を中の方に持っていったほうが、いろいろな方が来て良いのではないかと思います。あるいは、2回目の討論の時間をあとの方に設定するとかですかね。
※	ポスターの会場の場所は最悪だった。会場1と2、3が離れ過ぎていて行き来できなかった。この配置は理解できない。私の周りの人もポスターの会場設置が最悪だと言っていた。企業ブースの圧力に負けたのだろう。来年から改善されることを期待する。
※	参加していないので分からない。
※	ワークショップやシンポジウムと重なっていたので、研究不正問題フォーラムにあまり出ることができなかったのが残念。
※	会場配置に不満が残った。特にポスター会場1と2、3が離れていたために、聞きに行きたいポスターがあっても演者がいる時間に移動できないこともあった。大きい学会なので、会場が散らばるのは仕方ないが、ポスター会場は移動時間が少ない場所に固めてほしい。
※	ポスター会場は、1箇所で行って欲しい。また討論の時間をもっと長くして欲しい。演者にとっても、観るほうにとっても、時間があまりにも短い。
※	ポスター発表の数が多くので、発表時間を一時間半ぐらいに伸ばしてほしいです。
※	ポスター会場同士が離れ過ぎていて、行き来できなかった。
※	時間帯をもう少し早めにしてほしい。
※	関連性が低い分野・内容について、日程を明確に分けても良いと感じた。
※	ポスター会場が離れているのが良くなかった
※	最終日のプログラムの編成に工夫が欲しい。今回は多くの人が金曜の昼までで帰途についたと思われるが、金曜の午後を有効に使うように工夫すべきだ。
※	ポスター会場は1個の建物がいいです。面積的に無理でしたら、会場どうしは近くに置いてほしかったです。それが難しいようであれば、せめて、ポートピアホール側の入り口からアクセスできるようにするなど、行き来がたやすくなるような工夫がほしかったです。
※	ポスターからの口頭発表する人を、厳選で採択してほしい。
※	今回はポスター会場1だけが離れ過ぎていたので、2・3で発表・討論中に合間をぬって見に行くのが難しかった。ポスターの衝立間隔等を工夫したり、展示会場1・2や第11～14会場となった会議室などを上手くやりくりしたりする事で、ホテルの向こう側と行き来しなくても良い会場編成が出来たと思われる。
※	良いか悪いかというよりアレだけのものをやるなら他のスケジュール案は難しいと思うので、タイトだとは思いますが納得はしている。
※	1DAY研究会(一昨年のコンセプト)の名残が未だ残っているようですが、学会期間をフルに使って関連テーマのセッションにできるだけ参加できるようにした方が、学生のためにはよいと思う。特にポスターでは時間がなかった。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	会場が分散しすぎ。全ての会場の情報が載っている立て看板が要所所にあるべき。研究発表が行われている時間帯に他の企画をかぶせるのはおかしい。
※	ポスター討論も興味ある演題が多くよかった。ただ、1時間+1時間+1時間だと最後の1時間は質問に行っても演題が片づけられていることが多かった。だから、1時間30分x2にするべきだと思う。
※	ポスターから口頭発表採択がないシステムはポスター発表者からすれば気楽であるが、若手に口頭発表の機会が少なくなるのはよくないのかもしれない。
※	1)ポスターの自由討論は不要と感じた。結局ポスター発表者は、発表時間が終わると、自由討論時間にもかかわらず撤収していたため。2)1会場と2,3会場との移動距離が遠かった。そのため討論時間が終わってしまい、いくつかの発表で発表者とコンタクトがとれず不満だった。
※	昨年(九州大会)の、一人3分の発表は良かったので、復活してほしい。
※	当たり前だが、研究内容が似ていると、同じ日のポスターになってしまう。質問者が多いと他のポスターを見に行けない。何とかいい方法はないものかと思う。
※	全体的にもう少し早く終わってくれとありがたい。
※	冊子がなかったため、webでポスターの作成要領を探したが、どこにあるか分からなかった。
※	ポスター会場を分離するのをやめて欲しい。しんどい。
※	ポスターが多すぎて会場が分かれてしまうのはよくない。
※	ポスターのコア時間をもう少し早い時間帯にして欲しい。
※	ポスター会場を一箇所にまとめて欲しかった。あまり離れていると移動が面倒。自由討論の時に人がほとんどいないので、そこを改善してほしい。
※	ポスター会場が3か所に分かれていたのは不便と感じた。
※	ポスターセッションについては、議論の延長が可能な現行時間帯で良いと思います。
※	時間はよかったが、18時でポスターを撤去する人が多く、ポスターを見切れなかったので、注意喚起してほしい。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	第一の問題点は一般講演からの口頭発表がなかったため、多数の良い発表がうもれてしまったことである。はやりの研究ばかりが口頭発表になってしまい、意外性のある、良い研究をピックアップすることができていない。非常に問題の残るプログラム編成であり、このままの状態では一般参加者のモチベーションを下げることになり、学会自体の衰退につながる。第二の問題点はポスター会場がホテルと国際展示場にわかれたこと。これによって短い時間でポスターを見るのがさらに難しくなってしまった。これまでのように、少なくとも国際展示場にポスター会場は限定すべき。
※	ポスター討論時間をもう少し欲しいです。
※	昔のように一般演題に口頭講演をするセッションを設けるべき。
※	海外からポスドク招聘企画で来ましたが、1時間のポスター発表で来てくれるのはせいぜいもとの知り合いくらいで、しかも3-4組くらいが限界かと思いました。できれば口頭発表して、もっと自分が海外でやってきたことを知ってほしかったですが、海外にいるため、オーガナイザーの先生とのつながりもなく、そういうチャンスが全くなかったのは残念でした。
※	会場が離れているのは大きな問題。演題数を絞り込んででも会場を一つ、最低限一つの建物にまとめるべき。
※	生命世界を問うを聞きかかったが、時間的に厳しかったので帰ってしまった。大昼食会を後ろにして欲しかった。
※	ポスター発表の数が多すぎて見きれなかった。特に会場が離れているのは致命的だと感じた。
※	今回はポスターのみの募集だったからか、学生の参加が非常に多かった印象を受けたので、ポスターのみ募集もありだと思った。
※	ポスター会場はできるだけ近場でまとめて欲しいと思います。
※	あくまで自分の都合のせいだが、3日目以降しか参加できないに関わらず、1-2日目に興味のあるセッションが集中していて残念だった。
※	会場が見つげにくい。もっとまとめて欲しかった。
※	ポスター会場が離れているのが不便であった
※	ポスターの会場は近くにまとめてほしい。ポスター会場1が離れすぎ。
※	3ポスター会場のうちの1つがとて離れていたのも、聞きにくいのが大変だった。
※	企画の時間と重なっていたのが残念だった。
※	ポスターの1日の数は今は限界に近いです。日程を増やしても1日のポスターの数を減らすことが出来れば、と個人的には思います(難しいでしょうけれど)。
※	ポスター会場にあまり人がいなかった。これだけ規模が大きいと、プログラムはある程度適当に「エイヤッ!」と作るしかないで、よくも悪くもこれ以上どうにもしようがないと思う。討論の時間どうこうよりも、ポスター会場に足を運びたくなる工夫が必要だと思う。現状のように一日の最後のほうにポスターだと、どうしてもシンポジウムやWSがメインでポスターは付け足しのような感じになってしまっている。これでは学生にとってせつかくの発表の機会が十分に活かされずトレーニングになっていない。
※	今学会は、ポスター発表全体を把握し難く(紙媒体が無く、数が多くて複数日程に渡るポスター発表の全体を見渡せなかったため)、口頭発表への採択もなく、発表の大多数を占めるポスター発表が軽視された感を強く抱きました。「ポスター発表は勝手にやっておけ」という学会の姿勢かと、正直、思いました。もしそうでないのなら改善が必要だと強く思います。また、類似の発表を全日に割り振ったため、ポスターを見るのが大変(困難)になりました。分子生物学会は発表数が多いので、私を含めて、全日出席できる人は多くないと思います。ある程度は関係する発表の日程を集めておいて頂かないと、見たい発表も見られなくなります。
※	ポスターは盛り上がっている会場とそうでないところが有りました。同じ分野が毎日少しずつ有るのは聞ける数が増えて、大変良かったです。以前あったディスカッサーの制度はあった方がいいと思います。

質問13. 一般演題について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	・自分に関係のある研究分野は、時間がかぶっていて行けなかった。・討論の時間をもっと長くしてほしい。ポスター会場が1つ離れすぎていて、聞きに行くことができなかった。このような配置にするならば、移動の時間も考慮に入れた時間設定してほしい。・演者には確実にポスターの前にいてほしい。

質問14. 高校生の発表(年会参加)について (その他)

※	その他記述
※	高校生を年会で発表させる意義は、プロの科学者にも高校生にも無いと思う。プロに匹敵するよほどの成果を上げた高校生が例外的に参加することはあっても良いと思う。
※	農芸化学会などでは高校生の発表がもっとたくさんあるが、これは春休みに重なって参加しやすいからだと思像している。開催時期の関係で分子生物学会では演題数を集めるのが難しいと考えられ、あえてやらなくてもいいのではないかと思う。
※	ポスター会場の横で見たが、この試みは評価したい。部屋を決めた方が良いかもしれない。また、特別審査員を何名か大学教官が努めて、特別賞等を出したら良い。
※	見ていないが、高校生の発表を聞いてみたいという気が起きなかった。そこから推測するに、高校生の発表を聞く人には、何らかのバイアスがかかる(とても立派でまじめ、もしくは暇など)わけで、その中での発表経験がどれだけ役に立つかは疑問。経験させるということと、それに研究者がわざわざ時間を割いて付き合うということの間の妥協点を考えれば、高校生はきちんとした発表を聴講するだけでいいのではないかと思う。
※	学会の規模の割に参加数が少なく、正直やる必要性を感じない。もっとローカルな学会のほうが高校生も参加しやすいように思う。
※	ランチョン形式でやってみて欲しいです。
※	見に行けなかったが、このような機会があることは良いと思う。
※	自分のポスター発表の時間と被っていたので、見にいけませんでした。しかし、高校生のうちから発表等を体験することはいいと思います。
※	高校生にとっては良い記念になったと思います。
※	展示場所が極めて良くないと感じた。むしろ、ポスター会場の真ん中でもよかったのではないか。
※	小さな学会なら良いのですが、大きな学会だと高校生の発表はかわいそうな気がします。
※	見ていないのですが、必要なものですか？？どンドン学芸会化するのではと思いますが、見たら意見が違ったかもしれません。
※	タイミングがつかめず見なかった。しかし高校生が参加する事自体は大賛成。ポスター発表にしぼって一般のポスターの方に混ぜてしまう事も検討してみても？セパレートする意味は無いと思う。
※	毎年思うが、ポスドク問題などの、大学・大学院の後の就職先をどうするか？ということを実に解決してから、若手の勧誘をしてもらいたい。高校生に見せ玉のような実験をさせて勘違いさせ、大学・大学院で学生として実験で酷使し、後は知りませんという現在の状況は卑怯です。
※	ポスターだけちらりと見たがキラリと光るものを感じた。しかし日期的に高校生の発表を聞いてあげる余裕がないので、残念に思う。
※	参加していないので分からない。
※	実際の発表は見ていないのだが、高校生用の発表会場(?)はもっと良い場所にした方が良く感じた。
※	高校生のポスター発表の位置を一般演題の会場と一緒にしたほうが良かったのではないだろうか。はなれたポスター会場の隅にあるいぬーじがあった。ポスター会場2, 3に近いほうがもっと様々な人が訪れたのではないだろうか。
※	見たかったがスケジュールがタイトで見れなかった。
※	去年の学会では参加したが、良い企画であると思う。
※	ポスター会場が狭く、人が多くて見られなかった。来年も行うなら、ポスター会場を広くして欲しい。参加した高校生は良い刺激/経験になったのか気になる。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	見ていないが、昨年の福岡で、地元の高校生が演題を出しているのはよかったと思いました。
※	これは最優先されるべき企画と思います。
※	ポスター発表していた一部だけが口頭発表したことには少しがっかりしました。どうせなら全部口頭で発表するか、全部ポスターだけで発表して投票するか、もう少し時間を割いてやらないとやっつけ仕事になってしまいます。
※	発表は見ていないがポスターは見た。
※	隔離されているような感じがした。
※	良かったと思いますが、忙しい大会なので、特に一緒にやる必要はあまりないと思いました。
※	見れば良かったと後悔しています。もう少し、案内があっても良かったかも知れません。
※	高校生の発表(年会参加)についてはみていません。

質問15. 企業説明会 & リクルートブースについて（その他）

※	その他記述
※	ポスター会場に併設するなど、もうちょっと人が集まる工夫をしては？
※	ホテルから遠い。
※	参加していないので実際は分からないが、有名大学卒業＝無条件で大企業に就職、だった昔とは違うのだから。マッチングを深める意味で、こういう企画はもっと充実して良いと思う。
※	学生が参加していたようです。今後も継続して欲しいと思います。
※	企業説明会とは何でしょうか？AB sciexが会場の一部を使って、商品の紹介をするのを聞きました。これは良いことだと思ったので、どんどんやって欲しい。
※	参加はしていませんが、就職活動の激化につながるのではという懸念があります。
※	場所がわかりづらかった。プログラム集にも地図など載せてほしい。
※	必要と思います。このようなブースがあることに気づけなかった。更に目につくようにするなど、充実させるようお願いいたします。
※	参加していないので分からない。
※	ポスター会場と同じ場所でやって欲しい。
※	参加したかったがスケジュールがタイトで参加できなかった。
※	リクルートブース・・・？
※	どこでやっているのかがわからなかった
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	ブースを設けたことは大変良かったと思いますが、アピールが少なかったように思います。学生やポスドクに危機感をあおることも時には必要で、企業への就職を考えていないとしても、情報収集をするだけでも必要だ、などアカデミアにあぐらをかきがちな若い人に、もっと啓蒙すべきだと感じました。
※	企画は良いと感じたが、前宣伝の不足からか、この企画を知らない学生がたくさんいた。
※	参加していませんが、リクルートが困難になっているので、良い企画だと思っています。この企画により、実際にリクルートに成功したケースがどれほどあるのか、知る必要があると思います。
※	いい企画だと思いますが、忙しい大会なので、そんなに希望が強くなければ特やる必要はないと思いました。
※	企業説明会 & リクルートブースに参加していません。

質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	日本に一つくらいはこういう大規模の学会もあってよい。
※	規模はどうでもよいと思う。
※	年會に参加していないので何ともいえない。
※	目的次第だと思います。学術的には大きすぎるし、発表練習の場としてみれば適切
※	私個人は大きい学会好きなので、この学会は大変良いと思う。
※	いままでの、学会からすれば少なくなったが、まだまだ大きな学会なので、全体の運営をどうするのか、生化学会との切り分けをどうするかを、引き続き検討されるように希望する。
※	ぎりぎり開催可能な規模だとは思いますが、ポータルライナーの利用（特に朝）が不便（というより混雑が）で、東京の通勤ラッシュよりひどいのは何とかならないのだろうか
※	人数はともかく、場所がいろいろと別れてしまうのが移動に辛いです。
※	明らかに大きすぎるが、大きすぎるという意見が大半を占めたところで、大会の規模を小さくするという試みは無理だと思うので、この質問の意図は測りかねる。
※	もっと大きくなってよい（生化学会と合同でお願いします）
※	これは神戸に限らないが、基本的に会場のキャパシティが不足している。オーラル会場では、なかに入れない人が外にあふれている。後ろからでは口頭発表のスクリーンが見えない。ポスター会場が分散すぎて、移動に疲れる、間に合わない。もう神戸ではやめた方がいいのでは？東京ビックサイトか？あるいは思い切って学会期間を6日間に延長して、1日あたりの発表数を30%程度減らすのも一案では？
※	規模はともかく、会場が分かれすぎて大変であった。
※	ワークショップの会場が満員で立ち見や床に座っての聴講があった。会場の大きさを考慮し、他会場やエントリーでの映像配信等の工夫が必要と思う。
※	大きいのですが、必要な情報はごく一部なので、大きさも利点のうちだと思います。
※	大きすぎるとは感じるが、解決策は思いつかない。
※	大きいからこそできることをやっていけばよいと思う。
※	大きいことを強みにする運営を今後も期待しています。ガチ議論でもありましたが、本学会としての意見を集約すれば、行政もより耳を傾けると期待出来ます。
※	会場の分散範囲をもっと狭めて欲しい
※	参加していないのでわからない
※	わからない
※	会場に入りきれないシンポジウムがいくつかあったので、規模に合わせて会場も拡大させてほしかった。
※	学会の規模は、主催者の意図に関係なく大きくなったり小さくなったりします。分子生物学会も、いつまでもこのままではないでしょう。
※	学会より祭りですね。学術的収穫はほぼないです。
※	2つのポスター会場が遠すぎる。
※	個別の分野について集中討議する環境には若干問題があるサイズではあるが、特別企画のように、学会のサイズを生かして他では出来ない活動へと展開した点が、評価できる。
※	ワークショップでは立ち見が多く出てしまっているし、後方からはスライドが殆ど見えない会場もあった。もっと大きな会場が必要だと思われる。
※	参加者を制限するのではなければ、規模は開催側で調節できないのでは。同一研究グループ(大学なら研究室か)からの発表では、研究クオリティに基づき自主的に制限する良識が求められる。しかしながら、学会発表実績が学生就職活動等の要素となる今日、学術的な要素だけで決められない実情も理解できる。
※	適当だと思う。萌芽的な企画やワークショップが成立するのは人数が多いからこそ。小さな学会は、その点どうしても人数の集まるワークショップを開かざるを得ず保守的になりがち。分生には多様な研究者が集まる利点を学術的な面で生かしてほしい。
※	特になし。結局は個人でどう動くかだけだから。
※	規模は申し分ないが、各会場が少し離れていると感じた。
※	「大きすぎる」とは思いますが、だからと言って参加者数を制限するのは本末転倒と感じますので、現状に合わせてなんとかやっていくしかないのでは、と考えます。
※	分子生物学会は毎年この程度の規模なので、それに慣れてしまった。
※	一長一短だが、大規模だからできることもあり、分生はこれでよいと思う。
※	大きいとは思っていますがそれはそれで生かし方があると感じました。
※	大規模な学会の特徴を活かした企画を今後も期待しています。(あまり凝ったものでなくてもいいと思いますが。)
※	もっと大きくて良い。スケールメリット。
※	生化学会との合同を推進してほしい。
※	PLoSのようなスタンスを持って欲しい。大きすぎるから小さくなるように(参加者が減るように)アレンジするというのは傲慢である。サイエンシフィックなスタンスの上で機会は均等に。
※	会場が分散すぎていたため、会場間の移動時間が無駄である。特にポスター会場は、もう少しつめることができたと思う。参加者数に関する規模は、特に問題はないと感じた。
※	大きくはない。
※	現在の生物学は分子生物学的な解析は基本として行うため、どの分野の研究に携わっていても参加できる。異分野の発表を聞けるというメリットもあるため、必然的に人数が多くなるのは仕方がない。
※	日程は3日がいいと思います。
※	参加したいひとは参加すれば良い。

質問16. 本年会の規模について（その他）

※	その他記述
※	あまり偉そうにしているヒトが少なかったのは良かった。ちなみに他の学会ではオーガナイザーをはじめセッションチェア等がポスターをみにきていたばかりか、すすんで質問をし学生との会話をしていました。こういう努力が必要だと思います。
※	会場のせいもあるが、散在していて移動に時間がかかりすぎた。見たい発表を見逃す確率が高まる。
※	この規模は仕方が無いのでは。
※	もう少し少なくても良い
※	設問の意味がよくわからない。参加者の数が規模を決定するのでは？
※	参加者が座りきれない部屋が多すぎと思った。
※	正直なところ規模としては大きすぎると思うが、今回の企画はそれをうまく生かしており、この路線では適切な規模ではないかと思われる。
※	規模に関しては、参加したいと感じる研究者がいるかどうかなので、論じる内容ではないと思います。あらゆる分野の研究者が、毎年分生には参加して情報収集と交流を図り、細分化した別の専門的学会と並列に考えられるものになることに期待します。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	福岡の会場の方が、まとまっていて行き来ができて良かった。
※	大きすぎる。ポスターが見きれない。時間が限られている以上会場を複数に分けるべきではない。数を絞って会場をまとめるべき。
※	大きすぎると思いますが、言い方は不適切かもしれませんが、圧力団体として政治家や官公庁にアピールする上では存在意義があるように思います。
※	本学会のようなマンモス学会では、このくらいの規模は仕方ないと思う。
※	とにかく、シンポジウム・ワークショップ会場が狭かった。
※	会場が分断されていなければ規模としては問題ない
※	個々のセッションの演題数や内容の広がり小さいので、もっと規模が大きくても良いと思う。ライフサイエンスの研究全体が俯瞰できるようにするには、もっと参加者が多いほうが良いと思う。
※	大きさは適当だったが7,500名の参加者は以前に比べると減少気味のような。学会と年会のあり方について長期的な見込みを立手しておく必要がある。
※	参加者が多いのはいいが、発表演題にカスが多すぎる。採択率ほぼ100%はいい加減にした方がいい。
※	参加人数が多過ぎて神戸開催の年は市外に宿泊することもあるので大きすぎるのかもしれませんが、こうなった理由が学問の魅力なので致し方ないと思います。
※	大きくていろいろな話を聞けていいが、会場が広すぎる。
※	参加者の規模や開催地はよいが、部屋が散在していてわかりにくく、また入りきれない部屋もあり、会場の部屋選びを真剣にするべきである。
※	あえて言うなれば少なすぎる。生命科学の全領域をカバーする学会として(科学コミュニケーションやアート・音楽との融合を含め)もっと成長できるのりしろがある。
※	大きすぎると思うが、仕方がないことだと思う。小さくなってしまって資金難にあえぐよりは大きい方がまだまし。
※	多くの研究者が複数学会・研究会に所属しているので、細分化されていない学問分野の研究者が集まる巨大会年の回は必要だと思っています。
※	規模が大きすぎるのか、会場が狭すぎるのか判りませんが、ある程度大きい方がいろいろな話が聞けていいですね。
※	学会員数が減っているのは、全体的な研究者の数が減っているから仕方ない。今年は特別企画のおかげで参加者は上がったと思うが、いつもの学会に戻れば毎年減少傾向になるだろう。そもそも研究者の数が減っている理由をグローバルに考えられない人が多いのでびっくりにした。ガチ議論も参加したがそのことを分かっている人は少ないと思った。研究者が減っているのは、厚生省のせいですか？ 文科省の教育制度が悪いからですか？... 原因はもっと上のレベルだと思う。だいたい誰が今の大学院制度を作ったのでしょうか。米国の大学院は生活費が支給されるのに、日本では授業料を払わなくては行けない。全く逆です。そもそも専門家は増えないシステムになっています。これはそもそも元から日本人に研究をしてほしくない人が戦後にいたからでしょう。その根本のところには気がつかなければ、日本の研究者は増えません。これは経済とも関係しています。科学だけをわかっていてもなにもわかりません。経済は日本が戦後世界で一番になったところで、変えられてしまいました。経済が悪くなる→人口が減る→研究者が減る。シンプルな構図です。これは学会だけでなんとかなるという問題ではありません。もっとグローバルに理解できている人が増えなければ変わりません。

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

その他記述	件数
生化学会	30
日本生化学会	19
生化学会、細胞生物学会	2
ASBMBのように日本生化学会と統一して欲しい。	1
Q4で挙げた学会	1
に本バイオインフォマティクス学会をはじめ、小さい学会に分子生物学会の参加者が気軽に顔をだせるような形式は考えられないでしょうか？	1
バイオインフォマティクス学会、日本生化学会	1
やはり生化学会でしょう。似た学会が2つあっても仕方ないです。	1
以前、頻繁に行われていた生化学会など、他分野の方々と知り合せて中々有意義に参加できた。今後は、分子生物でも多用する細胞や動物に関連したもの(細胞物学会や日本動物学会)との合同があればよいと思う。	1
遺伝学会、進化学会二つとも例年夏~秋に開かれているため調節は難しいと思うが、合同開催できればその意義は大きい。	1
癌学会または薬学会とコラボしてみるのはいかがでしょうか？生化学会とはこれまでに何度かやっています。私は所属していませんが、免疫学会もいいかもしれません。	1
合成生物学	1
合同では特色ある挑戦はできないでしょう。足かせを作って参加者数を増やすのと、自由にやって参加者に2倍楽しんでもらうのでは、私は後者を支持します。	1
細胞生物学会	1
細胞生物学会、生化学会	1
昨年、今年のような学会形式であれば、単独開催でもどちらでもよいです。合同開催をすれば、生化学会、細胞生物学会あたりでしょうか。	1
植物生理学会	1
神経化学会か神経科学会	1
神経科学会、神経化学会	1
生化学と共催でもよい	1
生化学、細胞、発生、動物、遺伝	1
生化学会、細胞生物学会	1
生化学会、インフォマティクス研究会	1
生化学会、細胞生物学会、神経科学会、遺伝学会、生理学会	1
生化学会、細胞生物学会、農芸化学会	1
生化学会、蛋白質科学会	1
生化学会でしょう	1
生化学会はさっさと分子生物学会に吸収されよつまらないエゴはすてよ	1
生化学会何年に1回かぐらいは合同でやっても良いのではないかと思います。以前、一緒にやったときは参加率が上がって、いろいろな方と話すことができたように思います。	1
生化学会等の巨大会	1
生化学会別々の開催だと関連分野の演題数が少なくなってしまうため(生化学会・分子生物学会の両方に参加する研究者は少ないと思います)	1
生化学会	1
生化学系、生物物理系、構造生物系、情報生物系	1
生命科学系の学会は常に合同開催ウェルカムということにしたいのでは？	1
全ての基礎ライフサイエンス学会(生化学、細胞生物、発生、遺伝、生理、動物、植物生理など)と一緒にしても良いのではないかと思います。日本のライフサイエンスを俯瞰できるいい機会となるかと思います。	1
内容の重複が多い生化学会と一体開催を定例にしたい	1
日本遺伝学会	1
日本細菌学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本生化学会(発表の中には、生化学会で発表したほうが受けがよさそうな内容のものも少なくなかったと思いますし、生化学会での発表も、分子生物学会寄りな内容のものが例年多いです)	1
日本生化学会、日本発生生物学会、日本細胞生物学会、など	1
日本生化学会、日本RNA学会	1
日本生化学会、日本細胞生物学会	1
日本生化学会、日本細胞生物学会、	1
日本生化学会、日本細胞生物学会、日本発生生物学会	1
日本生化学会との合同開催(毎年)。あるいはアメリカのExperimental Biologyのように日本解剖学会や日本生理学会とも合同開催。	1
日本生化学会とは年会のレベルではつねに合同で行うべきである。内容、規模とも両学会を別々に開催するメリットは両者にはないはず。また、現時点であれば分子生物学会が主導して、合同学会の企画を進めることが可能。	1
日本生化学会その他、分子生物学的手法を研究ツールとして利用している学会ならずべて可能ではないか。	1
日本生化学会を吸収してください。細胞生物と連続して開催してください。	1
日本生化学会日本細胞生物学会蛋白質科学会	1

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

その他記述	件数
日本生化学会日本免疫学会(分子生物学会の中に免疫学に特化したセッションを設けてもよい)日本癌学会(規模が大きくなりすぎるかもしれない)	1
日本生化学会理由:年会の開催時期が近い	1
日本生化学会	1
日本生化学会 日本神経科学学会 日本発生生物学会	1
日本発生生物学会、日本細胞生物学会、日本動物学会、日本再生医療学会、日本抗加齢医学会	1
日本免疫学会	1
発生生物学会、神経科学会	1
分子生物学会と生化学会は合併して一つにまとめ	1
毎年、いろいろな専門学会と合同開催し、「分子と○○」というようなシンポジウムを開催していくと、いろんな分野の研究者と触れ合えて嬉しいです	1
薬学系	1
隣国の同様の学会	1

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	生化学会とは組織として合併するべきである。
※	ASBMBのように日本生化学会と統一して欲しい。
※	無理にどこかと合同開催にする必要はないと思うが、福岡大会のように分子生物学会と生化学会が近接して別々に開催されるようなケースでは、一緒にやれなかったものかなと感じた。
※	以前、生化学と合同でやったが、やはり概念的に異なるので別の学会としてやったほうがよい。一方で、以前に比べると生物現象に根差した分子生物学そのものが少なくなり、広範な研究者を引き付ける魅力は薄れつつある。このままだと分子のための分子生物学会、もしくは医学のための分子生物学会となり、多分数年後には参加しなくなっていると思う。
※	合同開催にすると、面白い内容が増える半面、まったく興味がないものも増える。後者の方が多いと、滞在期間が無駄になる可能性があり、不安である。
※	生化学会と合同開催にして、大きな学会は年1回にした方がよい。年配の方々の中には、それぞれ分生、生化に強い思い入れを持つ方も多いかも知れないが、発表内容に両者で大きな差が無く、若い人にとっては、合同にした方がより多くの人に見てもらえる機会が増えて良い。人材交流の面でも両者が合同の方が良い。一部の人の学閥意識で若者が損する構造になっていないか？
※	どっちでも良い。というか、分子生物学会だけで開催しちやいけな理由ってあるんですか？規模も十分でしょう？
※	基本的に似たような学会が多すぎる。毎年違う小中規模の学会と合同開催することを基本とし、相互の交流を図りながら、負担を減らすことを目指すほうがよいのでは？
※	前の合同開催は、人数が増えるばかりで、項目を分けた分科会形式で遣るのであれば、合同開催で人数が増えてもOKかな？と思う。
※	今大会のような革新的な企画は、他学会との合同開催では難しいだろうから、単独で良い。その分、本会はずっと革新的な試みを続けてほしい。
※	合同開催で、あまり参加していないような他の学会を肌で感じれるのはいいですが、分子生物学会自体が大きいので合同開催にすると規模がさらに大きすぎるため合同開催しないほうが良いと思います。
※	他学会と合同でも良いが、開催する部屋の広さを考えないと人が入りきらないと思う。
※	大きくなるデメリットはありますが、他の学会からの刺激も必要かと思えます。どの学会と共同にするかということが問題だと。
※	2~3の分科会として分けることも、選択肢としてはありかもしれません。
※	分子生物学会も限界にきているので、生化学会との合同開催を毎回模索すべきである。
※	学会そのものを日本生化学会と合併するとかしないという話がずっと出ているが、そちらを先に決断した方がよいと思う。
※	会場がいくつかの建物に別れていて、行き来が非常に面倒だった。会場は1つにまとめた方がスムーズにできると思う。
※	どちらでもよい
※	今でも聞きに行きたい演題が重なるのに、これ以上規模が大きくなるとますます聞きたい演題が聞けなくなる
※	同じような学会があるのなら、合同にして、労力を省く方がよい。主催者の負担が大きい。
※	現状、学術会議として開催する意味がないです。思い切って、企業の展示会と大学院学の踊り場にしたらと思います。
※	もう少し分割して規模を小さくした方がよいのかもしれない。難しいですね。
※	海外で行われているような、ライフサイエンスの数種類の学会が同時期に近隣/同じ会場で行われ、複数の学会を見て回れるような形態。旅費や時間確保が大変なので、多少参加費が上がっても、そのほうがよい。各学会(役員)は学会の立場やプライドではなく、参加する側から考えて欲しい。
※	難しい問題です。日本生化学会との合同年会も何度か経験しており、そのときはそれでいいのではとも思いましたが、それで今回のようなユニークな企画が実行しづらくなるなら、単独開催を支持します。
※	生化学会と細胞生物学会あたりは重複する人も多し、同じ内容で発表することになりがちなので、もう一緒にしたらどうですか？
※	分子生物学会のみで十分規模が大きいので、他学会と合同開催にすると、訳が分からなくなると思う。
※	毎年生化学会と合同開催にすれば良いと思う。
※	合同開催するとこれ以上に人数が増えるのでしょうか？ほとんどの学会を内包しているように感じています。
※	スケールメリットを最大限活かすべき。
※	いつも合同開催は嫌だが、数年に1回程度なら歓迎
※	特に希望なし。
※	数年おきに、他学会と共催すれば良い。
※	どのような他学会との合同開催でも、分子生物学会のように巨大会場では人数が多いために特に異分野間の交流の場が増えることはなく、真面目に共同開催の意義として考えるのであればあまり合同にする意味はないように思われます。また学会間での運営側の方針の違いによる不都合や、運営上の主導権争いなどが起こる事を危惧します。
※	サイエンスの発展のためには異分野との交流が必要です。分子生物学は生物学、薬学、医学はもちろん農学、工学、化学、物理学、数学等あらゆるサイエンスとの接点があるので、将来的には異分野との交流から分子生物学の可能性を考えてみるというのはいかがでしょうか？
※	単独開催、合同開催、適当にどちらもあればよい。単独開催の場合、生化学会年会与開催時期が近すぎるのが残念。

質問17. 年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

※	その他記述
※	過去何度かあった生化学会との共催に拘るつもりは無いが、研究者のフィールドが結構重複している生化学会と分子生物学会との間隔が3ヶ月というのは正直厳しい。2~3ヶ月程度しか開かないのならば共催にすべきと思われるし、逆に5~6ヶ月開くのならば単独開催の方が良い。また、神戸→横浜→神戸・・・の様にある程度場所を固定化して東西日本を行き来する事、12月上旬に開催する事など、ある程度根幹となる開催概要を固定してもらった方が、多くの研究者にとっては予定が立て易いと思われる。そういう「ブレない大きな学会」という認識が広がれば、類似分野の他学会との共催は自然とこなれて良くと思われる。
※	生化学会と一緒にいただきたい。
※	分子生物学会単独の内容に偏りがあり、興味が薄れてきている。
※	他学会と同時にやると結局企画数が多くなり、ますます busy なプログラムになり、全てが中途半端になる事を危惧する。
※	十分な規模で活気もあるので、これ以上学会をかぶせるのはビジーだと思う。
※	複数の学会で合同開催してもらえると、内容の重複が避けられるし、出張回数も減るため負担が少なくて嬉しい。
※	演題など重複するような学会は合同開催。
※	どうせ時間がかぶって聞けないのが多いから、細分化して学会を分けたほうがよい。
※	生化学会と分けてる意味が分かりません。
※	基本的には単独開催がよいが、数年に1回程度、他学会との合同開催もしくは一部合同開催があるとプログラムに新鮮味が感じられ、勉強になると思います。
※	以前の生化学会との合同開催には、全くメリットを感じられなかった。
※	関連学会を統合してしまって、生物学会などにし、その中で分科会をするなどの統廃合をした方が、参加者としては良いと思う。
※	毎年でなくてもよいので、内容的に重なるので、合同開催を考えてほしい。
※	研究や学問的な面で、分子生物学と生化学はもはや不可分であることは明白なので、研究者の利益を考慮すれば、日本分子生物学会は日本生化学会と速やかに合併すべきである。歴史的なしがらみとか今の若い研究者には全く関係ないことではあるが、それでも合併が無理だというなら、せめて年会くらい一緒に開催するべきである。
※	合同開催という形で大きくする事に主眼を置くのか、それとも合同開催を手がかりとして吸収合併に持っていくのか。今後、日本国民の人口自体が減少している現状で分生の学会員だけが会員を増やすということはありません。少人数で小回りの利く学会を目指すのか、大規模で融通がききにくくても生命科学全体の中央、王道を示す学会になるのか。私は年会長の負担はあるのは申し訳ないとしても、この大所帯で融通の利きにくい学会のまま、年会のテーマを工夫することで生命科学の中央にいて欲しいと思うのですが。
※	他学会との合同開催については、規模だけでなく時期の問題もあると思います。生化学会は秋、分子生物学会は冬といった感じで独立していれば、参加する側もスケジュールが立てやすいです。2012年福岡のようなパターンは最悪です。
※	今回のようにテーマ性を持った年会でしたら単独開催が適していると思います。
※	生化学会との合同開催も面白いのですが、参加人数がさらに多くなることと挑戦ができないことがデメリットのように感じます。私は植物側の人間なのでどっちに転んでもあまり影響はありませんが、硬直化した年会になるくらいなら単独で開催した方がよいと思います。
※	学会ごとに「特色」があると思います。合同開催にすると、規模が大きくなりすぎて、「体力」を越えてしまいます。
※	他の学会のことは論評しないが、分生が今後もガチな企画をやるのなら、単独開催の方がよいのは自明。
※	単独開催、合同開催、連続開催の年が交互に行われれば、面白いと思います。
※	生化学会とは、会員と内容がかなり重複していると思います。むしろ別になっているのが不思議に思っています。
※	これだけの規模のある学会が他学会との合同開催はあり得ないと思います。冷静にお考え下さい。
※	特に意見なし
※	昔、進化学研究会を東大校内で立ち上げたとき、ビールを飲みながら動物行動学の人を呼んだりしましたが、考古学の分野、動物行動学の分野と協調することで新たな進化の地平が見えてきました。ウマ科学会では、弁護士の先生まで来ます。心理療法、古代史、すべて参加してもらっていますが、非常に興味深い話が聞くことが出来るようになってきました。
※	秋か春の暖かい時期にしてほしい。12月は寒い。神戸や横浜は海辺なので風が強く冷たい。
※	これ以上規模が大きくなるのは、会場の移動も大変になるし、演題もぎっちり詰まってしまうので良くないと思う。従って、単独開催にしてほしい。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて（その他）

※	その他記述
※	不正の調査に係る第三者機関の設置は、末期的なことではなく、スタートである。
※	すべてではないですが、4コマ参加しました。企画は良かったと思います。ただ、年会参加者から比べ、圧倒的に参加者が少ないため、学界全体の総意とはならないと思います。内容は非常に深刻な問題だと思います。
※	全ては参加していませんが、集まる人数が少ない。学術発表と平行なのでよほど関心のあるヒトでないと参加できない。そこで交わされる意見が全体を反映しているとも、一般的な意見とも思えなかった。急先鋒だけが集まり閉じた議論をしていると極端な方向へ行きそうで怖い。でも、招聘された方々が(それなりの肩書きの)どのように考え散るのかを聞くことができたのは良かった。
※	1回しか参加していないのでなんともいえないが、大学と研究所のスタンスの違いが不明瞭で、全体的に論点がすぐに拡散してしまう印象をもった。大学は教育機関であることが大前提であり、K教授の問題に関して、単純にデータの捏造の査定と当事者の処罰で論じることができない問題があると感じる(大学院生の学位取り消しの問題に関しては、解決はより困難)。
※	学術発表と重なっており、興味はあったが参加できなかった。
※	ホームページで統一見解を告知するので十分だと思います。議論して決まるものではないと思います。
※	自分自身は参加していないのですが、学会で毎回毎回取り上げる問題(一般参加者までまきこんで)なのかどうかは疑問に思っています。もっとサイエンス自体を中心に、前向きな話をしたいです。
※	企画は非常に素晴らしいと思いましたが、時間がシンポジウムやワークショップと被っていたので、ランチタイムなど行きやすい時間に予定してもらえると良いと思いました。
※	倫理観は教育で解決できる問題ではない。そうでないものが教授になる現行のシステムも見直す必要があると思う。つまり、教育者の選別が必要である。
※	基本的には、「開催形式・内容ともによかった(一定の評価をした)」だが、ガチ議論よりもこれこそ、テレビ放映するべきではないのか。
※	試みは悪くないが、実際、「何をするのか」が曖昧に終わった感じがした。
※	聞きたい演題があったので参加できなかった。一般演題とは異なる時間帯の方がよかったのではないのでしょうか。
※	通常のサイエンスのセッションの裏番組にしたのが残念である。
※	一般の研究発表の「裏番組」的な時間帯に設定されており、参加しづらかった。
※	夜やれば良い。研究発表が聞けない。
※	もっと多くの会員が参加しやすい時間帯にしてほしかった
※	一コマだけ参加したが、イマイチ核心に迫れていない印象を受けた。今回のねつ造問題に関与した人間がいる機関の人間としては物足りなかった。しかし、発現が公式記録として残るため、当施設への様々な影響を考慮し質問を控えた。
※	参加はしなかったのですが、どうい話になったのかは気になるので、Youtube等で配信していればみてみようとは思っています。できれば、まとめとかつくってくれたら良いのですが。(そしたら、みんないなくなっちゃいますかね。笑)
※	参加していないが、良い試みだと思う。
※	学術プログラムと完全に重なっていたため、全く参加できませんでした。
※	参加したかったのですが、シンポジウム等と重なっており参加できませんでした。
※	参加したかったがスケジュールがタイトで参加できなかった。内容のweb公開を楽しみにしています。
※	参加したくても参加できない今回の設定は最悪
※	一部のみに参加した。ワークショップ等と時間を分けた方がよい。議論が中心なのはよかった。ORIを設けるのは、よくない面も大きい。研究現場では、研究活動に多様な制約がかかり余計な事務作業が大幅に増えるだろう。研究者の独自努力で、ORIのお世話にならずに、健全な姿で研究をしたい。理事がORI設立の方向に向かっているのは、学会のあるべき姿とは逆ではないか。
※	麻薬を作って売らないと皆が生きるすべのない国で、麻薬撲滅するために何をすべきかを考えるフォーラムなど参考にするといいと思います。
※	若手教育とかえらそうにやって、そのパネラーが研究不正問題の当事者に。学会がこの人かと思って選んだひとがこのようなことを起こしているという事に対する過去の反省がないのでは？過去の事を無視して前に進めるように見せても意味がない。
※	学術誌に発表した論文は著者のうち誰がどの実験をしたか明記することを義務づけること、つぎに分子生物学会の会員からプラスミッドとう実験の再現に必要な資材をわけて欲しいとのレクエストが来たら友人知り合いに関係なく速やかに協力することを義務づけること。こうすることで発表された研究結果がどうやって作られたか透明性がまし、同時に研究結果が他の研究室での再現性がまします。
※	内容は良かったと思う。シンポジウムやワークショップと時間が重なると参加したくてもできない場合があった。非常に残念。
※	毎日新聞にとりあげられていたが、『議論は活発だったが、空席がめだった』ということだった。そのとおりと思う(部屋の後部から撮影した写真ではほとんど参加者がいなかった)。他の企画を減らしてでもここに力を入れるべきだったと思う。
※	初日だけ参加したが、どこからが不正になるかに関して考えさせられた。
※	参加者が少ない
※	開催の時間帯がよくない。学術講演とかぶっているとそちらを優先してしまう。
※	こういうものがこれまでの学会で行われてこなかったこと事態に恐怖しております。強盗や詐欺を放置する国で、若者に自由があるでしょうか。人生を謳歌するのは身分が安定した教授・准教授先生だけ、という世界に若い人達は身を投じたいと思うでしょうか？こういう企画はすばらしいと評価しなければ続かない現状を恐ろしく思います。もっと当たり前のよう開催してもらわなければ、未来はありません。来年度も継続を期待します。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて（その他）

※	その他記述
※	取り組み自体は評価するが、参加者が少なかった。多分大多数は自分に関わりがないことだという認識で、この問題に対する関心の低さを物語っている。関わりがなければそれに越したことはない問題だが、なぜ学会として取り組む必要があったのか、なにが問題となっているのか、もっと各自の問題意識を喚起する工夫が必要。
※	学会不参加のため適切な回答ができない。
※	ねつ造に加担したわけではないでしょうが、分子生物学会としての説明責任はあると思うので、何かしらの対処を考えてほしいです。
※	シンポジウム、ワークショップと重なっていて、参加できなかったのが残念である。
※	内容はよかったです。時間帯がWSと重なっていたのが残念です。高名な先生がたくさんいらして、真剣に議論を重ねていたことに関心の高さが伺えました。しかし、学生の参加者はほぼおらず、NHKの方が仰っていたように多くが後方に座っていました。私は満席になるものと予想していましたので参加者の少なさにはがっかりです。「不正を見たことがあるか？」のアンケートは再度行ってほしいです。その際は経験年数も考慮してほしいです。私は経験が少ないので見たことはありませんが、経験豊富な先生は一度でも見たことがあれば「はい」と答えます。また、不正がいつどこで(国内か海外かも)あったのかも問うべきです。不正問題がスポーツにおけるドーピング問題と似ているという話は非常にわかりやすく、認知度の高いドーピング問題をロールモデルに、不正に対する研究者の意識を向上させるのがひとつの良い対策になるというのは同感です。公正局は必要だと思います。しかし、世間に対するパフォーマンスを重視して即席で実務能力の低い組織を作っても意味がありません。グレーとブラックゾーンの判断も難しいです。虚偽や噂、私的な妬みや憎悪に基づいたリークに踊らされて公正な研究者を弾圧してはなりません。摘発は証拠十分の「確実にブラック」の場合のみ可能です。ミスは許されず、公正局委員にも大きな責任が降り掛かります。不正を判定できるのはごく近い分野の研究者で、匿名性が高くなければあまりに不毛です。公正局が100年後も機能的組織であるためにも、そのあり方に対しては慎重かつ度重なる議論を望みます。
※	今回は参加できませんでしたが、必要な企画と思います。デリケートな内容を含むでしょうからリアルタイム動画配信は無理と思いますが、開かれた場での討論は重要ですし、議事録も後日公開して、文章によるメッセージとして会員に伝えるべきと考えます。
※	意図と内容は高く評価します。しかし参加者が少なかったのは会員の興味の問題と共に回数が多すぎたせいもあるかもしれません。2回程度にわけて行う事で集中度を高める事も出来たかと思います。関係者のご尽力に感謝すると共に今回の教訓と議論が今後の改革に生かされるよう願います。
※	ホームラン的な研究だけしか評価しない研究者社会の姿勢が、公正性を逸脱しても構わないという考えの根元かと思います。
※	お疲れさまでした。非常に良かったと思います。パネリストの考え方のバランスをもう少しとった方がいいと思いました。壇上からの意見が強すぎるのは活発な議論の妨げになるかもしれません。ご努力感謝します。
※	他の企画とかぶらない時間にしてほしかった。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	今年度の年会は、年会長のキャラがあるから成り立った形式である。来年以降真似したところで誰もついてこないと思う。基本的にはワークショップやシンポジウムやプレナリーレクチャーの演者の人選とクオリティの向上に労力を割いてほしい。
※	近藤滋さんのセンスが光った年会だったと思います。ネガティブな意見も当然あると思いますが、新しいことを取り入れチャレンジすることで、巨大会が取り得る今後の方向性が見えてくるのだと思います。
※	今回だけの取り組みにしてしまうには惜しい企画が幾つかあります(ポストク招聘、ガチ議論)。予算の制限もあるとは思いますが、分生でしか出来ないかつ継続的に行ったほうが効果が出る企画ですので、是非もう数年は続けていただければと思います。
※	未来の学会のあり方を考える挑戦的な取り組みは評価しますが、ある程度継続性を持って、改革に取り組んで欲しいと思います。3年間は同じスタイルで開催し、学会がどのように変貌するのか、見てみたいと思います。
※	プログラムの絵がよかった。
※	ASBMBのように日本生化学会と統一して欲しい。
※	生化学会と合体して会費の負担を軽くしてほしい。
※	毎回は厳しいと思いますが、時々このような盛りだくさんな企画の学会があるといいと思います。
※	言いにくいのですが、ジャスうるさかったです。展示ブースとはいえ聞きたくないものを聞かされるのは少し集中力をかきまします。
※	Jazzとサイエンスアート企画は是非定番として欲しい。
※	とても盛会であったと思います。組織委員会の皆様、お疲れさまでした。
※	iシステムは使いやすく、非常に便利であった。次回以降も本システムの運用を希望します。
※	研究重視
※	今年の最終日のように、エンターテインメントの要素を入れるのは良いと思う。
※	海外からの招聘は非常によいと思いますが、国内若手にも同じようにサポートがあってもよいのではないのでしょうか。
※	少しのfunは必要かと思いますが、もう少し厳かな雰囲気Scienceの議論をしたかった。これからを期待しています。
※	新しい企画を盛り込んだという点では評価できるが、いずれも消化不良の印象がある。ガチ議論は、文科省の役人や元職員、企業関係者など呼んだけれど、現場の研究者からはかけ離れた議論ばかりで、若い研究者はより不安にかられるだけで、夢のない、楽しくない話だった(最後の方までいなかったので、少なくとも前半は)。やはり、博士号のあるかなりの研究経験をもつ人材(年寄りの天下りでなく)が、科学行政や政治に関わらないとダメか? 科学という文化がない日本では、いずれ「科学技術」という分野しか存在しなくなるのだろうか?
※	やりたい方向性は賛同しますが、一回限りの試行では意味がないと思います。次回にも引き継ぐ様な伝統を作ってください。年会長の個性が強烈に反映されるという伝統の開始にあたる機会になったのかもかもしれません。10年後にあんなときが有ったと言う様な笑い話になっただけでもいいかもしれません。
※	若手の発案者のワークショップを多く採用されていたのがとても良かった。今後も新しい挑戦を続けて頂きたい。
※	もう英語で全部やるべき
※	ポスター会場が分かれていたのが不便だった。
※	一般公開のプレゼンはとても良かった。是非、この企画を継続し、一般市民に向けては事前に大々的に宣伝して欲しい。一般市民に科学の根が広がる有効な手段であると思う。その意味で、今回の企画は、企画そのものも発表内容も素晴らしい。今回の様に、スライドにデザイン性を取り入れ、プレゼンを徹底的に練り込んで欲しい。
※	来年はまた、実験データ「だけ」の学会に揺り戻るらしいですね。そこは非常に残念(ポスター議論の充実自体は良いと思う。それも、学会に参加するたびに残念に思っていた点だから)。「流れを固定しきれなかった」という意味では、近藤先生は今一歩詰めが甘かった。
※	三回目の年会への参加であったが、今回が一番素晴らしい。特にワークショップ、シンポジウムの内容が本当に素晴らしかった。今後も一般演題はポスターのみにして、口頭発表は今回のように座長がオーガナイズする形式を踏襲してほしい。来年も参加したいです。
※	この路線で行ってください。反動で元に戻ると、分子生物学会も生化学会のように落ちぶれます。
※	全てが個人的に興味を引くものではなかったが、様々な特別企画を試してみることは賛成です。特に「ガチ議論」は、日本の大学における研究環境の改善を強く望む自分にとっては、学会前にウェブ上で様々な双方向性の意見交換が拝見できて良かったです。委員会の皆様お疲れさまでした。
※	何とは言えないが、学会自体がマンネリ化していて新しい情報等を得にくくなっていると思う。これを打開するために今年度新しい試みをしたと思うが、これからも新しい試みを随所に採用し、魅力のある学会にしてほしい。
※	今後も新しい取り組みを続けるべき。
※	国際化の名の下に英語使用を押し付けるのは勘弁。
※	特別企画を悪いとは言わないが、もっとシンプルな学会が自分としては良いと思う。期間が長すぎ、余計な企画が多すぎて分散しすぎていた、と思う。
※	分生オールスターズ復活祭をやりたい。今年のような大々的なものは無理と思うが、ワークショップの会場1つを演奏聞きながら内職(休憩?)できるようにするか。自分が演奏したいだけです。
※	「いいね!」の数が多いポスターのランキングを表示するサービスを。
※	非常に良かったと思います。マスコミとのタイアップもあり、実験的な試みにわくわくしました。
※	サイエンスアートは理解できる。しかしジャズは誰かの個人的な趣味でしょう。無意味とまでは言わないが無駄な企画とか思えない。ジャズや発展場の提供などが学会の企画としてOKなら、学会公認のスポーツ大会とかもすればよろしい。年会は議論する場所である。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	海外ポスドク呼び寄せ企画については反対意見を持っています。将来国内のポストを取る上で海外に行かない方が良いと考えて、敢えて国内に残っている人間もいるということを知って欲しいですし、そういう人間は海外での研究経験がない経歴というリスクを取って敢えてその道を選択しています。今回の学会は国内ポスドクは年会費と参加費と旅費を支払って参加しています。一方で海外ポスドクにその補助を与えるというのでは強い不公平感を感じます。海外ポスドクは様々な利点と引き換えに国内に戻れないリスクは覚悟しているはずであり、無理にそのバランスを崩してほしくないです。
※	今回は今までにないくらい、とても「楽しい」分生でした。来年以降も、今年のように企画して頂きたいです。
※	サイエンスセッションもそれ以外の企画も、非常に充実していて楽しい年会でした。会議室の性質上難しいところもあるとは思いますが、スクリーンをもう少し高い位置に設置していただけると、見やすいです。
※	今回の学会の取り組みには非常に感銘を受けました。近藤先生からの会員宛メールも拝読させていただきましたが、その内容にも賛同致します。自分達の領域の学会も変わって欲しいと思い、その学会執行部の先生に今回の分子生物学会の様子を伝え、近藤先生のメールを転送しました。今回の企画実現は、年会長始め多くの関係者の皆様の多大なる御尽力、御人望の賜物と思います。本会の成功に敬意を表するとともに、心より御礼申し上げます。
※	今回の学会のように最終日のポスター発表をなくしてもらえるとありがたいです。企画としては「2050年シンポジウム」のようなものがあると学術以外でも楽しめていいように思います。
※	私は植物研究者ですが、ここ数年で植物研究者の参加が著しく減ってしまった。もっと植物研究者が参加を希望するような工夫があったら良いと思う。
※	関東でやる機会を増やしてほしい。
※	3つのポスター会場のうち、1つの会場だけ遠くて不便であった。偶数奇数発表で何度も往復する必要があったため、ポスター会場は近辺にしてほしい。昼食を食べるところが少なく不便であった。昨年の福岡の様に、神戸と横浜以外でも開催してほしい。例えば、北海道など。神戸で開催の場合は、開始時間が九時からのため、朝の通勤ラッシュ(ポートライナー)と重なってしまい、非常に行きにくいので、開始時間を前後に少しずらすと良い気がする。
※	シンポジウムとワークショップの時間を一日にして、そのテーマについてとことん議論すべきでは？2時間半では時間が少なすぎる
※	ポスター発表の日本語化の積極的推進 英語発表も可とするがデフォルトは日本語でないといけない。これは分野がひろい分子生物学会ではポスターなどをみてまわってもアイキャッチで重要なものがわからないからである。netでの検索は勿論活用できるが、巨大会会としては日本語発表プラス英語ポスタープリント(備え付け)というようなスタイルで外国からの参加者には対応し、学会自体は日本人参加者のための学会となしてほしい。
※	堀田先生の講演とWeb参加型の討論会を織り交ぜた、キャリアパス委員会の企画の2日目の分がとても良かった。
※	今年の年会長さんの近藤さんは良くやったと思います。企画の一部(特にガチ議論、Jazz、アートとの融合)は来年以降も引き継がれていくことを望みます。時々大会に活気を入れるために、近藤さんは数回に1回位大会長をやってもよいのでは？
※	企画の多くが上滑り的であったという印象です。試みをされることは結構と思いますが、地味でまじめな研究者を遠ざけることになってはならないと思います。近藤会長(および阪大生命理学)は「面白いことはいいことだ」とお考えだと思います。私は、この価値観は科学にとっては非常に危険だと思います。アートや音楽にも「面白さ」にも絶対の善悪や正誤はありません。しかし科学はそうではなく、重要か否か、正しいか否かは、証拠と理論の積み重ねで決まるものです。重要で前途有望な研究が「おもしろい」の一言で駆逐されることを危惧します。私はかつてプロの音楽家を目指していました。そのとき痛感したのは、全員を感動させる音楽は存在せず、逆に、優れた音楽であっても、権威者に気にいらなければ世に出ることはないということです。分子生物学会が「おもしろいかどうかを一部の権威者が判断する」団体になってしまうことを危惧します。アートと科学の価値観は違います。学会にアートを持ち込むことには絶対反対です。私は非常に個人的な理由でジャズは嫌いです。音楽を流すことは、場合によっては参加者の一部に非常に不愉快な思いをさせることもあります。
※	新しい企画が多く試されたのでとても面白かった。今後もこのような挑戦的な企画があるとうれしい。
※	大変個性的な年会長のオーガナイズにより、一般からの企画募集を経て、今回は斬新な企画がたくさん盛り込まれていて、非常に刺激かつ面白い学会だったと思います。サイエンスの面白さを引き出し、それを科学者に思い出させ、かつ一般国民にも発信するという意味でよい企画が多かったと思います。もちろん斬新な企画のみならず、本来の趣旨であるサイエンスの進捗発表の場としても、通常通り、あるいはそれ以上に機能していたと思いました。
※	コンテンツはどれも非常に魅力的であったが、それだけに会場の配置や導線の悪さが残念だった。しかしそう思わせるだけあって、参加したものはどの企画も大変有意義なものであった。また、派手なアウトリーチ企画などに隠れていたが、近年の実験技術や装置の進展に伴ってか、学術講演も出席したどれも非常に刺激的で、有意義なものばかりであった。その中で、来年に向けて改善できそうなのはポスター発表ではなからうか。学部生の発表練習なんだか、ポスター発表をしたという事実が欲しいのだから、魅力的でない、話を聞きたいと思えないポスターの多さは、これだけ大規模な学会では非常に勿体無いと感じる。これで終わりとせず、少しずつでも参加する研究者、またそうでない一般の方にとっても、有意義な学会となっていくよう、微力ながら協力していきたいと思う。
※	良かった。大学、研究所以外の方から話を聞いて非常によかったし、夜は飲んで終わりより夜まで何かやり続けた学会だったと思います。
※	来年は参加しようと思っています。
※	学会の大きさを活かした活動をさらに模索してほしいです。広い講演会場のある所が望ましいです。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	発表時以外は県外の学会への参加が難しいため、本年度は参加できませんでしたが、新しい学会への挑戦企画に共感しました。これからは斬新な企画を期待しています。
※	大変に面白く参加させていただいた。学術講演のみでなく新しい試みは是非やるべきだと思う。様々新規な試みについて隣にいる知らない人に割に気軽に話しかけることができてよかった。気軽に話ができる雰囲気作りは来年度も行ってほしいと思う。学術講演に関しても分野が異なる報告を多く聞いて情報を得ることができてよかった。シンポジウムのレベルはすばらしかった。
※	分子生物学会も限界にきているので、生化学会との合同開催を毎回模索すべきである。
※	今年のような斬新な企画が入った学会であれば、とても良いと思いました。
※	去年まであった「ポスターから口頭発表(シンポジウムやワークショップを含む一般講演)に採択されるシステム」は復活させてほしいです。地方の国立大学で研究をしている身としては、そういう場所がないとappealする場がなかなかないためです(ポスター発表時に、多くの方が聴きにきてくれましたが、それでも、やはり口頭発表の方がよりappealできると思いますので)。
※	今年の会場(神戸)は広いが、ワークショップの部屋は狭く、立ち見も出来ないことが多かった。もう少し広さに余裕のある部屋を用意していただけるとありがたい。
※	シンポジウム、ワークショップの会場は一部を除いてキャパシティが足りていなかったように思う。ただでさえ神戸は会場が分散していて大変なのにポスター会場まで分散しては自分の発表と同時発表のポスターを見に行くことすら出来ない。
※	口頭発表を復活してほしい。
※	IT化は今後も推進してください。発表内容は日本にとって、研究推進にも重要な資産だと思います。うやむやにせず、未来永劫 サイトを閉じずに参照できるようにする(むしろ、1年後からは誰でも見られるようにすべき)と思います。共同研究先などを調べるのにも役に立つと思います。今回、いわゆる「本流」以外の企画が非常に多かったです。あれは年会長の意向が主でしょうか(だいぶ変更もありましたが、Perfume呼ぶ等)。一般からの企画の吸い上げもできればと思います。具体的には、こういうアンケートで来年度の企画をなど。この「本流」以外の企画に対して、(狙ってと思いますが)全部は評価はしていません。これによって大会費が上がっては本末転倒ですし、好評なものは次回もやる、不評なものはすっぱりやめる(例えば企画の半分は継続して次年度も、半分は入れ替えるとあらかじめ決めておく)ことを切に願います。
※	あまり企画に力を入れず、シンポジウム、ワークショップに力を入れてもらいたい。本当に英語で行うのが良いのか、再考の必要があると思う。参加者が減少している原因になっていると思う。
※	面白い企画があり、それなりに楽しめた。分子生物学会の転換期にある印象を受けた。他学会との共同開催もしてほしいと思うが、今年度のようにエンターテイメント色が強くなると、なかなか難しいかもしれない。分子生物学会は単独で好きなようにやった方が良いのかもしれない。しかし、「世界のトップレベルのサイエンスを発表する場」という学会の基本は失って欲しくない。
※	大隅典子先生と近藤滋先生の波長が一致したのでしょうか、斬新な年会でした。私は単なる一学会員ですが、近藤先生にお礼を直接言いたかったです(恐れ多くて近寄れませんでした)。批判を恐れず、攻める学会であり続けて欲しいと願っております。
※	会場が広すぎて回りきれなかった。かなり不便であると感じた。
※	フォーラムの企画が、シンポジウムなどがぶっ壊れてしまい、参加できなかったため、日程面での工夫が必要だと思う。
※	会場が分散していて移動しにくかった。ポスター会場(第一)も、ホテル内の会場で照明が薄暗く、読みにくかった。研究発表に支障のない場所を確保してほしい。
※	ポスター演題を冊子にしていないので、webでの演題検索は、すぐに打ち切るべきではない。
※	海外ポスドク招聘はいいアイデアだと思います。もっと宣伝をして海外で素晴らしい研究をしているポスドクが日本に戻ってくるきっかけになればよいと思います。高いお金を出してBig Nameを呼ぶより、良い研究をしている日本人のFirst Authorを呼んだ方がコストパフォーマンスも良いはず。
※	企業展示ブースが隔離されており、また、シンポジウム・ワークショップ・ポスター発表と連続してある以上、そちらを犠牲にしなければ、ブースを見に行く時間を十分に確保できなかった。
※	「最近、発表の学生さんが黒服で嫌だな」と感じていたのですが、分子生物は大変健全で、少し安心しました。それとも就職を諦めた学生さんが多かったのかなあ。
※	深海や宇宙、進化(生命誕生やトランスポゾンとインプリンティングの関係など)の話題はいつも部屋一杯に人が集まるので、大きめの部屋で開催して欲しいです。天井の低い部屋は、スライドの投影が低くて真ん中の席でも見え辛いです。席の配置を工夫するなど、なんらかの改善ができればいいなと思います。
※	巨大会会としての有りようの方向性はいろいろあると思いますが、今年のように学会運営そのものが自由闊達であることが続くことを望んでいます。今年度の学会は記憶に残るものになりました。参加してよかったと思っています。
※	近藤年会長の自由な発想の学会だったと思います。よかった!
※	このような形で継続して欲しい。
※	年々ハードルが上がって行って大変なので、今年のような面白い学会はオリンピックみたいに4年に一度で良いのではないのでしょうか。
※	来年以降も今回の様な前衛的な学会にまたしていただきたいです。
※	ポスター会場での椅子の設置、増やしてください・・・

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	全く新しいスタイルの年会だったのでどうなるか参加側としても不安だったが、結果的にはとても良かったと感じている。「お堅い」学会もいいところはあると思うが、よりサイエンスを発展させていくにはフランクさ(フランクな会話、セッション)が大切だと思う(こんなこと聞いてもいいのかな、ちょっと非現実的かな)というような意見を言えるような環境からこそブレイクスルーが生まれる気がする)から、今回のような学会は今後も開いて頂きたいと思っている。
※	研究外の企画(音楽や写真)が個人的にはとても良かった。その話題をきっかけになかなか話せない人とも研究の話ができた。一般の人でも学会は堅苦しくて、近くで公開講座が開かれていても覗く気さえないという方が多いと思うが、このような作品展があつたりすると友人をさそったりしやすいと思うので、一般の方に学会や研究を知ってもらうための企画としてとても良かったと思う。
※	シンポジウム、ワークショップともに参加者数と会場の大きさがマッチしてないものがあり、会場に入れないセッションが多かった。ある程度予測して会場の大きさを選定してほしい。
※	(年会への意見ではありませんが)、AAASのように政策などについて、学会として意見を表明するべきだと思います。学会員の総意を示せば(医学会のように)政治に対して何らかの影響を与えることが出来るのではないのでしょうか。
※	発表のカテゴリーを事象でわけることには異議がないが、植物・微生物に特有な分野(たとえば光合成とか物質生産系)などが存在せず、この分野を専門とする研究者としては、自分たちの研究分野が分子生物学ではないのかと強く思った。ないがしろにされているように感じた。
※	お祭りのような学会で、楽しみながら参加させていただきました。
※	Q16に関して補足の意見です。このくらいの大規模な学会ということで、企業展示なども他の学会とは比較にならないほど多くの企業が参加されているものと思われ、その点では、大変役に立っています。
※	電子版抄録集を続け、是非次年度以降も残るデータベースとして維持して欲しい
※	今年の様な斬新な企画を立案、そして実施された年会長の近藤先生には本当に敬意を表する。この流れが次回以降の年会にも引き継がれることを切に願う。
※	現在分子生物学会は隆盛であるが、多くの研究者はこの状態が永遠に続くことを信じて疑っていない。もし、他分野(物理、化学、哲学等)から、「分子生物学は、学問として健全ではない」というレッテルを貼られたら「税金を使って分子生物学を行うのは不毛だ」という事態になりかねない。文科省やJSPSの方は、この点を強調されていたように思うのだが、分子生物学会側からは有効な反論がなかった。Funding Agencyが不正チェックを、という意見には、「分子生物学を切り捨てることはできないか?」というおごりが感じられた。このような状態で、分子生物学会に理不尽な要求が来た際に、他分野から協力が得られるのだろうか。「健全でない学問領域と一緒にされてはたまらん」と、断られないだろうか。あるいは、分子生物学会は解体の危機にあるのかもしれない。各研究者が、より専門的な学会へと散っていき、「私は分子生物学会とは関係ないです」と言い出す日が来るかもしれない。「さようなら分子生物学会。分子という共通語で、様々な生命現象の勉強ができたころは楽しかったよ。」という台詞を用意した。これを使う日が来ないことを祈ります。
※	電子化された演題に対してメモできる機能が欲しい。(メモ登録機能)神戸会場は、ワークショップやシンポジウムとポスターの場所が違いすぎて不便。移動を簡便にするためにテーマごとにポスターとトーク会場を併設して欲しい。電子化することで、ワークやシンポジウムに出た人のポスターに見学者が偏り、他のポスター参加者の演題を調べにくい。
※	18時以降の企画が魅力的ではあったものの、学会の夜は旧友との再会を楽しむ場でもあるので、参加できない日の方が多かった。次もガチ議論があるのなら、是非とも昼間に御願いたい。
※	神戸開催だとモノレールが混みすぎるので、他の場所での開催を希望します。
※	今回のアウトリーチ企画は継続して良いのではないかと。特にアート企画は、サイエンスにも関連した優れた作品も多く、学会会場の雰囲気も良くしていた。
※	ポスター会場同士がすぐ近くにあった方がいい。今回は離れ過ぎていた。
※	へやが狭すぎ。座長が持ち時間を考えず、遅延が多すぎ。しかし、十分たのしめました。御苦勞様でした。
※	今回の企画の全てに対して絶賛するつもりはないが、来年の横浜でもある程度は継続した方がいい企画(ガチ議論、理事会企画フォーラム)もある。これらについては複数年の継続を希望する。今回の様な新しい内容に対して批判的な意見があるという話も聞かすが、そのような意見の持ち主がいても既得権の維持くらいにしか役に立たないだろうから、そのような人には今後の年会の運営に関わらせない位の姿勢で臨んだ方がいいのではないかと。
※	「生命科学研究を考えるガチ議論」について、今回は考えるきっかけを提供して頂いたという段階で、今後さらに議論を深めていくべきだと思うので、何らかの形で続けて欲しい。また、日本で最も大きい学会として、大きいからこそできることを模索し、他学会とは違う独自の方向性を打ち出して欲しい。今回の年会の特別企画を土台に、何をしていくべきかを、学会員の意見にも耳を傾けつつ検討していくべきだと思う。今回の学会直後に、次の学会の方向性が発信されるのには違和感を感じた。
※	大型プロジェクト(ERATO, CREST, 新学術など)の報告会をまとめて分子生物学会でやればいいです。
※	どうもありがとうございました。
※	いろいろと企画を持ち込んだり新しい事を始めた点は大変面白いと思います。それによって受け身では楽しめない学会になったので評価は真つ二つに分かれると予想できます。積極的に参加した人には充実した学会であつたらうと思います。が、今回そうでは無かつたので一参加者としてはバラバラの小学会が近くの会場でやつてるような感を拭えませんでした。
※	非常に意欲的な大会を企画してくださったコアメンバーの方のご努力に、一学会員としてお礼を申し上げます。常に同じような企画が走るとは考え難いにせよ、大型学会の学会活動に一石を投じたことは間違いなく、よりまじめに振れるにせよ、類似の路線を継承するにせよ、今後の年会での企画が楽しみです。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	前の質問でも答えたが、ポスター会場・企業展示ブースの会場は一か所にまとめてほしい。オンラインアプリを使って、要旨検索・スケジュール管理ができるシステムは今後も継続して欲しい。
※	研究公正性の確保のために今何をすべきか？、このような企画は続けるべきである。
※	4日開催の場合でも、初日は昼から始まるとかの方が集まりやすいと思います(1泊減らせるだけでもありがたい)
※	大変だとは思いますが、是非今年のような挑戦を続けて欲しい。
※	来年の年会は研究発表と議論中心に戻すとの年会長の所見を拝見しました。ぜひそのようにしていただきたいと思ます。
※	来年以降も色々今年のような面白い企画をしてくれたら良いと思う。今回は日程の調整が出来ず残念ながら参加できなかったが、来年以降も可能なかぎり参加を検討していきたい。
※	シンポジウムやワークショップによっては部屋が狭すぎたり広すぎたと感じた。事前アンケートでどのセッションに参加したいと思うかアンケートをとれば、部屋を振り分けやすいのではないと思う(実際にこれを行っている学会はある)。iPS細胞の研究に対する質問で不適切な質問をした人がいて「荒らし」のような状態になってしまったので、そういう人を取り締められると思う。研究とは関係なくiPS細胞の応用に対して自論を展開していた。「一人でいくつも質問しないでください」と制止したチェアの対処は適切であったと思う。最終日のランチと楽しい企画は是非毎年行ってもらいたい。Tシャツなども売っていたが、おつりの準備ができていなかったり不手際があった。Tシャツも高すぎる。全体的に非常に有意義な学会であったと感じた。
※	研究不正、パワハラ等、今後も話し合うべきと思う。
※	・発表会場が分散している。・人気なセッションは混雑で会場内に入れなかった。→会場設定をもう少し改善して欲しい
※	来年度の学会は研究不正などの問題に対峙しない、ただの自己保身極まりない研究集会だと聞いているので何も期待していない。
※	最近の学会に見受けられる、勝ち組の理論の企画だけでは物足りない。もちろん先端に行く視点は必要。その上で、様々な目的、環境、立場で実験科学に関わる人達が、学会にそれぞれ求めることがあり、参加することにも配慮があるとよい。
※	チャレンジしなければ何も新しいものは生まれない。その点で今回の試みには大変感銘を受けました。素晴らしい年会をありがとうございました。来年は学術中心ということである意味「揺り戻し」があるのかもしれないが、数年ごとにこのような変化球はあって良いと思う。今回の年会のような「チャレンジ精神」が分生のもう一つの伝統になることを望みます。
※	年会費を安くしてほしい。
※	それぞれが、予期せぬ出会いを体験できる場所を、もっと増やしてほしいと思いました。例えば、以前行っていた開催前夜の申込制のフォーラムなどです(wet&dryの若手の企画に参加しました)。それぞれに研究への情熱を持った個人同士の出会いが重要だと思います。
※	会場が広いところを使用してほしい。
※	大規模な学会を行うには会場が限られているのは承知しているが、今年はシンポジウム等で立ち見が多かった。また小さい会場ではスライドの下方部が見ることができなかった。開催地を固定してしまうのも良くないが、何か改善してほしい。
※	大変面白かった
※	横浜と神戸以外の街でもやってほしい。
※	大いに学び、大いに笑い、そして大いに考えるという、素晴らしい年会でした。
※	もっと簡素化して欲しい。
※	昼食会楽しかったです！ワインありがとうございました！
※	学会の学術的な内容以外に、学生のお祭りという感じの要素が多すぎる気がする。それがこの学会の目指すところなのかもしれないが、特に合コンパーティーや彼氏彼女募集中などは、一部の参加者には受けるのかもしれないが、私の周囲では非常に評判が悪く、とても参加する気がしない催しであり、学会としてそのような企画をすることに対して恥ずかしさを感じた。他の学会と比べても、この学会では年会をお祭り騒ぎとみているようで、まじめに取り組んでいる感じがしない。そういう学会なのでしょう？
※	特別規格が後半に集中しており参加できなかった。
※	今年の分生はすごくなりそうな予感でしたが、参加してみると細部まできわめてよく準備されており想像以上にすごかった。今年いろいろな学会に参加したが、いろんな意味で一番楽しかった。一見、ギャグっぽくつろってはいるが、アートを展示したり、ジャズを演奏したり、顔に落書きしたり、また将来の学会像を真剣に議論できるのも、サイエンスのアクティビティが非常に高い分生だからこそであり、他の学会が同じことを試みてもまず無理だろうと感じた。組織委員会の努力の賜物であり、すばらしい学会に参加できたことを感謝している。この感動をもう一度ということでも来年もぜひ参加しようと思っていたが、年会長あいさつをざっと見ると、アホな学会によくある悪名高いディスカッサーの復活など、古典回帰を是としているようで、今年の間いかけを無視するような展開に大きな不安を感じた。
※	特にガチ議論を高く評価します。分子生物学会だからこそ国会議員、文科省の人等来てくださったと思いますし、あのような機会は他ではなかったと思います。ただサイエンティスト側が聞く側に回っていたように感じます。次回はもっといいものになると思います。
※	会場の場所によっては、Wi-Fiが拾えなくて困った。大きい食堂のような場所を設置するか、ランチョンセミナーを増やしてほしい。体力が持たない。
※	今回の試みが1回だけのものに終わらず、継続して行われるよう強く望みます

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	シンポジウム、ワークショップ、ポスター以外の部分については、今回の年会は非常に良かったので、さらに続けて改革して欲しい。できれば次回はシンポジウムとワークショップについても、斬新なアイデアで改革ができるとう良い。
※	初めて参加したが、大きな学会だからこそそのメリット(普段きけない専門外の話の情報収集ができる)を感じた。ただし、発表する側としては聴衆のバックグラウンドが広すぎるので、講演全般が概論的な発表に終始しているところが物足りなかった。そういう意味では、ポスターの方が使える情報がより多く収集できてよかった。
※	楽しかったです、運営お疲れさまでした！
※	一般の演題はポスターか口頭かになるようにして欲しい。口頭発表の人は口頭のみで良いのでは。(今までポスターと口頭両方やっていたので)今年度の新企画は評判が良かったので、来年度からも続けてほしいです。ポスター発表の時間も今年くらいで、それより遅くなるようにはしない方が良くと思います。
※	いいね
※	パシフィコとポートアイランドはもう飽きた。他にできそうな大きな会場ないですか？
※	ポスターは1つの会場にまとめてほしい。
※	運営をされた方々お疲れ様でした。政府の方の考え方のようなもの話があると良かったと思います。
※	サイエンスにはコミュニティを楽しむ雰囲気不可欠です。ジャズイベント、2050年シンポジウム、海外ポスドク招聘企画など今年の年会の多くのすばらしい企画・制度を来年以降も継承されると良いと思います。
※	近藤大会長が開始したこの流れをぜひとも継承していただけないものか。同じ企画を行う必要は全くない。自由な発想による、驚き感のある、「研究者の祭典」的分生を希望する。
※	新しいチャレンジがいくつもあって楽しめた。こういうことは続けていってほしい。ただポスター会場の場所や、口頭発表採択方法など改善して欲しいところはある。
※	特に無し
※	今年を越える活気ある学会。
※	海外ポスドク招聘企画はこれから海外に行く人、海外から日本へ帰ってこようと考えている研究者にとって有益だと思いますので、是非とも次年度以降も続けて欲しい。
※	ポスター会場が分かれているのは非常に不便。
※	ポスター発表の会場ですが、数カ所になるのは仕方ないとしても、その会場と会場との距離が徒歩5分以上もかかる場所であるのは不便だった。
※	規模が大きいのではないと思うが、会場がバラバラで移動が大変だった。
※	Late-Breaking Abstractsは、あった方が良く。というか、無いと困る(マスターの取得に学会発表が必要であるため)。
※	今までにない学会の形で楽しめました。毎年すべての企画を行うのは難しいとは思いますが、毎年やるもの、隔年や数年に1回のもの、というように継続するのがよいかと思えます。たとえば、高校生ポスター発表や公開プレゼンテーションは毎年、SFTークショーは5年に1回、といったような感じで。新しい形の学会を作っていくことには賛同します。
※	学会に新たな企画を盛り込んでいくのはとても面白いと思えます。IT化もとても役に立っていると思えますし、時代のニーズに沿った斬新な企画をどんどん行って欲しいと思えます。
※	ポスター発表と、企業ブースが分かれていたため、企業の方に出向く機会がありませんでした。今年ほどの盛りだくさんな企画と、それに対する意欲を来年以降も継続して頂けるよう期待しております。やはり年会長のようなカリスマ性が必要なのでしょうか。
※	ここ数年、口頭発表会場で席が全然足りない。立ち見している人も多すぎて前が見えない。
※	分子生物学会には何度も参加しておりますが、学術的な内容とは別の意味で学会を「面白い」と感じたのは今回が初めてでした。来年以降もこの流れを引き継いでいただけますようお願いいたします。
※	今回の挑戦を無駄にせず、ぜひ来年以降も画期的な企画を行ってほしい。
※	基礎的な研究の講演に関わる企画に工夫が欲しい。今回は本質的ではない部分に過度に力が入りすぎた印象を受けた。ここ数年で、植物分野の研究者にとって、まったく魅力のない学会になってしまったことが残念でならない。
※	本年の年会は大イベント的なノリで学会からの問題提起をおこないましたが、来年以降も大がかりでなくても良いので、何らかの問題提起があればと期待します。ただ来年以降の年会長の方はどう問題提起をおこなうのか、正直に言って困っておられるのではと思います。期待しております。本年の準備委員の皆様におかれてましては本当にお疲れ様でございます。
※	2050年のような企画は不要だと思います。
※	企業への就職を考えている大学院生にとって、学会において企業説明会などが受けられるのはとても良かった。特に、学会の開催時期が、一般的に就職活動解禁とされている12月の頭であったため、他所で合同企業説明会などが開催されている場合も多く、そういったものに参加できない学生には助かったのではないかと思う。今後は参加企業数をもっと増やして欲しい。
※	ITシステムは、今後も続けて欲しい。
※	ポスター発表を午前と昼と夕方に入れることにより2~3日の日程で会議を終了できます。(会場費の節約)ポスター演題が集まったところでアブストラクトを公表し、事前に希望を調査して人気の高いものをハイライトポスター発表(少し広めの飾りつきボードを用いて)プレゼンテーションしてもらい、などというのも会員の意識向上にとってプラスになるかもしれません。
※	・特別企画のひとつだったバイオデータベースのブースは、設置した場所が失敗だったと思います。ポスター会場に設置してあったほうが、お客さんは来たと思います。内容は勉強になるものが多かっただけに残念です。
※	トラベルグラントのシステムは人数を少なくしても維持していただけたらと願っています。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	総会では今年の意欲的な取り組みを来年は継続しないような発言もあったかと思うが、数年はこの方向性で試してみるのも、この学会がなにか面白いことをやっている、と社会に発信する為にも良いと思う。
※	準備が大変だったと思うが、新しい企画はとても良かった。
※	年々寂れていく生化学会に比べれば、分子生物学会は活気があり、今回も変革・改善していこうという気合は十二分に感じられた。ただ、今回に関しては、それらが研究現場の実情に見合った物かという疑問符が付く。ポスター演題やワークショップはこれくらい多くても学会に見合った物だと思うが、人材や研究環境の問題まで一気にやろうとするとプログラムが多過ぎる印象がある。
※	意欲的な新しい取り組みが多数あり刺激的な学会だったと思う。今後大規模学会のあるべき姿を模索してほしい。
※	いまのところ思い当たりません。
※	いろいろなものが並行して行われるので、また場所も離れており、ヒトの流れがよくなかったと思う
※	年会では学会員の希望を叶えるのが最大の使命。そこにバイアスがあっても、それは時流や歴史を反映する自然発生的なものではないか。それを受け入れることが大切。学会員の意志や希望をそこねる「調整」の全てに、合理的な根拠が本当にあるのか？ 偏見でみていないか？ 研究プロジェクトと学会とは明らかに異質なもののだが、混同している場合は無いか？ 分子生物学会の本来の趣旨や良さが、年々損なわれてきている気もします。
※	2013年12月13日 配信メールにありますように「これが実現すれば、他の小さな学会は、そのような負担から解放され、時間、研究費、労力を大いに節約できることになります。」という形で、大規模学会と小規模学会を差別化し、それぞれ節約できる所はする、という態度に賛同します。
※	各会場が離れていて、移動が大変だった。
※	「生命科学研究を考えるガチ議論」は毎回行ってもよいのでは。但し科学技術政策、研究費配分、大学のマネジメント・人事、ポストク問題、、、を一度に論じるのは無理なのでテーマは絞るべき。
※	学会の内容に偏りを感じ、あまり興味がなくなってきた。もっと、広範な領域の分子生物学の手法を使った研究領域にすべきと思う。
※	今回は、始まる前からとても楽しみにしていました。特にガチ議論は大きな価値のある内容だったと思います。それらを含め、近藤先生が狙ったことはヒシヒシと感じられた年会でした。とても楽しめたとし、来年以降にも繋がってくれたら、と思っています。委員会の皆さま、本当にお疲れさまでした。心より感謝申し上げます。
※	新しい事はどんどんやれば良いと思うが、一般研究発表が軽んじられているようなプログラム編成はどうかと思う。このアンケートでも各企画についていろいろ質問があるが、そもそも企画意図・企画の違いが良く解らないのに、全て個別に質問されても・・・年会長の熱意は認めるが、分子生物学会年会で、研究発表以上に大切なものがあるのでしょうか？？？？？？ポスター会場に全員が足を運ぶようにするにはどうするべきかがまず第一に考えるべき事では？だとすれば、自ずと今回のような会場割はあり得ないと思うのですが？
※	失敗してもいいので、新しい試みにぜひチャレンジしていただきたい
※	今後も参加していきたいと思う。
※	ポスター発表会場が複数になる場合は、可能な限り近くしてほしい。
※	・どの会場も立ち見の参加者がいて、席の確保が困難であった。・会場によってはスライドの位置が低く、後ろの席では見えないことがあった。
※	今回の企画は、今までにない新しい試みが多数あり、参加者も満足したかたが大半だと思います。自分が修士の学生だったころ(15年前くらい)は、分子生物学会に行けば最新の情報が得られるので、是非発表したいと思っていました。しかし、ここ数年では、学会自体にまとまりが感じられなくなり、参加に消極的でした。今回の企画を見たとき、非常に期待感が高まり久しぶりに参加しました。今回の企画を通じて巨大会場でできること、やらねばならない事が見えてきたように思います。理事長や大会長の、研究者の現状と社会との接点の重要性を見極める研究者大学人としての眼の確かさが、今回のような盛り上がりにつながったのだと思います。今回のような多様な企画があれば、絶対に参加しなければという気持ちになります。会員として、来年度にも期待したいです。
※	写真にいたずら書きをしよう！みたいなコーナーがあったように思います。やりすぎで品がなさすぎる。同じ学会員であることが恥ずかしかった。
※	1)企業ブースがポスター会場と離れていたため、例年よりも人が少なく感じた(スポンサーへの扱いがあまりにもひどいのは)。また、企業のミニセミナーにはほぼ全く聴衆がおらず、もったいないと感じた。今回は一般口頭発表がない分時間が余ったので、ぜひ参加しようと思ったが、タイムスケジュールや内容がわからず結局参加できなかった。プログラムをもっと積極的に告知するなどしてもよいと思う。2)トップレベルの研究者が集まる学会で、討論会を行うのはとてもよいと思った。3)アート企画はいらない。学会はあくまで勉強の場と考えているので、おかない雰囲気ですべて問題ないと思う。もしアート企画を行うとしたら、市民公開制にしたらいと思う。特に写真の展示は、展示者による説明時間を設けたりすると、一般受けすると思うので、社会貢献に繋がるのではないかと。4)海外ポストク招聘企画を知らないポストク研究者がけっこういたようなので、もっと積極的に告知してもよいと思った。
※	研究費が単年度で配分されており、一部を除き複数年にまたがって使えない、また異なった研究費を混合して使えない弊害についても、学会でとりあげてもらいたい。「研究費を業者に預けて」という「不正」が新聞に取り上げられるが、単年度で分割されて支給される研究費、省庁別に支給される研究費の弊害との関連を明らかにしてもらいたい。
※	今回と同じで無くてもいいので、来年以降も学会の個性を打ち出して欲しい。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	最終日イベントは是非またやって欲しいが、毎年行くと学会でなくなりそうなのとイベントの有り難みが薄れるので、3~4年に1度くらいのペースが良い。その際、分子生物学会以外での学会で、興味があるが規模など考えると実行が難しいところがあれば、その年は共同開催と言う形でやるのも手。興味があるなら分生に入会して、分生行けという意見もあるかも知れないが、複数の学会に所属しそれに全部行くより、1つで完結できる共同開催の選択肢や多くなりすぎた学会の再編統合を最終日イベントと言う口実を契機に考えるのも1つの方法ではないかと。
※	市民講座の充実、高校生の参加を増やすべき。シンポジウムの動画配信などやればよいと思う。合コンパーティーはいらない。
※	IT化に絶対反対。歩きスマホする奴ばかりで邪魔だったし、当日情報が手に入らない(スマホではないので)。
※	始めて参加しました。興味深い研究があり、刺激になりました。
※	本学会には最前線で研究されている先生方以外に最新の研究動向の情報収集を目的としている方(特に企業研究者)が多数参加されている。専門性が非常に高い内容で英語の発表の場合、少しでも専門外であると、格段に理解度が下がるため、内容的には興味があっても、日本語のセッションに流れるのである(学生も同様であろう)。日本語を日常言語としている参加者が99%を占める国内の学会なのだから、理想論は別として、聴衆の理解度を上げるためにシンポジウム等はなるべく日本語を使用すべきである。分子生物学会は個々の発表の質が高く、生物系の様々な分野の研究者が結集するため、異分野も含めた最新の研究内容に気軽に触れられる貴重な場であることを意識してもらいたい。
※	ITを活用し大物の研究者だけでなく、若い層の研究者の意見をくみ上げようとする姿勢は素晴らしいと思います。日本の研究の力を増やすための指針決定や、国や社会に対しての働き掛け、研究者に対する啓蒙など、巨大な学会にしか果たせない役割があると思うので、今後もこの学会の奮闘を期待します。方針やシステムを考えると、欧米のマネをするのではなく、日本にあった日本らしいシステムを考えるといいのではないかと思います。
※	企画フォーラムにも目が向けられるようにしてほしい
※	時間がかぶってほとんど聞けないものが多い。スリム化を目指すべき。
※	学会・年会企画、いくつかは来年度以降もレギュラー企画化していただきたい。
※	ポスター演題の冊子は、必要だと思う。
※	「がち議論」に参加しました。今まで聞けなかった話を聞いた点はよかったです、議論された話題が期待していた内容とずれていた点は残念だった。「JAZZ」や「アート」の企画については、時々あってもよいと思った。「不正」に関するフォーラムは、シンポジウム・ワークショップと時間が重ならないよう配慮していただきたい。
※	全員参加型の企画は面白かった。是非続けてほしい。
※	是非、来年も、今回の最終日のようなイベントを企画していただきたい。
※	国際会議場と国際展示場の距離が遠く、連続して聴きたいセッションがあった場合両方取るのが困難だったため、会場がもう少し近ければなあ…と思った。物理的に無理な場合、両会場でも聴けるよう、遠隔中継だったり、ユーストリームなどで配信してもらえたら良かったと思う。
※	神戸国際会議場の5階の会場は、半分より後ろに着席していると、スライドの下3分の1は見えません。これは、部屋の天井が低く、高い位置にスライドを映写できないためです。このような会場を使うことは止めていただきたいです。聴衆は多大なストレスを受けていると思います。また、このような部屋を割り当てられたワークショップは明らかに「はずれくじ」を引かれたこととなります。今後も、ポートアイランドで大会を開くと思いますが、是非とも、天井の高い部屋を確保してください。
※	今年初めての参加でしたが、とても勉強になりました。来年度も是非参加したいと考えております。
※	例年、年会では勉強になったとの感想を持つが、今回は非常にワクワクし楽しかった、との感想です。本アンケートですが、真摯に考えて、できるだけ自由記述にコメントを記載しようと思うと非常に時間がかかります。もし可能であれば、一時保存できる機能を付けてもらえると、助かります。
※	興味深い催しが多かったので参加したかったという気にさせられた。今後学部行事との日程の都合がつけば参加したいと考える。
※	年会企画が本気で取り組んでいるので、シンポジウムや各ワークショップにより効果をもたらしているように思った。座長やスピーカー陣も自由にやっという雰囲気が浸透していた気がする。これまで以上にアカデミックな場が盛り上がりつつあったのではないのでしょうか。
※	総じて素晴らしい学会であったと思います。ある意味、伝説となるでしょう。ありがとうございました。
※	ジャズとアート、どちらも無理かもしれませんがどちらかは今後の年会でも企画していただきたいです。
※	今回の「新しい分子生物学会年会」の形が、今後も続くことを楽しみにしています。
※	ポスター発表に関して、どういったスタイルで行うのか、HPを何度見てもよく分からなかったの、mbsj2013@aeplan.co.jpにメールしたが、返事がなかった。
※	今回ほど大胆な企画を継続するのは難しいかと思いますが、今回の流れを少しは残していただけると良いかと思います。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	巨大会であるからその、発信力や影響力のようなものが分子生物学会にはあると思います。日本の学会における、模範となるような新しい取り組みをしていくことに期待します。また、ガチ議論ではUstreamやSNSが有効に活用されていました。このようなツールをもっと積極的に様々な場面で利用していくことも考えて頂きたいです。近年とても気になっているのは、ワークショップとシンポジウムにほぼ区別がないと感じる事です。私の認識では、ワークショップは「先進的な研究をしている演者から皆で知識を学びましょう」、シンポジウムは「シンポジストがネタを提供して、会場全体でそのテーマについて議論をしましょう」というものだと思うのですが、シンポジウムも単に演者が講演して終わりというものが多いと思います。つまり、現在の分子生物学会は、議論の場としてほとんど機能していないということになるのではないのでしょうか。ただ講演を聴くだけなら学会に参加する必要は無く、ストリーミング配信だけで十分です。やはり学会の本質は、直接会ってしっかり議論をすることだと思います。
※	一研究者として、自分の研究ができ知的好奇心を満たせればそれで幸せなのですが、そうした幸せを維持するためには、取り組まなければならない様々な問題があるということに気付かされた学会でした。幸せに研究を続けていけばもっと後まで気付かなかったらうし、気付いた時点ですでに手遅れかもしれない問題ばかりでした。そうした問題意識の芽生えや問題に対して具体的に何が出来るかを考える良いきっかけになりました。アート企画やジャズ企画などは、アウトリーチという意味合いだけでなく、純粋に学会会場内に存在した心地よい空間として楽しめました。すべてを毎年行うのは大変かもしれませんが、それぞれの企画を隔年で行うなどの工夫をして、継続してもらいたいと思います。最後に、数々の工夫を凝らした企画の計画・運営お疲れさまでした。
※	会場の部屋が狭く、聴講したい演題があっても部屋に入ることすらできなかったのも、席数は考慮してほしかった。ただ、全体として楽しめた学会であった。
※	椅子が足りず立ちながらセミナーに参加することが多かった。もっと広い部屋でキャパシティを増加して頂きたい。
※	繰り返しになるが、一般参加者の口頭発表の機会がまったくないのが最も問題である。また、絵画のスペースや音楽の演奏など、娯楽の要素も悪くないかもしれないが、ポスター会場を離れたところに設置することになってしまうような、本末転倒な企画はやめるべきである。
※	10年ぶりに参加しましたが、先進的な学会スタイルに驚きました。異分野の話から共同研究が生まれ参加した甲斐がありました。どの会場も立ち見ばかりで、できればより大きい会場が希望です。
※	会場のエアコンが効きすぎていて、とても暑くてしんどかった。
※	デジタル化にフォーカスしすぎて、研究発表の場が少ない。
※	生化学会との合同開催(毎年を希望)合同だったり、単独だったり、誰がどういう理由で決定しているのか、両学会にしっかりと説明してほしい。また、その説明責任はあると思う。
※	大きい学会で新しい人と知り合えるかと期待していましたが、逆に大きすぎて、皆さん自分の知り合いと話すばかりで、つながりがあまりない私には入っていけない感がありました。大きな学会ゆえに、ネットワーク作りを助けるような企画がもっとあってほしいと思います。しかしながら、いろいろおもしろい企画があり、すごく工夫もされていて、近藤先生はじめ、企画に携わった人たちの素晴らしい努力は見えました。今後もこういった企画があると嬉しいです。
※	今回の海外研究者招聘企画で参加させてもらった。自分が恩恵に預かったからだけでなく、客観的に見ても魅力的な発表が増えて非常にいい試みだったと感じた。留学に興味のある学生が質問に来る、関連分野の国内研究者と最新の情報の共有ができるなど、国内の研究者にとっても有意義であったと思う。ただ、米国東海岸からの航空券には10万円では足りず、例えば居住地区に応じて支給額を変えるなどの制度があると更にいいかもしれない。全体を通して年会委員会の「学会を変える」という意気込みや取り組みが伝わってきて、これから期待できる素晴らしい年会だったと思う。もう10年近く分生に参加してきたが、今回が一番「チャレンジ」を感じた学会だった。委員会の方々、本当にありがとうございました。来年また参加できることを楽しみにしています。
※	神戸での開催に参加したの二度目でしたが、やはり朝の電車も混むし、会場はバラバラですし不便でした。大きい学会なので、開催できる場所が限られていることは分かりますが、もう二度と行きたくないです。
※	様々な場面で他の研究者とコミュニケーションができる機会があってよかった。
※	年会長はじめ、みなさまご苦労様でした。
※	学会として意見を主張したり、新しい研究分野創成のきっかけを作ることは賛成であるが、もっと事前に練らないと、雑多な雰囲気になってしまっていた。イベントを沢山やるよりも、学会本来の姿に戻り、偉い先生方がポスターを一つ一つ見て回り、鋭いコメントをするような緊張感のある大会にすべきである。立ち見の会場がある一方、閑散とした会場もあったので、会場規模の選定をもっと正確にやる必要がある。全部のテーマを毎年やるのは参加人数も多くて大変なので、大きくテーマを二分して、重点的にやるテーマを交互にしてはどうか？
※	学会の意義を考えさせられる非常に素晴らしい学会でした。今後もこういう意識を持って学会運営に当たって欲しいと思いました。
※	参加人数が多く大規模になってしまっているのも複数会場での開催はしょうがないですが、できれば会場間が近い場所での開催をお願いします。
※	オーガナイザーの方々、お疲れさまでした。
※	とても良かったです。感動しました。
※	分生年会の存在意義は以前不明であり、今後も問いかけが必要と考えます
※	ポスター会場1が他と離れていました。移動時間短縮のために、なるべく近くにしてほしいです。
※	プログラムを見ても何が行われるのか、よく分からないことが多いので、メールでその日か次の日の内容を配信するのはよい方法だと思いました。
※	日本分子生物学会のあるべき方向性を打ち出した歴史に残る学会だったと思います。来年以降もこの方向性はぜひ踏襲して欲しいと強く感じます(コピーである必要はないですが)。
※	他学会でみられるような、地区ごとの支部会があってもよいのではないのでしょうか。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	今回のようなITを多用した取り組みは、今後もある程度継続していただけるとよいと思う。
※	生化学会でも同じことが言えるが、学術的な情報交換をする目的からすれば、分野ごちゃまぜ・同時進行の大規模学会には限界を感じる。KeystoneやGordon conferenceのようにテーマ別分科会にして、時期をずらしながら全国各地で開催してみてもどうか？
※	4年ぶりに参加したが、頭の中をrefreshさせたり、最近の流行的な実験、結果をfollowするのに役立った。毎年参加するのはあまり価値がないように思ったが、隔年または3年ごとくらいに参加する事ができれば、役に立つ学会であると思う。
※	近藤滋年会長、お疲れ様でした。正月はゆっくり体を休めてください。それでは、良いクリスマスを。
※	ポスター会場が端と端にあったため、気付かずに見れなかったポスターがありました。地図やシンポジウム要旨等もすべてデータ化されてオンラインで見られると嬉しいです。また、システムの使用方法が書かれていなかったため、使い方を自分で操作して分かるようにするのは、難しい人には難しいと思います。twitter発信もいいですが、もう少し、HPでの発信を増やしてください。「各演題・演者ページの各種リンクやレコメンドが役に立った」という上記の問いですが、レコメンドなるものが存在していたことすら知りませんでした。
※	ITでのプログラムは、オフラインでも使えるようにしてください。冊子のプログラムを用意してください。生化学会と合同で年会を開催してください。よろしく願いいたします。
※	学会に参加せず抄録のみオンライン要旨閲覧の場合、料金1万円となっていますが、当日参加登録費の1万5百円に比べて殆ど同額であり、高すぎると思います。
※	今回はいろいろと新しい企画を立てて開催した。その努力は認める。しかし、そのほとんどが企画倒れであった。ITは全般的に導入すればそもそも学会に参加する必要がなくなる。アナログで人と人が対話することに学会開催の意味がある。発表タイトルを見るのにいちいちウェブでキーワード検索しなければならないのが煩わしい。すぐ次の演題に類似の発表があっても、キーワードの設定が違っていれば気付かないことがある。冊子体は必ず必要である。IT企業と結託して経費を浮かせようとする魂胆が許せない。
※	このような年会を企画することは大変勇気があることであり、その実現への労力は大変なものであったと容易に想像できません。本年会は、分子生物学会の新たなコンセプトを提案するうえで十分インパクトがあり、各参加者も学会の新たな魅力を見いだせた年会であったと思います。来年以降の年会については、企画を引き継ぐだけでなく、新しいチャレンジも行って頂ければ、分子生物学会はより活性化すると思います。本年会の企画・運営に携わった皆様方のチャレンジ精神と努力に対し、深い敬意を表すとともに、今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました。
※	近藤先生、近藤先生の下で初めての「トンデモ学会」を実行された下働きのみなさん、本当にお疲れ様でした。
※	JAZZ企画は是非、毎回、実施しましょう！
※	会場の案内表示が分かりにくかった。できれば地図入りでの表示があると嬉しい。例えばランチョンセミナーの整理券の配布場所などは非常に探すのに苦労しました。
※	ポスター、ワークショップ、シンポジウム等さまざまなイベントの会場が、あちこちに分散していて、移動が面倒だった。特に寒い時期だったので、移動の度に屋外に出なければならぬのは苦痛だった。すべてのイベントを一つの大きな建物の中で行なってもらえれば、上着を預けておくことも出来て良いと思った。
※	これだけネットが使えると知人との連絡は学会は必要ない。今回おもしろかったのはイイねしてくれた人が聞きに来てくれるとよけいに親しみがわいたこと。
※	何年も参加している先生方には「マンネリ」でも、毎年新しい学生が参加する学会であるので、「マンネリ」でもよいのでは？
※	意欲的な企画を立てていただいた年会長、年会委員会の皆様に感謝します。アーティストを招いた事で新たな発想が生まれ、聴衆を増やす経緯になるかも知れません。アート企画は継続すると共に文芸関係者なども引き込む事で有効なアウトリーチ活動になると思います。大先生の顔に落書き、は企画としてはまずかったです。
※	是非今回の年会の内容を続けてほしいなと思いました。第37回年会のHPで徹底的に議論する的なことが記載されていましたが、今回の年会に参加して、それは専門の研究会で行えばいいのかなと思いました。今のままの37回HPの内容だと授業や実習もあるし不参加かなと思います。
※	参加したいセッション、ポスター発表、企画がオーバーラップしていたため、すべてに参加できなくて残念だった。すべてを取るのには難しいかもしれないが、朝早い時間、夜遅い時間なども活用できるとよかった。
※	ポスター演題の採択率ほぼ100%はやめろ。50%くらいにしてもまだカスな発表が混じる。横浜か神戸しか会場が設置できないのは無駄に肥大化した成れの果てだ。
※	横浜、神戸ばかりで飽きてきたので、他の開催地をもっと検討してほしい。
※	来年というか今年は反動が来るのを覚悟しつつ、それでもやはり何かに挑戦してくれることを期待しています。
※	理事会の企画で実施しましたフォーラム「研究公正性の確保のために今何をすべきか？」は、大変タイムリーで、良い企画だと思いましたが、シンポジウムやワークショップの時間帯に重なっていて、参加できず、残念です。
※	実現に奔走された裏方のみなさんに敬意を表します。参加していなくても活気が伝わってきました。1999年の福岡ドームのようなワクワク感がありました。
※	今回の学会は、まだ科学に深く踏み込んでいない学生にも非常に楽しめたと思います。気難しくて、格式張った垣根をいったん乗り越えれば、サイエンスのすばらしさに気がつくこともできる、そのきっかけの一つとして、今回の学会のコンセプトは非常にすばらしく思いました。後輩に、「学会って、とっても楽しいところなんだよ！」って話して聞かせることが出来てうれしかったです。
※	学会とJAZZの融合を来年もして欲しい。人とのつながりが増える。

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと

※	その他記述
※	今回のJAZZ企画のように、小さめのコミュニティで様々な分野の研究者が集まれる場所があれば、新たな研究の芽を育てることができると思う。研究では人と人とが知り合うことは大事なことだと思うので、今後も続けていきたい。そのようなコミュニティに対する学会の関わりは、もしかしたら今回のような学会特別企画ではなくもう少し簡単なものでもいいのかもしれない。しかしこのような規模の学会の存在意義を考えると、学会が研究者の交流を促進する役割を持つのも重要ではないだろうか。
※	ぜひ、これからの学会でもJazzやアートなどの企画を継続してほしい。
※	近藤滋先生、よくやったケツの穴のちいさい批判にまげずガンバレ！応援しています
※	「大屋食会」のような試みは今後も是非継続して行ってほしいと思います。学生から大御所の先生まで、みんなが楽しめる学会は大変素晴らしいと思います。ありがとうございました。
※	ジャズ企画を今後とも続けて欲しい。
※	今回はよい学会でした。ぜひ次回以降も意欲的な「学会」を提案してほしい
※	非常に工夫のこらされた学会だったと思います。サイエンスセッションとそれ以外(アート、ミュージックetc)が両方参加出来る工夫も今後必要かと思いますが、今後もなんらかの形で是非続けたいと思います。
※	新しい試みをふんだんに盛り込んだことはよかったと思う。ただしうまくいった企画もあればスカだったものもあるので、十分に検討して次年度以降に活かして欲しい。こうした試みを4~5年続けてはじめて、ようやく学会がよくなってくると思う。
※	・ITシステムと併用で、ポスター発表のタイトル・発表者名・所属だけを紙媒体にて配布することを強く希望します。・大多数を占めるポスター発表を重視することで、学生も発表することに意義を感じるようになります。今学会は、ポスターだけ貼って、実際には同窓会という学生が多かったと感じます。
※	年会費を安くしてほしい。
※	年会長に形式を一任するには、どうかと思います。理事会である程度方針を決めた方がいいと思います。近藤年会は楽しかったですが、次にやる人は大変ですね。皆様、お疲れさまでした。
※	そもそも、分子生物学会をどうすべきかを先に議論するべきではないだろうか。
※	いろいろな点で意欲的な年会で、とても良かったと思う。年会長をはじめ、準備にあられた方に敬意を評したい。
※	・ショービズ要素を増やして欲しい・飲食ブースの充実
※	今回みたく、分生でなければできないものにしてほしい(他の学会と差別化してほしい)
※	来年以降も海外で働く日本人ポスドクへの旅費支給制度を設けて頂けると嬉しいです。金銭面で助かるだけではなく、分子生物学会から支援を受けるということがステイタスになりますので(ついでに締切が遅い時期であればあるほど助かります)。助教&ポスドク同士のネットワークを広げるための企画や、ポスドク向けの就職活動・キャリア情報収集の場も設けて頂けると嬉しいです。
※	分子生物学会は、自由な発想、自由な人々の参加があってもいい学会です。確か、1980年代の仙台の学会で、トラックの運転手が、「ウイルスは生命体か非生命体か」というのを発表していました。畑中先生の本にはこう書いてあるとかを含めてです。研究者だけの学会にするのではなく、一般の人、小学生を含めて参加出来る学会にすることで科学技術研究費を税金から賄うことの理解を得られるし、なんといっても将来、分子生物学者になりたい子どもの教育にもなりますし、その親の理解にも繋がります。今回の年会に終わらない素敵な学会にしてください。
※	社会への発信力があり、大変素晴らしい学会でした。Jazzを通じて多くの研究者と知り合う機会が生まれ、ヒューマニズムを支えられた研究のネットワークの可能性を感じます。今後とも、Jazzを続けたい！！
※	まずこのアンケート欄に文字制限があるのならはじめから教えてほしい。書いてから文字が多すぎるといわれても困る。なので分割しました。最後の市民公開講座にも参加しましたが、誰も市民が入ってくるのを見ませんでした。分生の人たちだけです。一般社会が注目するイベントとしての学会を目指しているのに、なにかおかしい気がしました。そもそも、一般の方は学会に参加したいと思うだろうか。SFTークショー「2050年シンポジウム」は一般の人が見ても面白い内容だったと思います。専門的な知識がなくても理解できるので、2050年シンポジウムから市民参加を許して良いのではないかと思った(らいねんがあれば)。このシンポジウムがテレビに放映されるのはたいへん良いことだと思う。この機会に、分子生物学会こそ、大きな学会として生き残れる唯一の学会になってほしい。市民の支持を受けて！毎年、近藤滋先生に年会長をやってほしいくらいだ！
※	・今後は、不正問題やポスドク問題以外にも、ラボの中で起こっている問題に対処してほしい。ポスに対する不満、いじめ、アカハラやセクハラなど。なかなか表に出ない問題に切り込んでほしい。そして、最近は鬱になってしまい、ラボに来られなくなる人が増えているので、対処事例も伺ってディスカッションしたい。・ガチ議論だけでなく、いろいろな企画を配信してほしい。この輪に加わりたい、行きたいと思う人が増えるのではないだろうか。・快適で安全なラボ(古いところだと、そうでないことが非常に多いと感じる)にするにはどうすればいいのか、ラボの立ち上げ、ラボのリノベーションなど、事例を紹介する企画が欲しい。やっている実験の内容やラボの規模でいろんな状況があると思うので、そのまま参考にするのは難しいかもしれないが、・今後の年会でも何か企画をしてほしい。むしろ、なにかやりたかったら手を上げればやることできるように、間口を広げてほしい。よろしく願い致します。
※	規模が大きくなり硬直化した感がある本会ですが、奇抜ともとれる企画の数々で自らの再生をはかろうとする、そんな柔軟で刺激的な度量のある学会であり続けてもらいたいと願います。